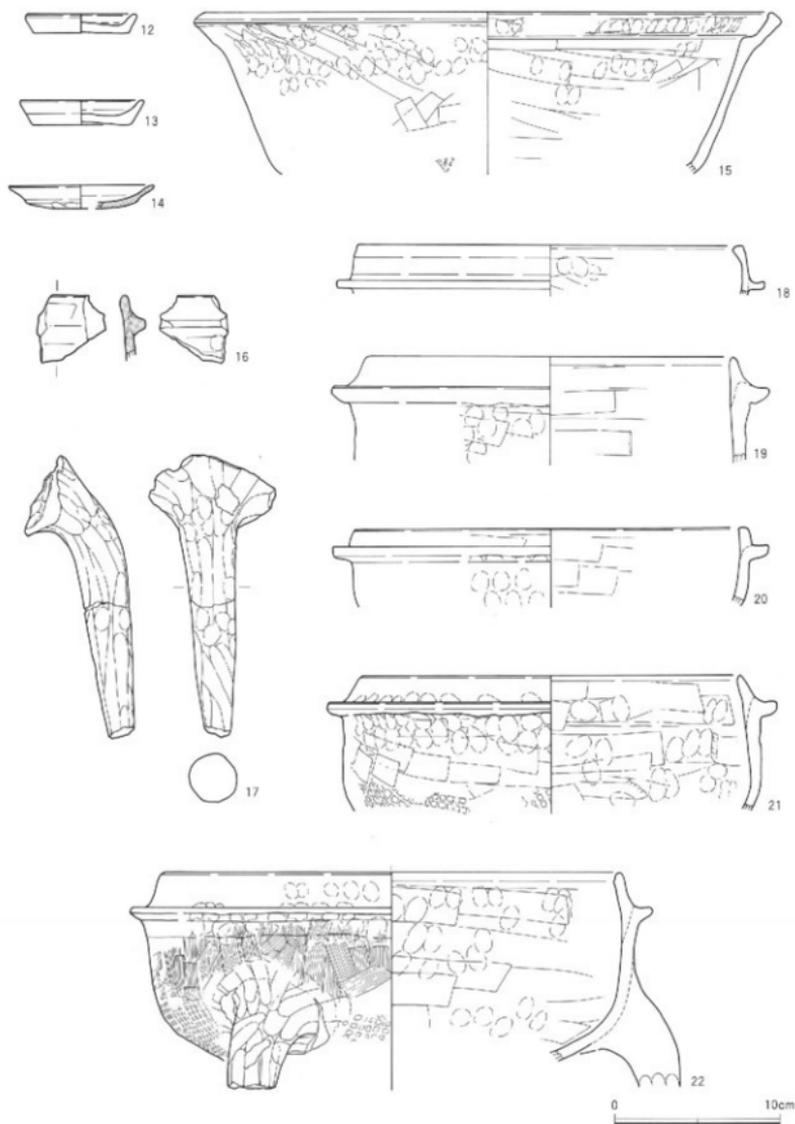


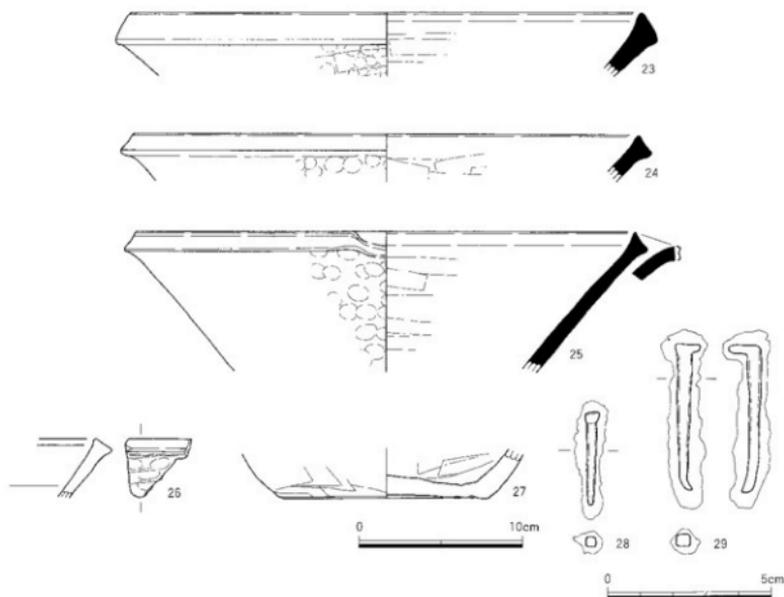
第61図 I地区SX1001遺構実測図

焼土坑。平面形は不整な長楕円形を呈し、南端部で幅が狭まる。底面は凹凸が少なく、北へわずかに下がる。断面は浅い皿状で、埋土は2層に分層。1層は黒褐色を呈し、炭化物片や焼土を多量に含む。出土遺物に羽口片やスラグを伴うが、遺構の形状から鍛冶炉ではなく炭窯に酷似している。

遺物は北半に集中。土師器煮炊具、須恵器蓋・甕か、土師質土器片・煮炊具脚部・羽釜・鍋、瓦器片、羽口、鉄滓が出土。9は須恵器蓋。やや薄手で、焼成不良品。10は土師質土器羽釜。鈎部は貼り付けで、直下に指爪痕が明瞭。11は土師質土器煮炊具の脚部。羽釜の体部下位に付き、大きく逆L字状に屈曲する。出土遺物から13～14世紀代の遺構とみられる。



第62图 I地区SX1001遗物实测图(1)



第63図 I地区SX1001遺物実測図(2)

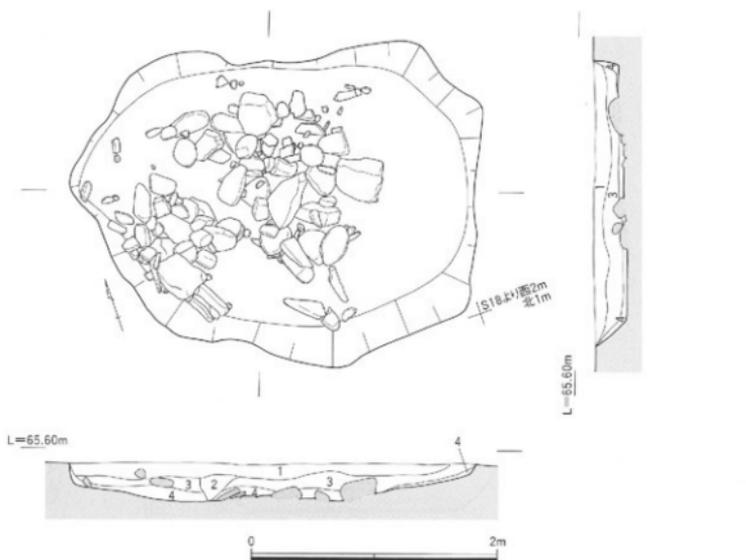
不明遺構1号 (I地区 SX1001) (第61~63図)

I-1北区中央部北端、A・B16・17グリッドに位置し、北は調査区外に延びる。南北検出長490cm東西長434cm深度47cmを測る土坑状遺構。平面形は不整な隅丸方形で、西側に浅い突出部あり。断面は逆台形状で、底面は概ね平坦、埋土は4層に分層できる。全層で少量の炭化物片が出土。第4層上面で遺構中央部の南北220cm、東西380cmの範囲に、人頭人の砂岩・結晶片岩礫を集中して検出。

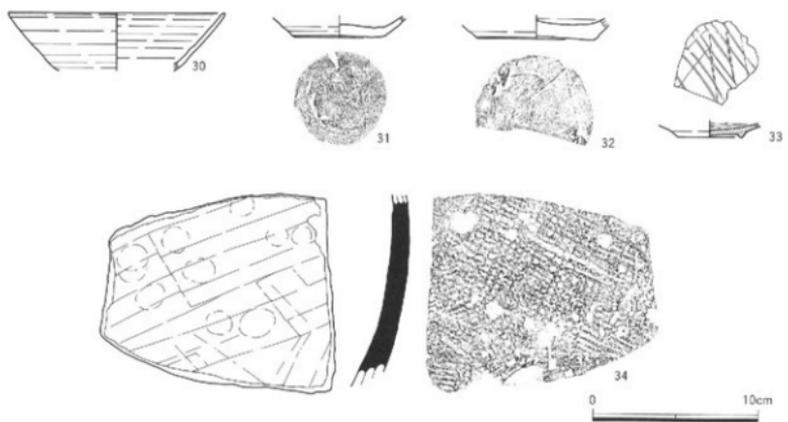
遺物は土師器煮炊具・杯(回転ヘラ切りほか)・椀・鍋、須恵器杯・甕、土師質土器片・鍋(格子タタキほか)・杯(回転糸切り・回転ヘラ切りほか)・皿(回転糸切りほか)・鉢・煮炊具脚部・羽釜・甕、瓦器皿、瓦質土器羽釜、須恵質土器捏鉢、土釜、羽口、鉄製品片、鉄釘が出土。

12・13は土師質土器皿。底部外面に回転糸切り痕を残す。14は瓦器皿でヘラミガキは確認できない。炭素吸着良好。和泉型瓦器Ⅲ-3~Ⅳ期併行と考えられる。

15は受口状口縁をもつ土師質土器鍋。底部外面に格子タタキを施し、口縁から体部内外面上位に連続した指頭圧痕を残す。16は瓦質土器羽釜で鈿部は貼り付け、鈿端部は方形に作る。炭素吸着不良。京都山城地域産の搬入品とみられる。17は土師質土器煮炊具脚部。体部下半に取り付く。18~22は土師質土器羽釜。鈿部は18が貼り付け、他は折り曲げ技法で作る。18は器壁が薄く、高い口縁をもつ。両端部を方形に作る。19は器壁が厚く、直立した体部をもつ。20は両端部を方形に作る。体部内面の板ナデは非



1. 暗灰黄色2.5Y4/2砂質土 (しまり強)
炭化物片含む
2. 暗灰黄色2.5Y4/2砂質土 (しまり弱)
炭化物片わずかに含む
3. 黄褐色2.5Y5/3砂質土 (しまり強)
炭化物片含む
4. 黄褐色2.5Y5/4シルト (しまり弱)



第64図 I地区SX1002遺構・遺物実測図

常に細かなハケ。21・22は底部外面に格子タタキを施す。22の体部外面は細かなハケで調整。

23～25は東播系須恵質土器摺鉢で、いずれも口縁部が肥厚。森田編年の第Ⅱ期、12世紀中葉～13世紀初頭とみられる。26は土師質土器鉢である。口縁は内外に拡張。外面に炭素付着し、東播系須恵質土器の焼成不良品の可能性あり。27は土師質土器壺の底部。外面に禾本科植物の葉や茎部とみられる不規則な爪痕あり。28・29は鉄釘で、頭部を逆L字状に折り曲げて頭部を作る。

遺構の年代は、出土遺物から概ね13世紀代と考えられる。

不明遺構2号（I地区 SX1002）（第64図）

I-1北区東部中央北寄り、S17グリッドに位置する、長軸332cm短軸262cm深度34cmを測る不整形の土坑状遺構。断面は不整な逆台形状で、埋土は4層に分層。底部付近で人頭大の礫を検出。

遺物は土師器片・煮炊具、須恵器片、土師質土器片・杯・煮炊具脚部・鉢・羽釜、瓦器椀、須恵質土器壺、青磁片が出土。30～32は回転台成形の土師質土器杯。30は外側に直線的に開く薄い体部をもつ。31は底部外面に回転ヘラ切りのち板目痕、32は回転糸切り痕を残す。33は瓦器椀の底部で、見込みで斜格子状のヘラミガキ陪文を施す。和泉型瓦器椀Ⅲ-3期、13世紀前葉とみられる。34は須恵質土器壺の体部で、外面は格子タタキを施す。

小穴1号（I地区 SP1001）（第65図）

I-1北区西端部北端、B15・16グリッドに位置する、長径85cm深度51cmを測る楕円形の穴。埋土は7層に分層される。遺物は土師器片、須恵器片、土師質土器片・杯・羽釜、青磁碗が出土。35は青磁碗。体部外面に竊迓弁文をもつ。軸は透明度が高く、貫入を伴う。大宰府分類の龍泉窯系青磁碗I-5b類、13世紀前半である。36は土師質土器羽釜。高めの口縁をもち、口縁および鈎端部を尖り気味に仕上げ。鈎部は折り曲げ技法で作る。遺構の年代は、概ね13世紀代と考えられる。

小穴34号（I地区 SP1034）（第66図）

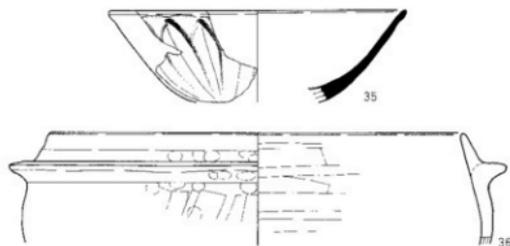
I-1区東部北側、A17グリッドに位置する、径27cm深度16cmを測る円形の穴。埋土は4層に分層。出土遺物は1点のみで、37は土師質土器煮炊具の脚部。体部との接合面は幅1cmの板ナデを施す。

小穴70号（I地区 SP1070）（第67図）

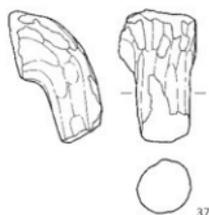
I-1区中央部北寄り、S16グリッドに位置する、径35cm深度28cmを測る円形の穴。埋土は4層に分層できる。遺物は土師質土器片・杯が出土。38は土師質土器杯。回転台成形で、底部外面に回転糸切り痕を残す。13世紀前後とみられる。

小穴71号（I地区 SP1071）（第68図）

I-1区中央部北寄り、S16グリッドに位置する、径30cm深度14cmを測る円形の穴。埋土は3層に分層できる。出土遺物は1点のみで、39は土師質土器皿である。底部外面に回転糸切り痕のち板目痕を残す。13世紀前後とみられる。



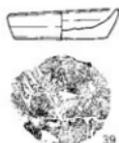
第65図 I地区SP1001遺物実測図



第66図 I地区
SP1034遺物実測図



第67図 I地区SP1070遺物実測図



第68図 I地区SP1071遺物実測図



I-2・3区 (第69図)

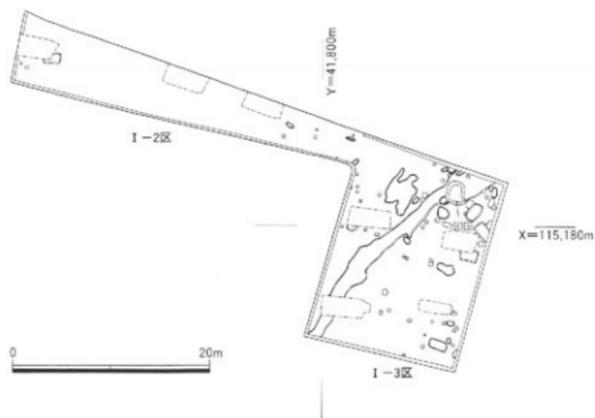
I-2区は本遺跡最西端にあたる調査区で、遺構密度は低くわずかにSK4基、SP7基を検出したにとどまった。本調査区は加茂谷川が形成した扇状地の末端にあたり、砂礫層の堆積が顕著。本来の遺構面は砂礫層に形成されているが、遺構の判別が困難であるため砂礫層直下で検出作業を行った。これによりある程度の深度をもつ遺構のみが検出し得た。遺物の上は低調で図示し得るものはなかった。I-3区は砂礫層の堆積も比較的薄く、SK20基・ST1基・SX1基・SP43基・SR1基を検出。

土坑53号 (I地区 SK1053) (第70図)

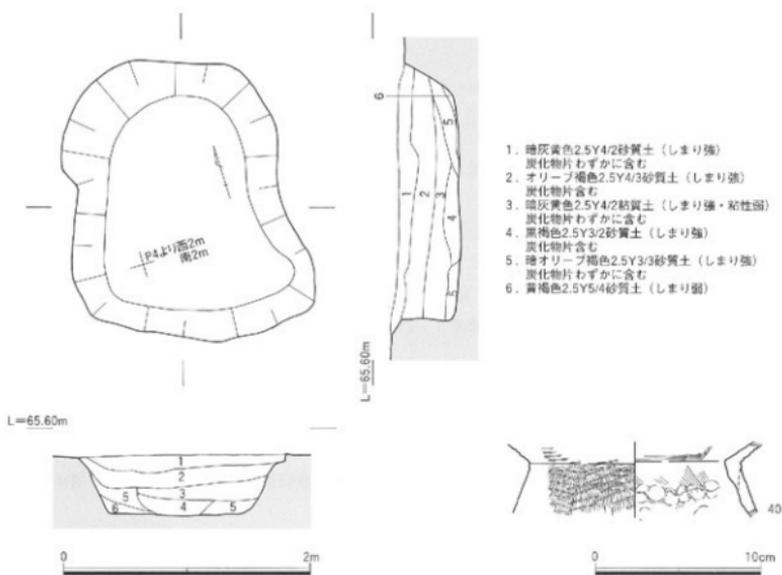
I-3区東部北端、O3グリッドに位置する、長軸220cm短軸195cm深度50cmを測る不整形土坑。断面は逆台形状で、埋土は6層に分層できる。遺物は弥生土器甕、土師器片・煮炊具、土師質土器片が出土。40は弥生土器甕。外面は平行タタキのちタテハケ、内面はユビオサエのちハケを施す。

I-4・5・6区 (第71図)

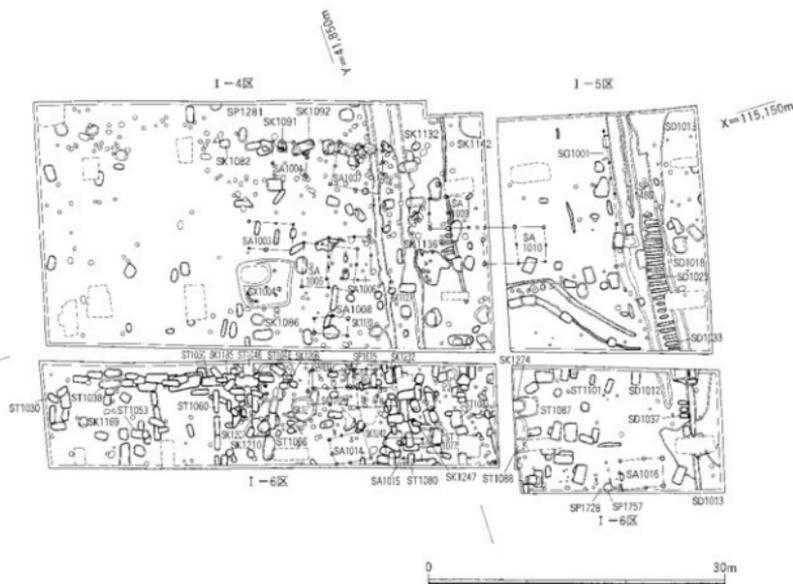
I-4・6区の西部では砂礫層が厚く堆積しており、砂礫層直下まで掘り下げて遺構検出を行ったため、ある程度の深度をもつ遺構のみを検出し得た。I-4区ではSA7棟、SK78基、ST8基、SD7条、SX2基、SP225基を検出。I-5区ではSA1棟、SG1基、SK24基、ST9基、SD26条、SP61基を検出。I-6区ではSA6棟、SK133基、ST76基、SD6条、SP257基、SR1条を検出。建物はI-4区東部からI-6区中央部にかけての約30m間に集中する。またI-6区で長軸1m以上短軸0.5m以上の長方



第69図 I-2・3区第1遺構面遺構配置図



第70図 I地区SK1053遺構・遺物実測図



第71図 I-4・5・6区第1遺構面遺構配置図

形を呈する土坑が多数検出されたが、遺構の形状や規模・主軸・埋土等から土壌基を選定した。

掘立柱建物3号（I地区 SA1003）（第72図）

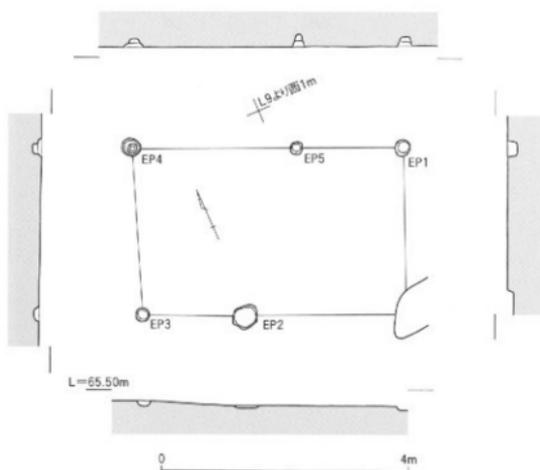
I-4区中央部、K・L8・9グリッドに位置し、南東隅を遺構に切られる。東西2間（4.4m）南北1間（2.7m）床面積11.9㎡、5基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸はN67°Wを向く。柱穴の平面形は円形または不整形で、径22～45cm深度3～21cmを測る。遺物はEP4から土師質土器片が出土。

掘立柱建物4号（I地区 SA1004）（第73図）

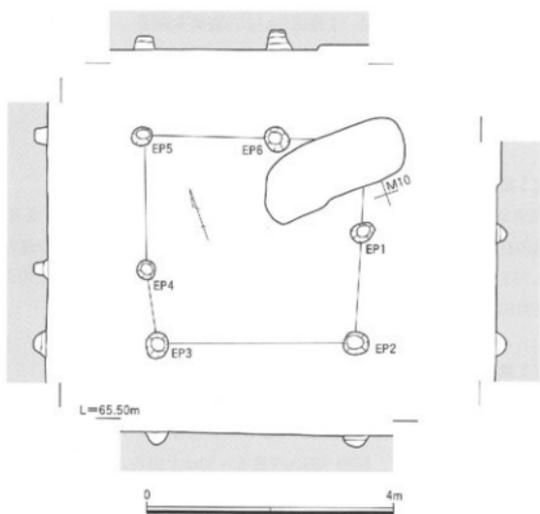
I-4区中央部北側、L・M9グリッドに位置し、北東隅を遺構に切られる。東西推定2間（3.4m）南北2間（3.4m）床面積11.6㎡、6基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸はN69°Wを向く。柱穴の平面形はいずれも円形で、径32～45cm深度18～32cmを測る。遺物は皆無であるが、切り合い関係から本遺構の年代は中世と考えられる。

掘立柱建物5号（I地区 SA1005）（第74図）

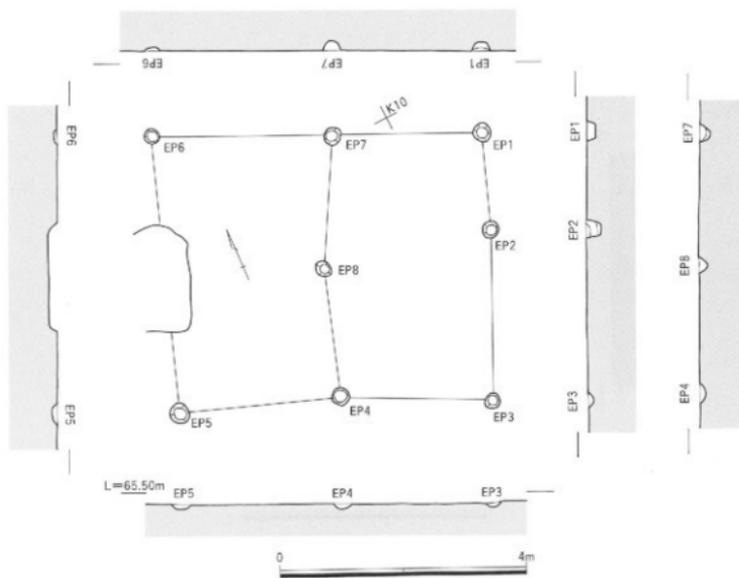
I-4区中央部南寄り、I-K8～10グリッドに位置する。東西2間（5.3m）南北2間（4.4m）床面積23.3㎡、8基の柱穴をもつ掘立柱建物で、建物主軸はN64°Wを向く。柱穴の平面形はいずれも円



第72图 I地区SA1003遺構実測図



第73图 I地区SA1004遺構実測図



第74図 I地区SA1005遺構実測図

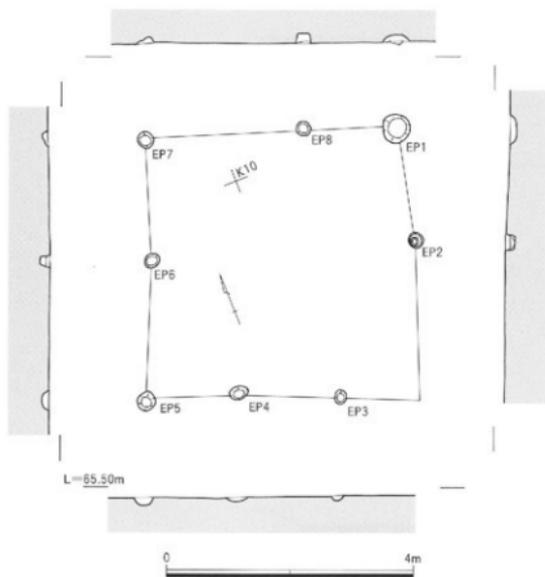
形で、径24～35cm深度6～22cmを測る。出土遺物は1点のみで、EP7から底部外面に格子タタキを施す土師質土器煮炊具が出土。

掘立柱建物6号（I地区 SA1006）（第75・76図）

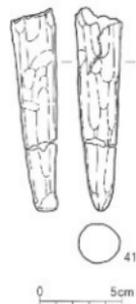
I-4区中央部南寄り、J・K9・10グリッドに位置する。東西2間（4.3m）南北2間（4.1m）床面積18.9㎡、8基の柱穴をもつ隅柱建物で、建物主軸はN20°Eを向く。南東隅の柱穴を欠く。柱穴の平面形はいずれも円形で、径24～48cm深度4～18cmを測る。出土遺物はEP6出土の1点のみで、41は土師質土器煮炊具脚部である。

掘立柱建物7号（I地区 SA1007）（第77・78図）

I-4区中央部北側、K～M10・11グリッドに位置し、南東隅を遺構に切られる。東西2間（4.8m）南北推定3間（4.5m）床面積21.6㎡、8基の柱穴をもつ隅柱建物で、建物主軸はN59°Wを向く。柱穴の平面形は円形または隅丸方形で、径29～39cm深度6～20cmを測る。出土遺物はEP2出土の1点のみで、42は青磁皿である。釉に貫入を伴う。底部内外面に露胎部がみられ、見込みは円形の軸測ごとみられる。15世紀頃とみられる。



第75図 I地区SA1006遺構実測図



第76図

I地区SA1006 EP6遺物実測図

掘立柱建物8号 (I地区 SA1008) (第79・80図)

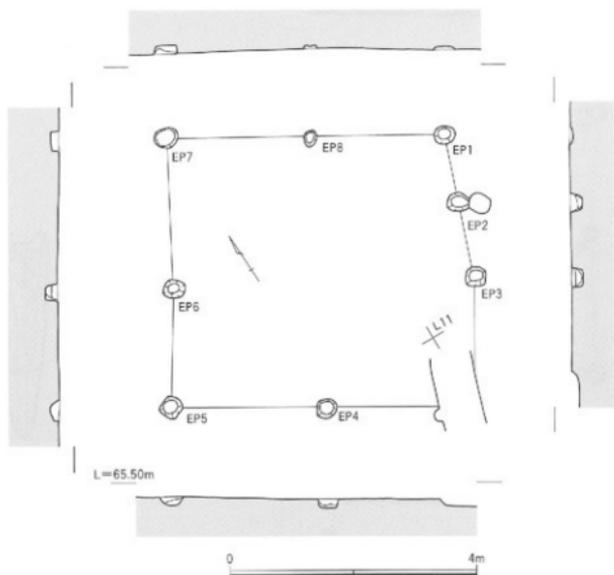
I-4区中央部南端、I8・9グリッドに位置する。東西2間(3.4m)南北1間(1.7m)床面積5.8㎡、5基の柱穴をもつ掘立柱建物で、建物主軸はN68°Wを向く。柱穴の平面形は円形または隅丸方形で、径26~44cm深度8~26cmを測る。遺物はEP1・2から土師器片、土師質土器片・杯・煮炊具脚部が出土。43はEP2から出土した土師質土器煮炊具の脚部。体部との接合面に体部の格子タタキが陰刻される。

掘立柱建物9号 (I地区 SA1009) (第81図)

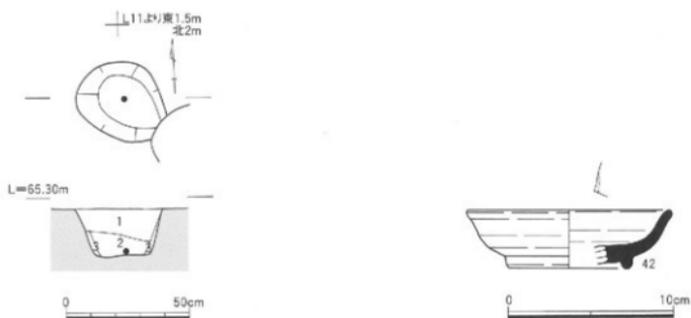
I-4区東端、J・K11・12グリッドに位置する。東西2間(4.0m)南北2間(3.2m)床面積12.8㎡、8基の柱穴をもつ掘立柱建物で、建物主軸はN75°Wを向く。柱穴の平面形は円形または楕円形を呈し、径28~86cm深度6~30cmを測る。遺物はEP3・8から土師質土器片、鉄釘が出土。

掘立柱建物10号 (I地区 SA1010) (第82・83図)

I-4区東端から1-5区西端に跨る、I・J12~14グリッドに位置する。東西2間(6.1m)南北2間(3.6m)床面積22.0㎡、9基の柱穴をもつ掘立柱建物で、建物主軸はN72°Wを向く。柱穴の平面

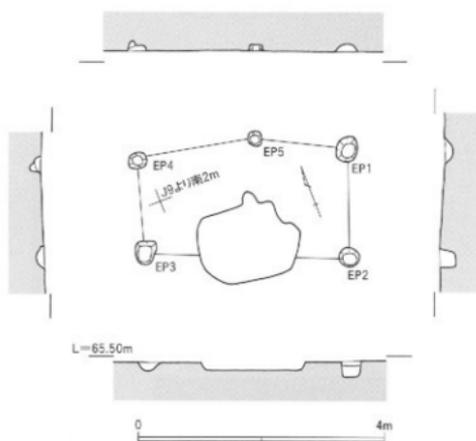


第77図 I地区SA1007遺構実測図



1. オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土（しまり強）
2. 黄褐色2.5Y5/3砂質土（しまり弱）
3. 緋灰黄色2.5Y5/2砂質土（しまり強）

第78図 I地区SA1007 EP2遺構・遺物実測図



第79図 I地区SA1008遺構実測図



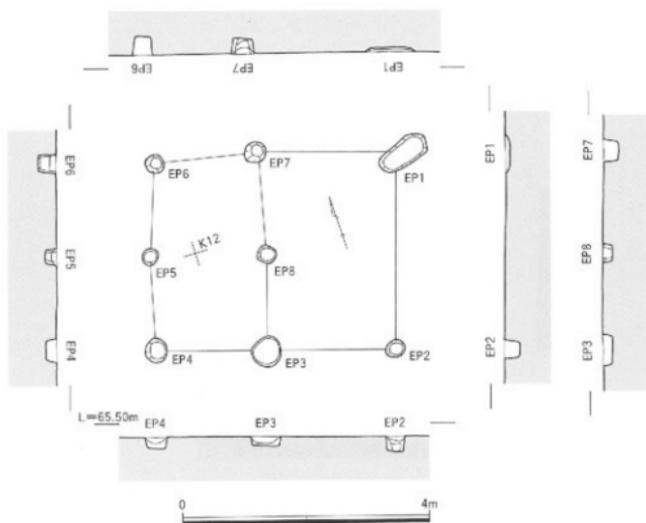
1. 暗灰黄色2.5Y4/2砂質土（しまり強）
2. オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土（しまり弱）

第80図 I地区SA1008 EP2遺構・遺物実測図

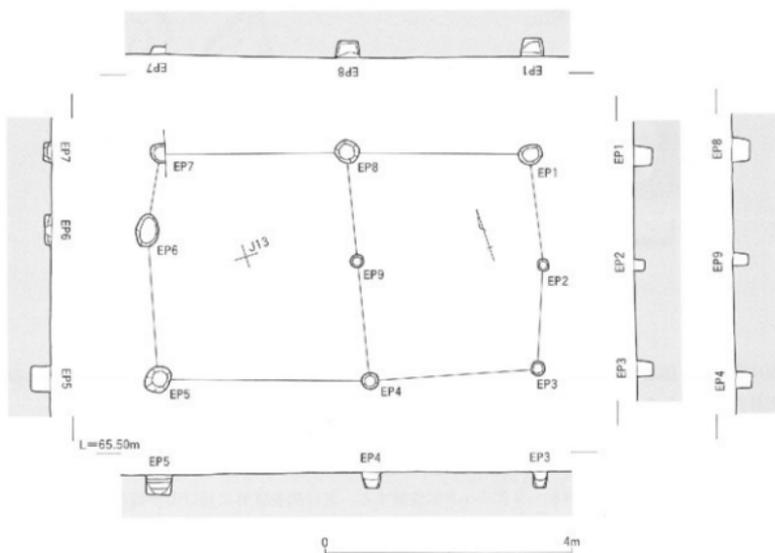
形は円形で、径25～52cm深度10～32cmを測る。出土遺物はEP4出土の1点のみで、44は土師質土器煮炊具の脚部である。基部から大きく外方に延び逆L字に屈曲する。

掘立柱建物11号（I地区 SA1011）（第84図）

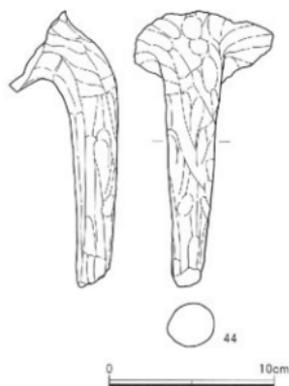
I-6西区中央部北端、H8・9グリッドに位置する。北は調査区外に延びるが隣接するI-4区では検出していない。東西2間（4.1m）南北推定2間以上（2.4m以上）床面積9.8㎡以上、5基の柱穴をもつ掘立柱建物で、建物主軸N74°Wを向く。柱穴の平面形は円形で、径30～36cm深度12～26cmを測る。遺物はEP1より須恵器壺の小片が出土しているのみで、実測可能な遺物はなかった。



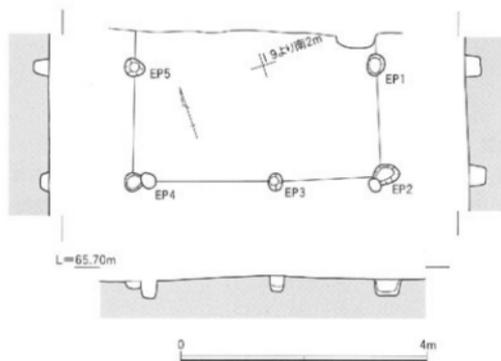
第81图 I地区SA1009遺構実測図



第82图 I地区SA1010遺構実測図



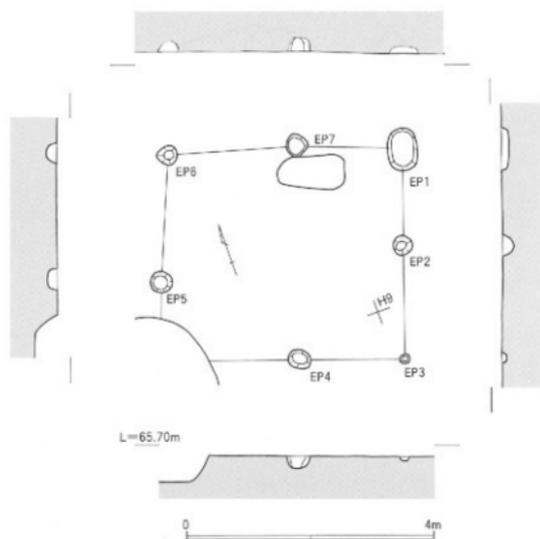
第83図 I地区SA1010 EP4遺物実測図



第84図 I地区SA1011遺構実測図

掘立柱建物12号 (I地区 SA1012) (第85図)

I-6 西区中央部北側、G・H8・9グリッドに位置し、南西隅を遺構に切られる。東西2間(3.6m)南北2間(3.4m)床面積12.2㎡、7基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸N71°Wを向く。柱穴の平面形は円形または楕円形で、径18~70cm深度7~22cmを測る。遺物はEP1出土の土師器片のみで、実測可能な遺物はない。



第85図 I地区SA1012遺構実測図

据立柱建物13号 (I地区 SA1013) (第86図)

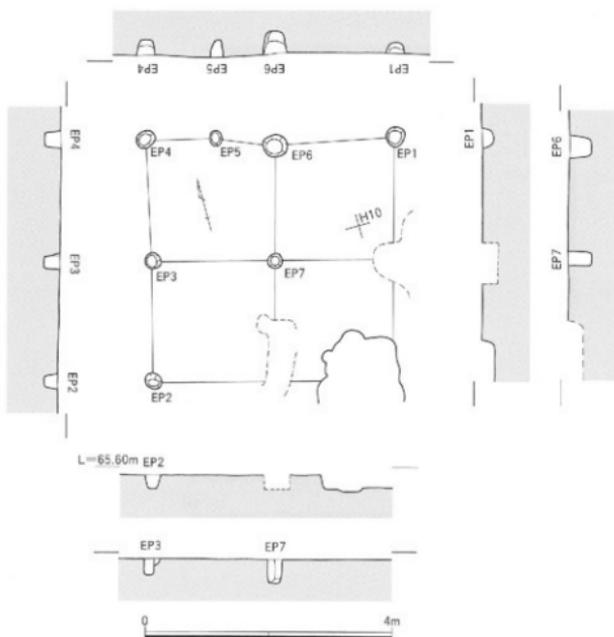
I-6 西区東部北側、G・H9・10グリッドに位置し、南東側を遺構・攪乱に切られる。東西3間(4.1m)南北2間(4.0m)床面積16.4㎡、7基の柱穴をもつ総柱とみられる据立柱建物で、建物主軸はN74°Wを向く。柱穴の平面形は円形で、径25~40cm深度18~39cmを測る。遺物はEP3から須恵器片・杯が出土しているが、実測し得なかった。遺構の年代は、概ね古代と考えられる。

据立柱建物14号 (I地区 SA1014) (第87図)

I-6 西区中央部南端、F・G8・9グリッドに位置する。東西2間(3.5m)南北2間(2.8m)床面積9.8㎡、7基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸N84°Wを向く。柱穴の平面形は円形もしくは隅丸方形で、径29~36cm深度10~40cmを測る。遺物はEP4から須恵器片、EP2から土師質土器羽釜が出土。

据立柱建物15号 (I地区 SA1015) (第88図)

I-6 西区中央部南端、F9・10グリッドに位置し、南西隅を遺構に切られる。東西2間(3.7m)南北1間(2.1m)床面積7.8㎡、5基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸N69°Wを向く。柱穴の平面形は円形で、径24~30cm深度16~35cmを測る。遺物はEP1から土師質土器片が出土している。



第86図 I地区SA1013遺構実測図

掘立柱建物16号 (I地区 SA1016) (第89・90図)

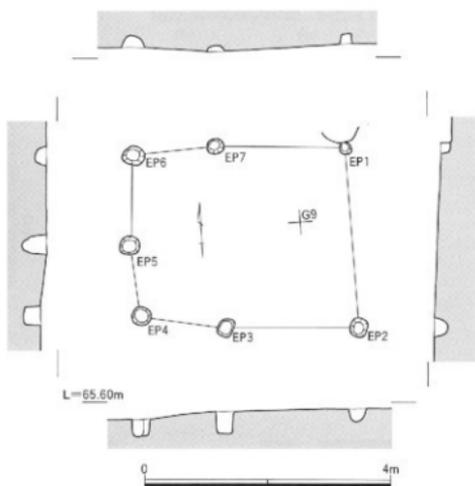
I-6東区東部南端、D・E13・14グリッドに位置する。東西2間(4.2m)南北2間(2.9m)床面積12.2㎡、7基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸はN77°Wを向く。柱穴の平面形は円形で、径29～48cm深度8～64cmを測る。遺物はEP1～3・6・7から土師器片、須恵器杯・甕、土師質土器片・杯(回転糸切りほか)が出土している。45はEP2出土の高台付須恵器杯である。底部外面回転ヘラ切りのち断面逆台形の低い高台を貼り付ける。概ね8世紀中葉前後と考えられる。

櫛列1号 (I地区 SG1001) (第91図)

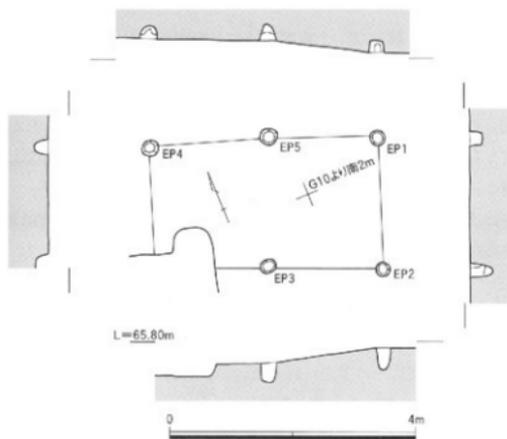
I-5区中央部、H～K15グリッドに位置する。南北7間(16.3m)、8基の柱穴が2m前後の間隔で、溝SD1012の西側に沿って南北方向に一の字形に列ぶ櫛列で、主軸N11°Eを向く。柱穴は円形または不整形円形・楕円形を呈し、径24～46cm深度4～18cmを測る。

土坑82号 (I地区 SK1082) (第92図)

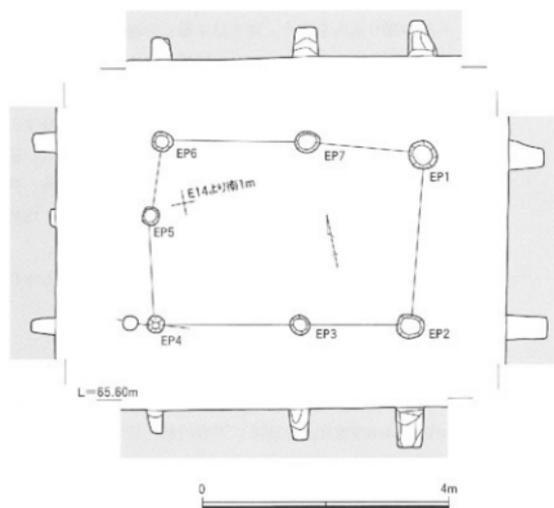
I-4区中央部北側、M8グリッドに位置する、長軸102cm短軸95cm深度13cmを測る、不整形方形土坑である。断面は皿状で、埋土は1層である。遺物は土師質土器片・煮炊具脚部が出土。46は土師質土



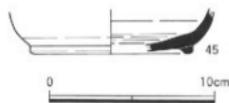
第87图 I地区SA1014遗构实测图



第88图 I地区SA1015遗构实测图



第89図 I地区SA1016遺構実測図



第90図
I地区SA1016 EP2遺物実測図

器煮炊具脚部である。接合面に指頭圧痕を残す。

土坑86号 (I地区 SK1086) (第93図)

I-4区中央部南側、I・J7・8グリッドに位置する、長軸130cm短軸116cm深度25cmを測る、不整形の土坑である。断面は逆台形状で、埋土は2層に分層できる。遺物は土師質土器羽釜・近世焔炉、近世陶器、大谷焼徳利、近世染付、近世瓦、鉄製品片が出土。47は角形の土師質焔炉の底部片である。体部外面は緻密なヘラミガキ、底部内面にハケを施す。遺構の年代は、近世と考えられる。

土坑91号 (I地区 SK1091) (第94図)

I-4区中央部北側、M9グリッドに位置する、長軸130cm短軸100cm深度40cmを測る、不整形土坑である。断面は皿状で、底面に3ヶ所のビット状の落ち込みがある。埋土は2層に分層できる。遺物は須恵器蓋・壺、土師質土器片が出土。48は須恵器蓋。天井部は水平で、口縁端部を下方に拡張する。焼成不良で、内外面に炭素付着。胎土に結晶片岩を含む。49は須恵器壺の体部。外面にユビナデ痕を残す。遺構の年代は、出土遺物から概ね8～9世紀頃と考えられる。

土坑92号 (I地区 SK1092) (第95図)

I-4区中央部北側、M9・10グリッドに位置する、長軸240cm短軸105cm深度38cmを測る不整形な長方



第91図 I地区SG1001遺構実測図

形土坑。主軸は $N86^{\circ}E$ を向く。断面は皿状で、床面に2ヶ所の掘り込みを伴う。埋土は4層に分層。

出土遺物は2点のみ。50は土師器杯の上部。口縁端部の内側にヨコナアによって浅い凹線を作る。体部外面に密な横位のヘラミガキ、内面に斜位のヘラミガキ暗文を施す。内外とも赤彩が残る。胎土に結晶片岩と絹雲母を含む。51は土師器杯の底部である。外面に密な平行ヘラミガキ、内面に螺旋状または連結輪状のヘラミガキ暗文を施す。内外とも赤彩が残る。50・51は同一個体の可能性がある。

遺構の年代は、出土遺物から概ね8世紀代と考えられる。

土坑127号（I地区 SK1127）（第96図）

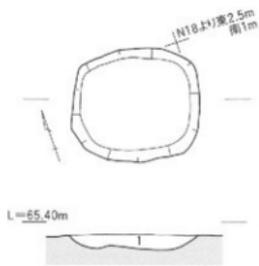
I-4区東部南寄り、I10グリッドに位置する、長軸84cm短軸64cm深度10cmを測る、不整形土坑である。主軸は $N88^{\circ}E$ を向く。断面は皿状で、埋土は3層に分層できる。出土遺物は1点のみで、52は須恵器杯の上半部。体部は直線的に外上方に延びる。

土坑130号（I地区 SK1130）（第97図）

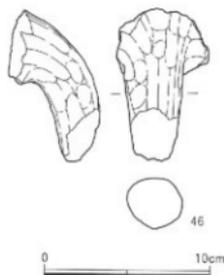
I-4区東部南端、19・10グリッドに位置する、長軸145cm短軸110cm深度46cmを測る、不整な楕円形土坑である。主軸は $N87^{\circ}E$ を向く。断面は逆台形状で、埋土は5層に分層できる。遺物は弥生土器高杯脚部、土師器煮炊具、須恵器片、土師質土器片・播鉢・羽釜、須恵質土器甕が出土。53は弥生土器高杯の脚部。外面に密な縦位のヘラミガキを施し、内面に絞り痕を残す。胎土に結晶片岩を含む。遺構の年代は、出土遺物に時期幅があるが概ね中世と考えられる。

土坑132号（I地区 SK1132）（第98図）

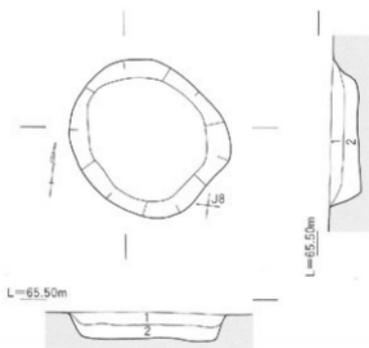
I-4区東部北側、L11・12グリッドに位置する、長軸98cm短軸78cm深度10cmを測る楕円形土坑。主軸は $N74^{\circ}E$ を向く。断面は浅い皿状で、埋土は2層。検出面上10cmで結晶片岩・砂岩礫の集石を検出。遺物は土師器片、土師質土器片・杯（回転ヘラ切り）・煮炊具脚部が出土。54は土師質土器杯。底部外面に回転ヘラ切り痕の板目痕を残す。13世紀前後とみられる。



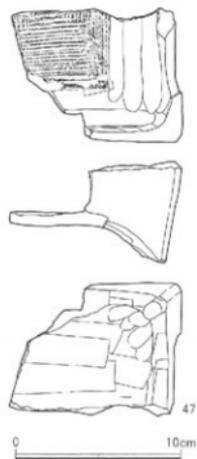
1. 黄褐色2.5Y5/4砂質土 (しまり強)



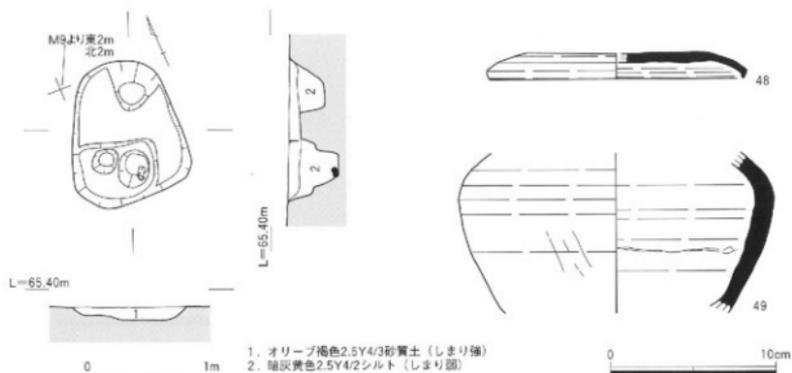
第92図 I地区SK1082遺構・遺物実測図



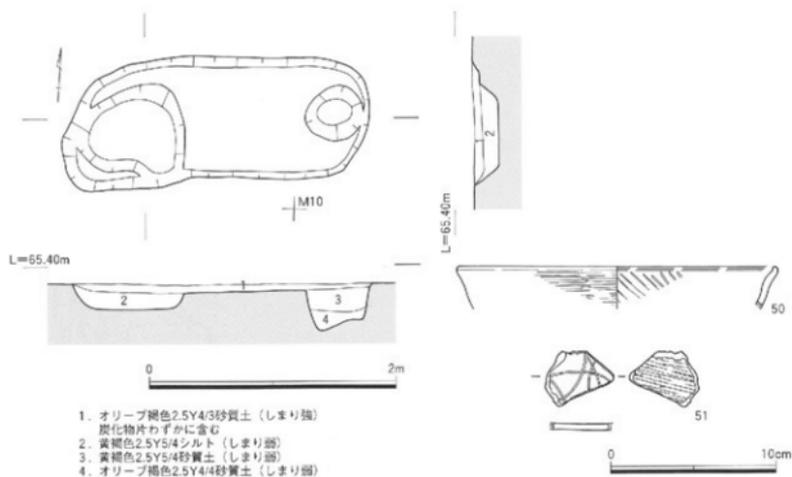
1. オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土 (しまり強)
2. オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土 (しまり弱)



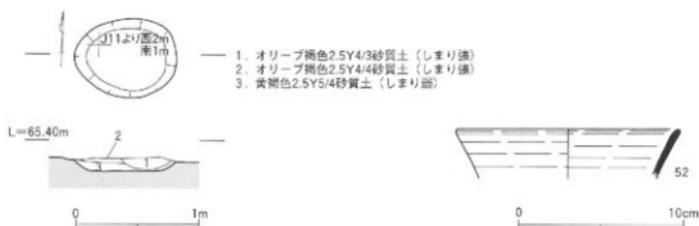
第93図 I地区SK1086遺構・遺物実測図



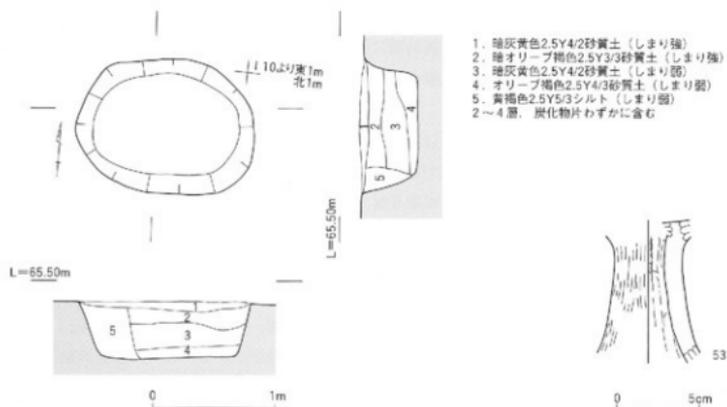
第94図 I地区SK1091遺構・遺物実測図



第95図 I地区SK1092遺構・遺物実測図



第96図 I地区SK1127遺構・遺物実測図



第97図 I地区SK1130遺構・遺物実測図



第98図 I地区SK1132遺構・遺物実測図

土坑136号 (I地区 SK1136) (第99図)

I-4区東部中央、J12グリッドに位置する、長軸225cm短軸120cm深度15cmを測る不整形土坑。主軸はN28°Eを向く。断面は浅い逆台形状で、埋土は2層。遺物は1点のみで、55は土師質土器杯である。底部外面に回転ヘラ切り痕を残すが、ナデ消しによるものか不明瞭である。13世紀前後とみられるが、古代に遡る可能性もある。

土坑142号 (I地区 SK1142) (第100・101図)

I-4区北東隅部、I・J11グリッドに位置し、北と東は調査区外に延び、遺構全体の4分の1程度を検出する。南北検出長225cm東西検出長200cm深度20cmを測る不整形土坑である。断面は浅い逆台形状で、埋土は2層に分層できる。遺構底面を中心に、握拳人～人頭人の礎が集中する。

遺物は土師器片、土師質土器片・杯(回転糸切り・回転ヘラ切りほか)・煮炊具(格子タタキ)・煮炊具脚部・羽釜、須恵質土器捏鉢(東播)、陶器甕(常滑ほか)、凝灰岩製砥石が出土。

56～58は回転台成形の土師質土器杯。56は底部外面に回転糸切り痕、57は回転ヘラ切り痕、58は回転ヘラ切りのち板目痕を残す。56と比較して、回転ヘラ切り痕を伴う57・58は器壁が薄い。また底径が小さく体部の開きが大きい。

59・60は土師質土器羽釜。59は鈔部を貼り付け、鈔・口縁の端部は三角形状に尖らせる。体部下位に脚部が取り付く。内外面とも板ナデによる調整が施され、格子タタキの有無は不明である。60は鈔部を折り曲げ技法によって作る。脚部は鈔部の直下に取り付くことから13世紀後半～14世紀前半と考えられる。器表面は板ナデによる調整が施され、格子タタキの有無は不明。61は土師質土器煮炊具の脚部。基部の屈曲は弱く、鈔の直下に取り付くと考えられる。

62・63は東播系の須恵質土器捏鉢。口縁端部を上下に大きく肥厚させる。62は片口が付く。63は底部外面に回転糸切り痕、口縁端部に重焼痕を残す。森田編年Ⅲ-2段階、14世紀前半とみられる。

64は常滑焼陶器甕の肩部片。外面に長格子の押印文を施し、自然釉がかかる。65は陶器甕の底部。酸化炎焼成気味で、産地等は不明である。

66は凝灰岩製砥石。4面を使用し、部分的に沈線状の擦痕がみられる。

遺構の年代は、出土遺物から14世紀前半を中心とすると考えられる。

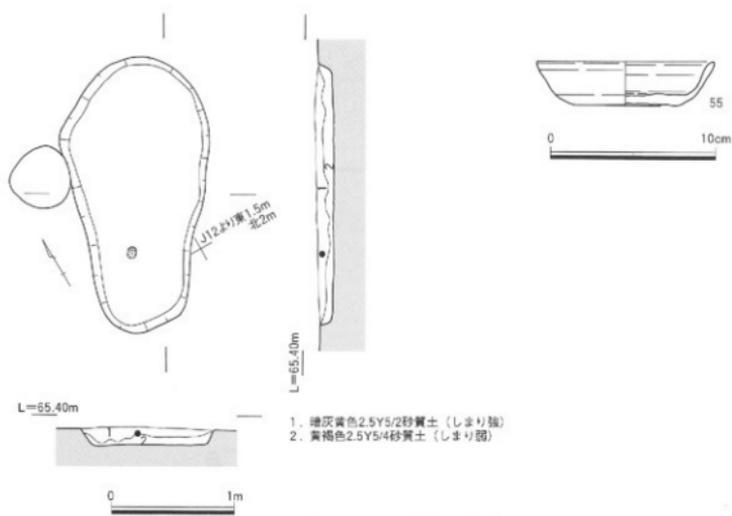
土坑169号 (I地区 SK1169) (第102図)

I-6西区西部中央、13グリッドに位置する、長軸91cm短軸87cm深度17cmを測る隅丸方形土坑。断面は緩い逆台形状で、埋土は2層に分層できる。遺物は土師質土器片・播鉢、瓦質平瓦が出土。67は土師質土器播鉢の下半部。遺構北寄りの検出面から出土。内面に横位の板ナデのち擋目。15～16世紀代とみられる。

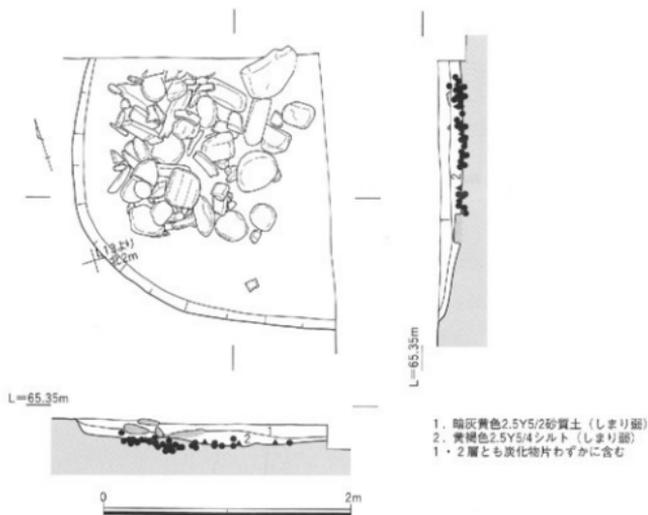
土坑185号 (I地区 SK1185) (第103図)

I-6西区中央部北端、H・16・7グリッドに位置し、南と東を遺構に切られる。東西残存長130cm南北残存長83cm深度34cmを測る隅丸方形土坑。断面は逆台形状で、底面は起伏があり東側で落ち込む。埋土は2層に分層できる。

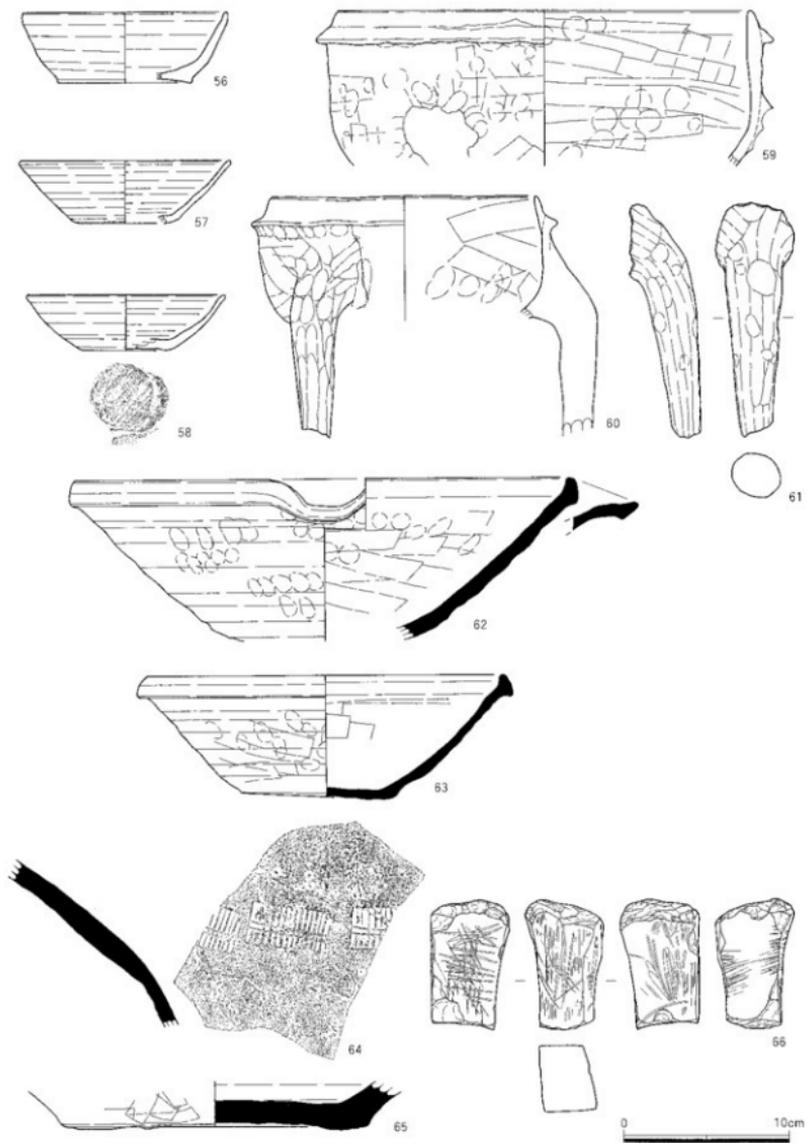
遺物は土師質土器杯・鉢・煮炊具(格子タタキ)が出土。68は土師質土器鉢の上半部。口縁はやや肥



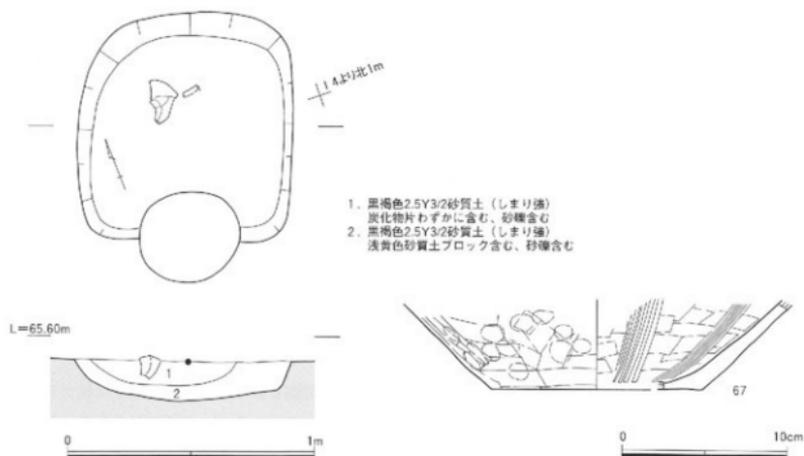
第99図 I地区SK1136遺構・遺物実測図



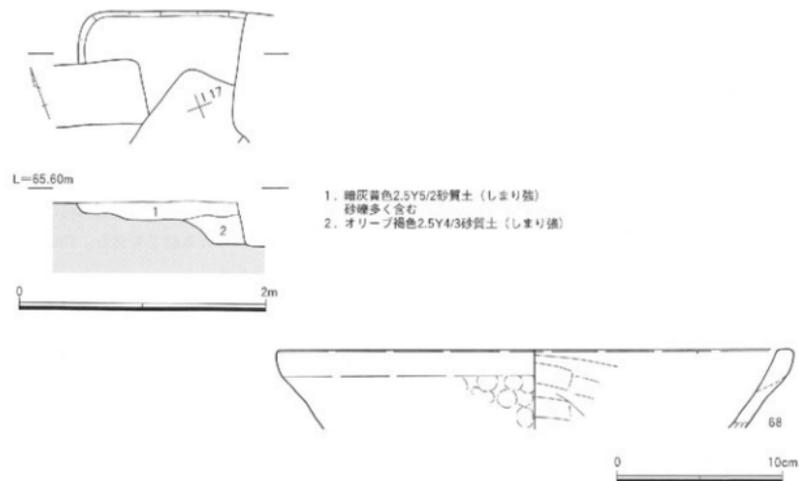
第100図 I地区SK1142遺構実測図



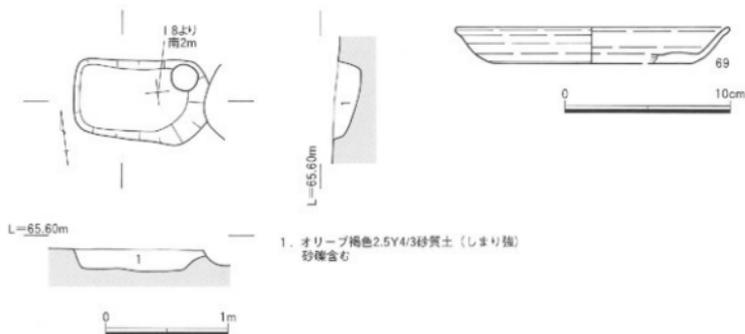
第101图 I地区SK1142遗物实测图



第102図 I地区SK1169遺構・遺物実測図



第103図 I地区SK1185遺構・遺物実測図



第104図 I地区SK1206遺構・遺物実測図

厚し、端部を水平に作る。体部外面に指頭圧痕を残し、内面に微細な目のヨコハケ（図では板ナデ）を施す。挿日は確認できない。遺構の年代は、出土遺物から中世とみられるが、詳細時期の特定は困難。

土坑206号（I地区 SK1206）（第104図）

I-6 西区中央部北側、H7・8グリッドに位置し、東端を遺構に切られる。東西残存長106cm南北長70cm深度23cmを測る隅丸長方形土坑。主軸はN84°Wを向く。断面は逆台形状で、埋土は1層である。遺物は土師器片・皿（回転ヘラ切り）が出土。69は土師器皿。底部外面に回転ヘラ切り痕を残す。

土坑207号（I地区 SK1207）（第105図）

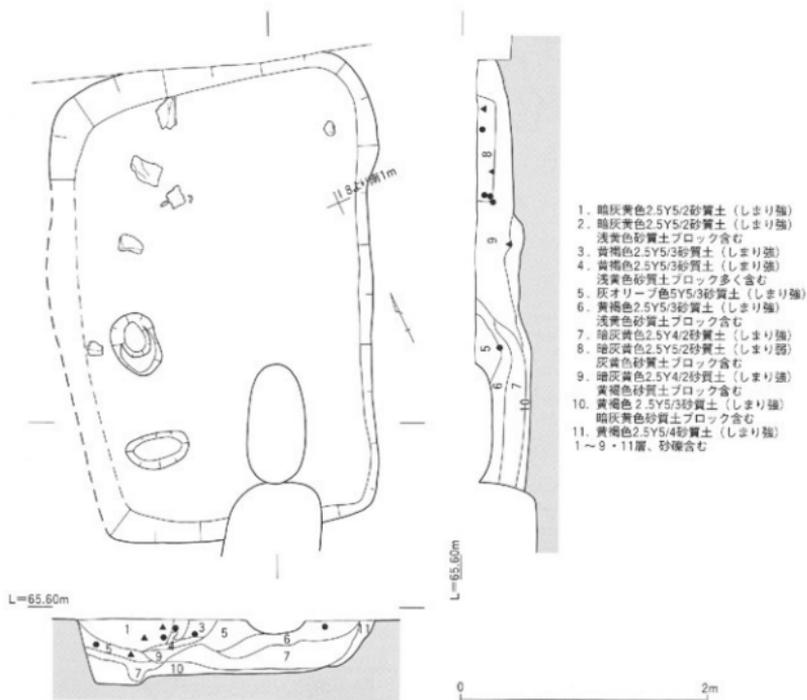
I-6 西区中央部、H7・8グリッドに位置し、北側は調査区外に伸び、西と南の一部を掘乱しと遺構に切られる。南北検出長192cm東西134cm深度27cmを測る、不整な隅丸方形土坑。主軸はN24°Eを向く。断面は不整な逆台形状で、埋土は11層に分層。底面はやや起伏があり、部分的に落ち込みを有する。

遺物は土師器片（赤彩ほか）・煮炊具・甕、須恵器片・杯・蓋、土師質土器片・杯・煮炊具（格子タキ）、土師質管状土錘が出土。70は須恵器蓋である。扁平で、天井部は水平に近い。71・72は土師器甕の上半部。71は口縁端部をわずかに上下に拡張する。72は端部を上方に拡張。ともに頸部内面にヨコハケを施し、72は体部外面にタテハケを施す。71の胎土は粗く、砂岩とみられる粒子を含む。73は土師質管状土錘である。遺構の年代は、出土遺物から概ね9世紀前後とみられる。

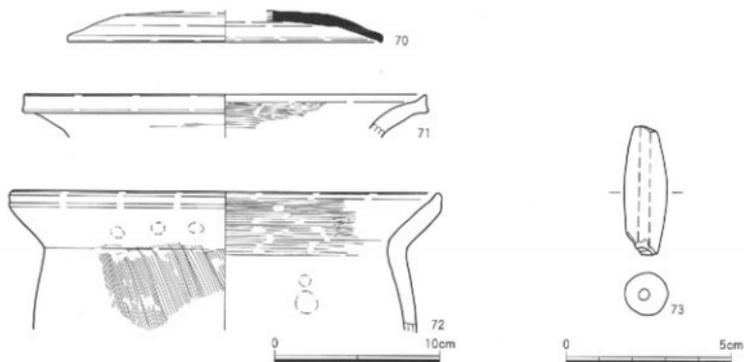
土坑210号（I地区 SK1210）（第106図）

I-6 西区中央部、G・H7グリッドに位置する、長軸132cm短軸118cm深度53cmの不整円形土坑。断面は緩い逆台形状で、埋土は6層に分層。埋土中位から30～70cmの礫を検出したが、規則性はない。

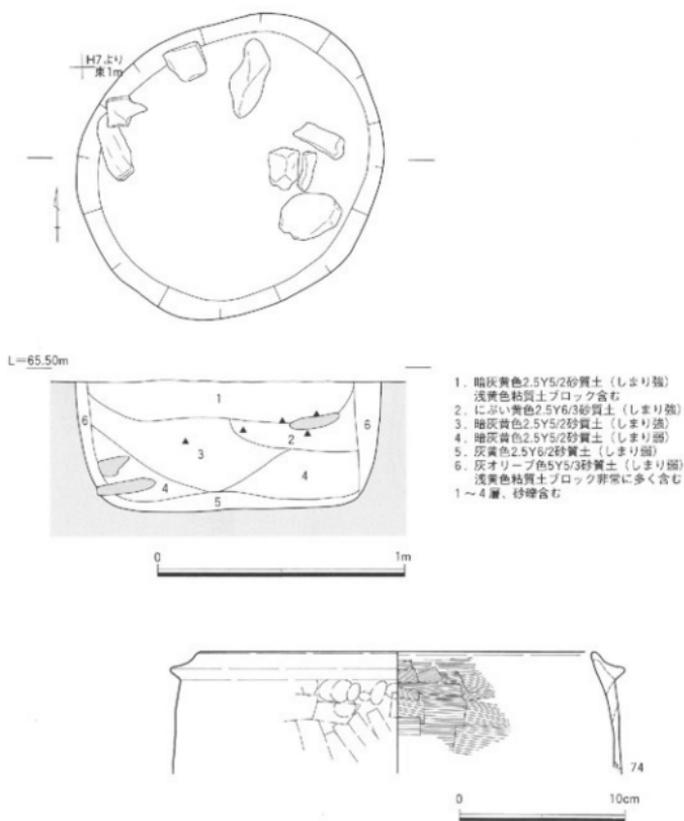
遺物は土師器煮炊具、土師質土器片・播鉢・羽釜、青白磁甕か、瓦質平瓦が出土。74は土師質土器羽釜である。鈿部は折り曲げや貼り付けではなく、体部最上位に一本の粘土紐を被せ、口縁と鈿部を同時に作る。本書では以後「被せ技法」と仮称する。体部内面にヨコハケを施す。遺構の年代は、出土遺物から概ね15世紀前後と考えられる。



1. 暗灰黄色2.5Y5/2砂質土 (しまり強)
 2. 暗灰黄色2.5Y5/2砂質土 (しまり強)
 3. 浅黄色砂質土ブロック含む
 4. 黄褐色2.5Y5/3砂質土 (しまり強)
 5. 浅黄色砂質土ブロック多く含む
 6. 灰オリーブ色5Y5/3砂質土 (しまり強)
 7. 黄褐色2.5Y5/3砂質土 (しまり強)
 8. 浅黄色砂質土ブロック含む
 9. 暗灰黄色2.5Y4/2砂質土 (しまり強)
 10. 黄褐色2.5Y5/3砂質土 (しまり強)
 11. 暗伏黄色砂質土ブロック含む
- 1~9・11層、砂礫含む



第105図 I地区SK1207遺構・遺物実測図



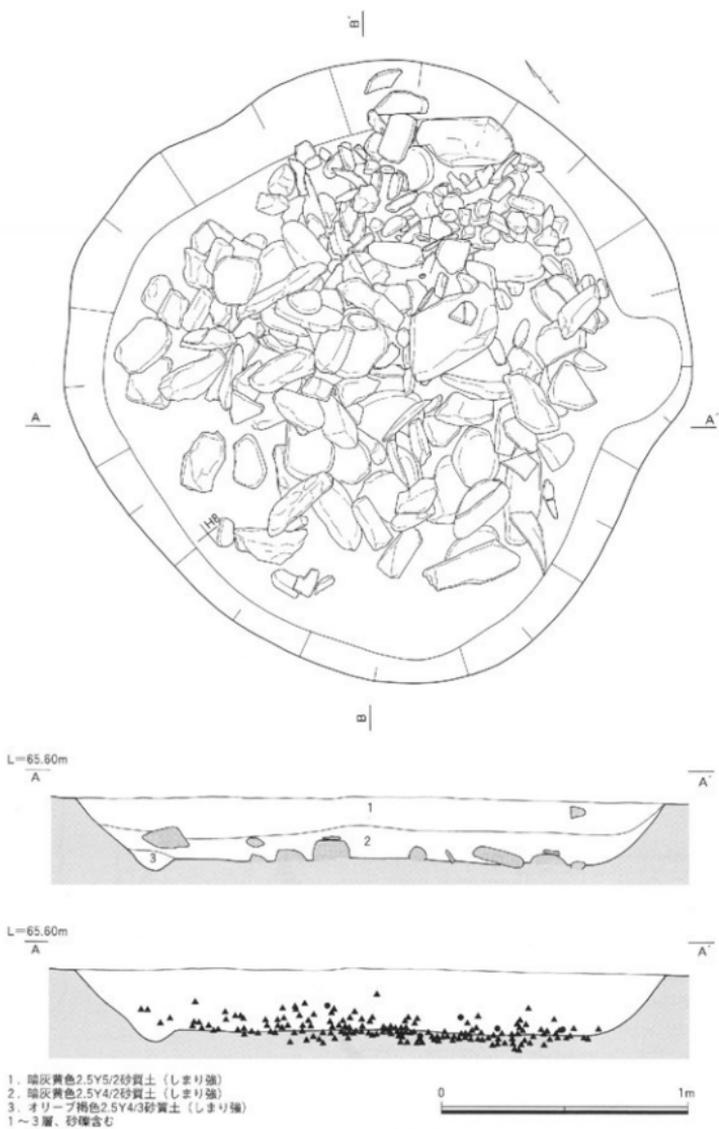
第106図 I地区SK1210遺構・遺物実測図

土坑217号 (I地区 SK1217) (第107~109図)

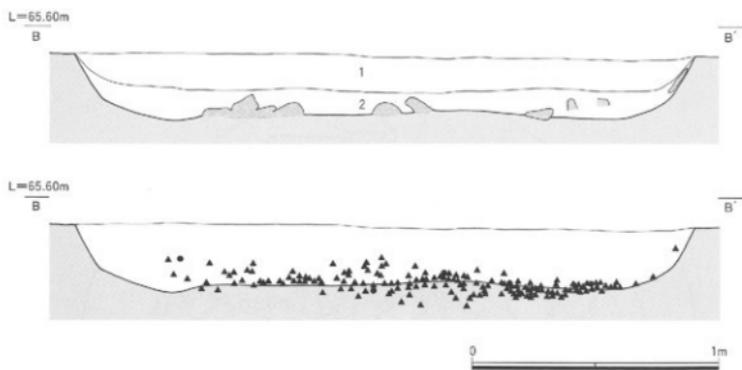
I-6西区中央部、G・H7・8グリッドに位置する、長軸254cm短軸250cm深度30cmを測る、不整形土坑である。断面は逆台形状で、埋土は3層に分層できる。第2層から握拳大~人頭大の礫が多量に出土した。東側に小型礫、中央から西側に大型礫が集中する傾向があるが、規則性は見いだせない。

遺物は土師器片・椀(赤彩ほか)、須恵器片・杯・甕・壺、土師質土器片・杯(回転糸切り)・煮炊具(格子タタキ)・煮炊具脚部・鍋・羽釜、瓦質土器煮炊具、須恵質土器狸鉢、備前陶器壺が出土。

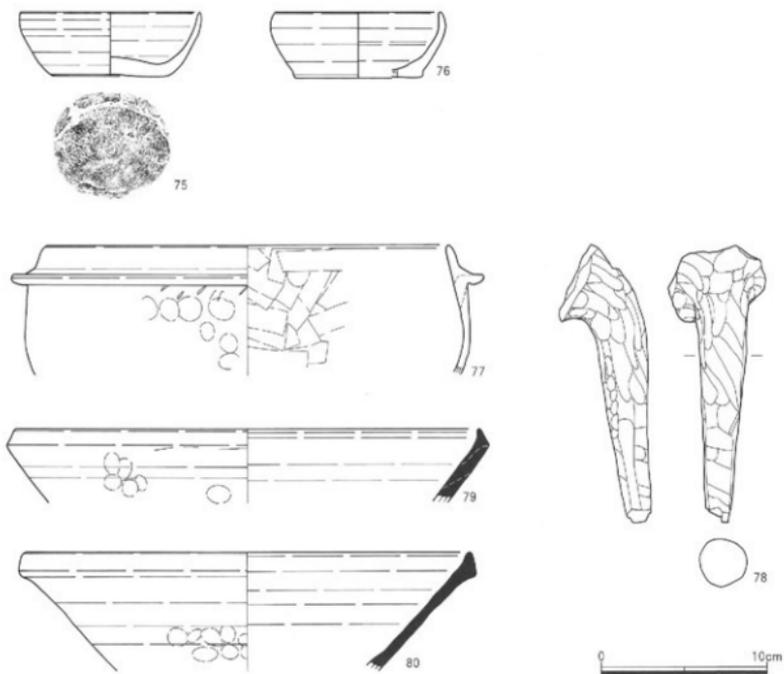
75・76は土師質土器杯。底部外面に回転糸切り痕を残す。77は土師質土器羽釜。鈿部は折り曲げ技法で作られ、高い口縁をもつ。両端部とも尖り気味に作る。鈿部直下に連続した指爪痕を残す。78は土師質



第107図 I地区SK1217遺構実測図(1)



第108图 I地区SK1217遗构实测图(2)



第109图 I地区SK1217遗物实测图

土器煮炊具脚部。基部の上面が脚部接合時の強いナデにより決れる。79・80は東播系須恵質土器捏鉢の上半部。79は口縁端部を上部に拡張。森田編年Ⅱ期、12世紀中葉～13世紀初葉とみられる。80は口縁端部を上下に拡張。Ⅱ期2段階～Ⅲ期1段階、12世紀末～13世紀後半とみられる。

土坑232号（I地区 SK1232）（第110図）

I-6西区東部北端、G・H9・10グリッドに位置する、長軸166cm短軸80cm深度22cmを測る、隅丸長方形土坑。主軸はN16°Eを向く。断面は不整な逆台形状で、底面は起伏あり。埋土は2層に分層。遺物は土師器片・煮炊具、土師質土器杯（回転糸切り）・煮炊具脚部が出土。81は土師質土器煮炊具の脚部である。胎土は精良である。遺構の年代は、出土遺物から概ね13～14世紀代と考えられる。

土坑242号（I地区 SK1242）（第111図）

I-6西区中央部南側、F・G9グリッドに位置する、長軸210cm短軸180cm深度24cmを測る不整形土坑。断面は不整な逆台形状または皿状で、埋土は2層に分層。遺物は土師器片、須恵器杯、土師質土器片・煮炊具脚部、陶器鉢鉢（備前焼Ⅳ期）が出土。82は土師質土器煮炊具の脚部。胎土は精良。

土坑247号（I地区 SK1247）（第112図）

I-6西区中央部南寄り、F・G10グリッドに位置する、長軸104cm短軸56cm深度22cmを測る不整形土坑。断面は皿状で、埋土は1層。遺物は土師器片、須恵器片、土師質土器片・杯（回転糸切り）、瓦質平瓦、凝灰岩製砥石が出土。83は凝灰岩製砥石で、4面を使用。

土坑274号（I地区 SK1274）（第113図）

I-6東区西端部北寄り、F12グリッドに位置し、西側は調査区外に延びる。東西検出長128cm南北128cm深度33cmを測る不整な楕円形土坑。断面は不整な逆台形状で、埋土は1層である。遺物は土師器煮炊具、須恵器片・杯・蓋、土師質土器片・杯が出土。84は土師質土器杯。底部外面に回転ヘラ切り痕を残す。85は高台付須恵器杯の下半部。8世紀後半頃と考えられる。

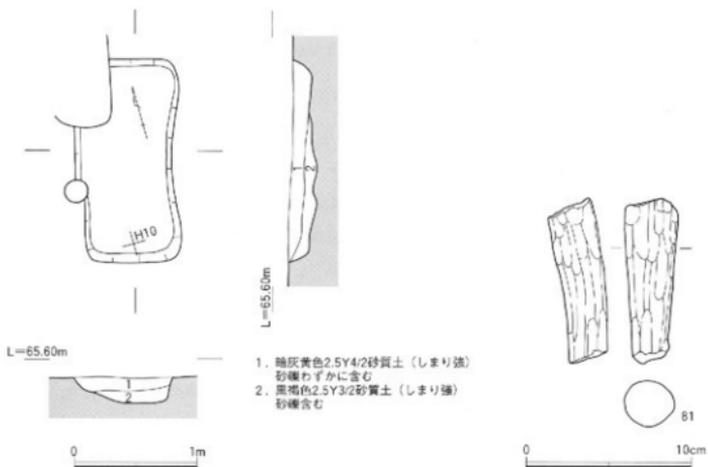
土墳墓30号（I地区 ST1030）（第114図）

I-6西区西端、I3グリッドに位置する、長軸126cm短軸70cm深度8cmを測る、不整な隅丸方形の土墳墓。主軸はN35°Wを向く。断面は浅い皿状で、埋土は2層に分層できる。

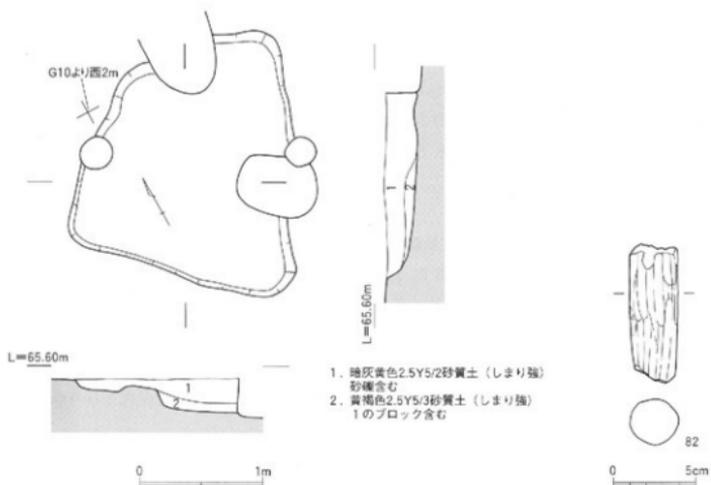
遺物は弥生土器甕、土師器片、土師質土器片・羽釜（内耳）、備前陶器片が出土。86は弥生土器甕の上半部。外面～頸部内面に平行タタキを施す。胎土は粗く、結晶片岩を含む。87は土師質土器羽釜。口縁に一对の把手部を作るいわゆる内耳鍋。口縁と鋤部は被せ技法で作る。内外面は板ナデを施し、格子タタキは確認できない。遺構の年代は、出土遺物に時期幅があるが、概ね15～16世紀代とみられる。

土墳墓38号（I地区 ST1038）（第115図）

I-6西区西部北寄り、14グリッドに位置する、長軸232cm短軸102cm深度48cmを測る、楕円形の土墳墓である。主軸はN72°Wを向く。断面は逆台形状で、底面は平坦、埋土は6層に分層できる。上位の層にブロックを多く含み、第5層は有機物を多く含む暗灰黄色土層である。遺物は土師器片・杯・煮



第110図 I地区SK1232遺構・遺物実測図

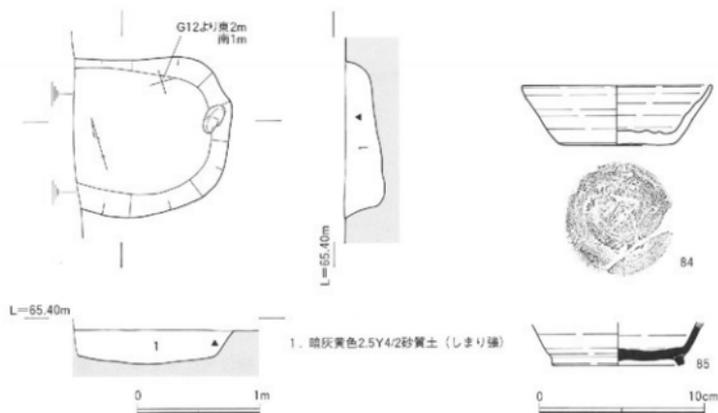


第111図 I地区SK1242遺構・遺物実測図



1. オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土（しまり強）

第112図 I地区SK1247遺構・遺物実測図



1. 暗灰黄色2.5Y4/2砂質土（しまり強）

第113図 I地区SK1274遺構・遺物実測図

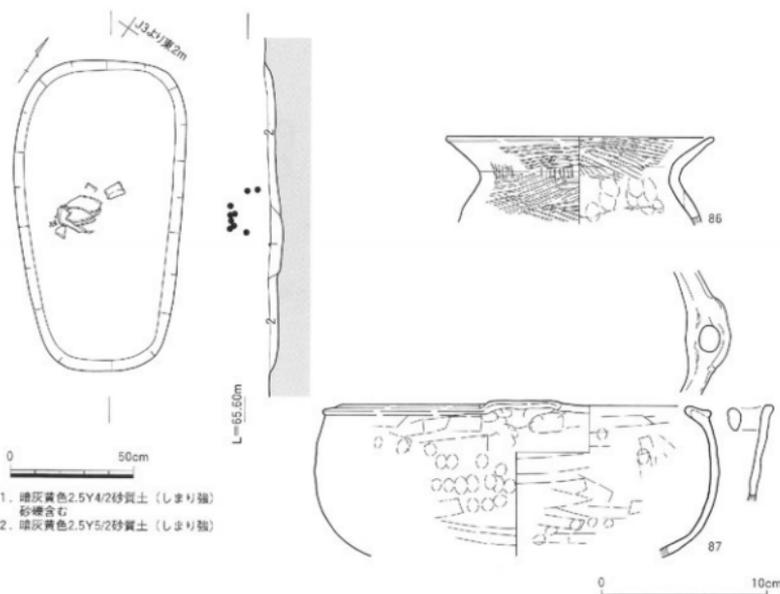
炊具、土師質土器杯・煮炊具（脚部ほか）が出土。88は土師器杯。体部内面に密な横位のヘラミガキのち内外面に赤彩を施す。89は土師質土器煮炊具の脚部である。

土墳墓46号（I地区 ST1046）（第116図）

I-6 西区中央部北側、H7グリッドに位置し、南東部を遺構が切る。東西184cm南北残存長54cm深度28cmを測る、隅丸長方形の土墳墓。主軸はN70°Wを向く。断面は逆台形状で、埋土は2層に分層。遺物は土師器片・杯（赤彩・回転ヘラ切りほか）・煮炊具、須恵器片・杯が出土。90は土師器杯で、底部外面回転ヘラ切りのち断面方形の高台を貼り付け。内外面に赤彩を残す。遺構の年代は、出土遺物から8～9世紀頃と考えられる。

土墳墓48号（I地区 ST1048）（第117図）

I-6 西区中央部北端、H・I7グリッドに位置し、北は調査区外に延び南は遺構に切られる。南北



第114図 I地区ST1030遺構・遺物実測図

残存長120cm東西118cm深度30cmを測る、長方形とみられる土壌墓。主軸はN22°Eを向く。断面は緩い逆台形状で、埋土は3層に分層できる。遺物は須恵器杯・甕、土師質土器杯（回転糸切りほか）・煮炊具脚部・羽釜が出土。91は土師質土器羽釜である。図示していないが、鈎部は折り曲げ技法とみられる。口縁は高く、両端部とも丸く作る。

遺構の年代は、出土遺物から概ね13世紀後半～14世紀代と考えられる。

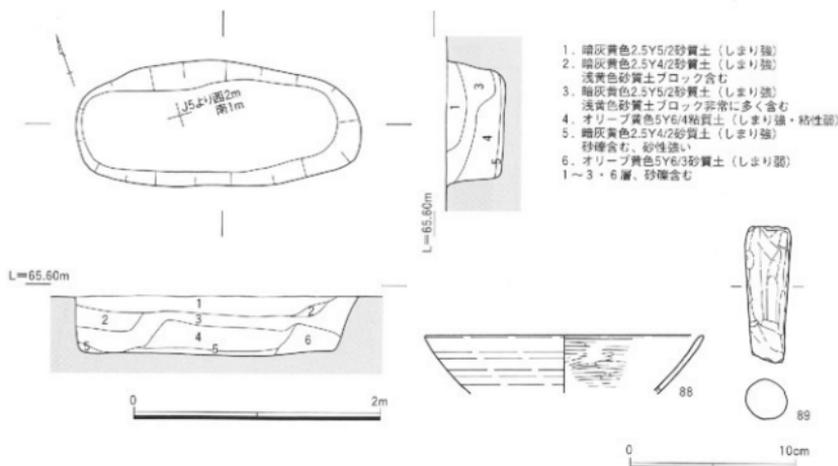
土壌墓50号（I地区 ST1050）（第118図）

I-6西区西部北側、I6グリッドに位置する、長軸200cm短軸100cm深度28cmを測る、隅丸長方形の土壌墓。主軸はN75°Wを向く。断面は不整な逆台形状で、底面はやや起伏がある。埋土は2層に分層。

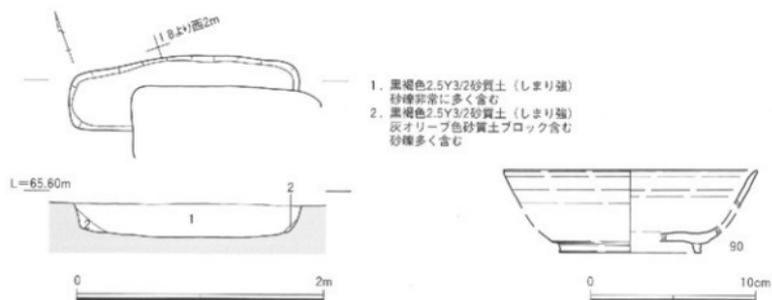
遺物は須恵器片、土師質土器杯・煮炊具・鍋が出土。92は土師質土器鍋。口縁は外方にむけて水平に延び、端部を方形に作る。体部外面に横位の連続指頭圧痕を残し、明瞭な稜をつくる。のち内外面ともハケ調整する。胎土は粗く、結晶片岩を含む。讃岐の楠井産鍋A1類に酷似した形状をもつが、胎土から在地産であることが明瞭で、楠井産の模倣品と考えられる。13世紀後半とみられる。

土壌墓53号（I地区 ST1053）（第119図）

I-6西区西部中央、H4グリッドに位置し、東は遺構に切られる。東西残存長112cm南北90cm深度



第115図 I地区ST1038遺構・遺物実測図

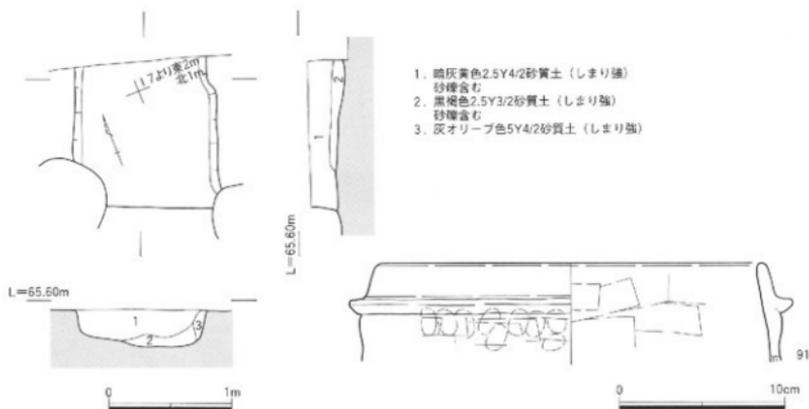


第116図 I地区ST1046遺構・遺物実測図

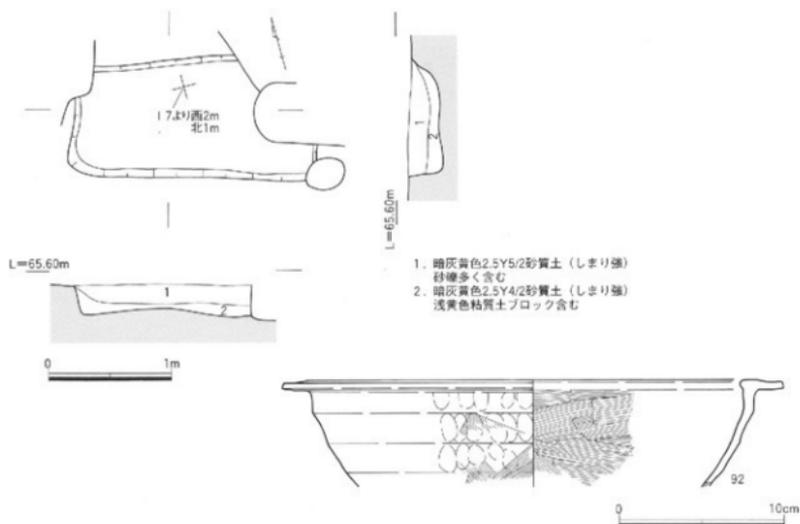
12cmを測る隅丸長方形の土墳墓。主軸はN65°Wを測る。断面は逆台形状で、埋土は1層である。出土遺物は1点のみで、93は土師質土器羽釜。鈎部は折り曲げ技法で作られ、高い口縁をもつ。体部内外面に指頭圧痕が明瞭で、のち横位の板ナデを施す。底部外面に格子タタキを施す。胎土に砂岩を含む。13世紀後半～14世紀代と考えられる。

土墳墓60号 (I地区 ST1060) (第120図)

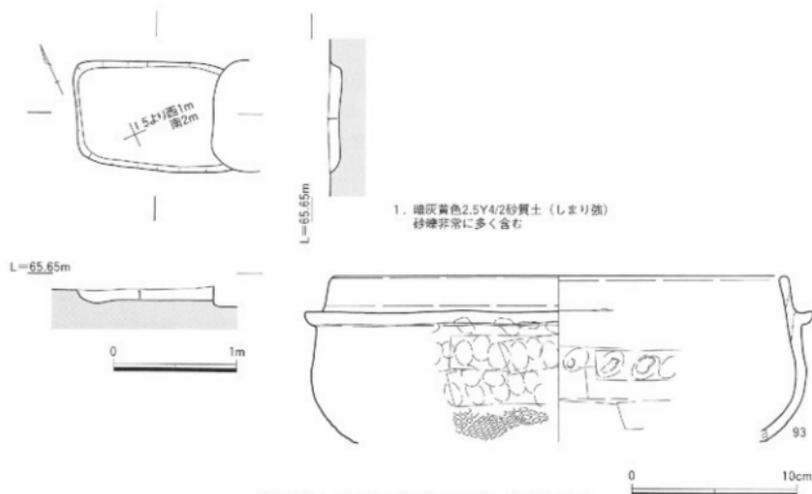
I-6西区中央部北寄り、H6グリッドに位置する、長軸236cm短軸56cm深度15cmを測る隅丸長方形の土墳墓。主軸はN18°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は2層に分層。遺物は土師器壺、土師質土



第117図 I地区ST1048遺構・遺物実測図

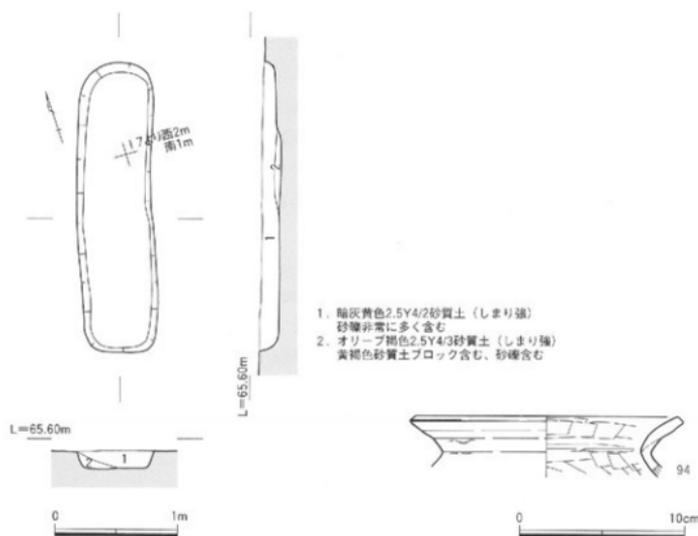


第118図 I地区ST1050遺構・遺物実測図



1. 暗灰黄色2.5Y4/2砂質土（しまり強）
砂礫非常に多く含む

第119図 I地区ST1053遺構・遺物実測図



1. 暗灰黄色2.5Y4/2砂質土（しまり強）
砂礫非常に多く含む
2. オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土（しまり強）
黄褐色砂質土ブロック含む、砂礫含む

第120図 I地区ST1060遺構・遺物実測図

器片・煮炊具が出土。94は土師器壺の上部。口縁端部を方形に作る。内面は横位の板ナデを施す。

土墳墓66号 (I地区 ST1066) (第121図)

I-6西区中央部南側、G7グリッドに位置する、長軸250cm短軸114cm深度59cmを測る不整な隅丸長方形の土墳墓。主軸はN25°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は8層に分層。遺物は土師器片・煮炊具、須恵器片・杯、土師質土器杯・羽釜が出土。95は土師質土器杯で、底部外面に回転ヘラ切り痕を残す。

土墳墓77号 (I地区 ST1077) (第122図)

I-6西区東部中央、F・G10グリッドに位置し、周囲を遺構に切られる。長軸202cm短軸残存長58cm深度34cmを測る不整な隅丸長方形の土墳墓。主軸はN90°WEを向く。断面は逆台形状で、埋土は4層に分層。最下層は有機物を多量に含むとみられる黒褐色粘質土。遺物は土師器片、須恵器片・杯・蓋、土師質土器片・杯が出土。96は土師質土器杯で、底部外面に回転ヘラ切り痕のち板目痕を残す。

土墳墓80号 (I地区 ST1080) (第123図)

I-6西区東部南端、F9・10グリッドに位置し、南側は調査区外に延びる。南北検出長130cm東西72cm深度22cmを測る隅丸長方形の土墳墓。主軸はN20°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は2層に分層。遺物は土師質土器杯・煮炊具(格子タタキ)・銅が出土。97は土師質土器杯で、底部外面に回転ヘラ切り痕を残す。98は土師質土器鍋である。口縁内面を幅の狭い受け口状に作る。胎土に結晶片岩を含む。楠井遺跡の鍋BⅡ類の在地位模倣品と考えられる。遺構の年代は、概ね14世紀代と考えられる。

土墳墓85号 (I地区 ST1085) (第124図)

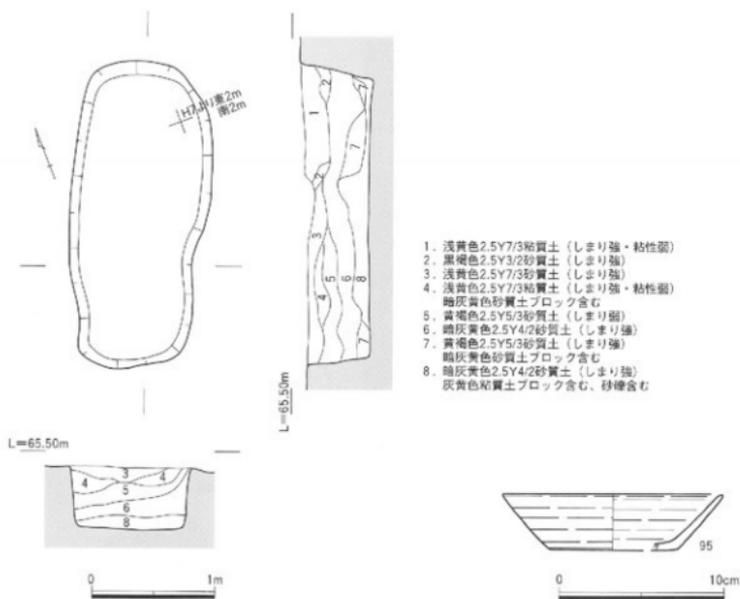
I-6西区東部中央、F・G11グリッドに位置する、長軸174cm短軸120cm深度42cmを測る、長方形の土墳墓である。主軸はN10°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は3層に分層できる。遺物は須恵器蓋、土師質土器杯(回転糸切り)が出土している。99は土師質土器杯である。回転台成形で、底部外面に回転糸切り痕のち板目痕を残す。遺構の年代は、出土遺物から概ね中世前半期と考えられる。

土墳墓87号 (I地区 ST1087) (第125図)

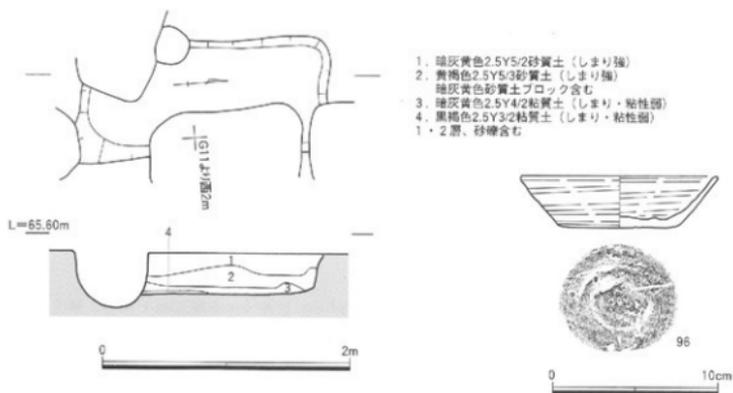
I-6東区西端部、F12グリッドに位置する、長軸210cm短軸206cm深度48cmを測る隅丸方形土坑である。主軸はN70°Wを向く。断面は逆台形状で、埋土は4層に分層できる。遺物は須恵器杯・蓋、土師器煮炊具、土師質土器杯が出土。100・101は須恵器蓋で、ともに摘み部を欠く。100は天井部が水平、101はやや丸みを帯びた作りである。102は高台付の須恵器杯である。底部外面回転ヘラ切り痕のち断面方形の高台を貼り付け。遺構の年代は、古代の遺物が主体を占めることから概ね8世紀代と考えられる。

土墳墓88号 (I地区 ST1088) (第126図)

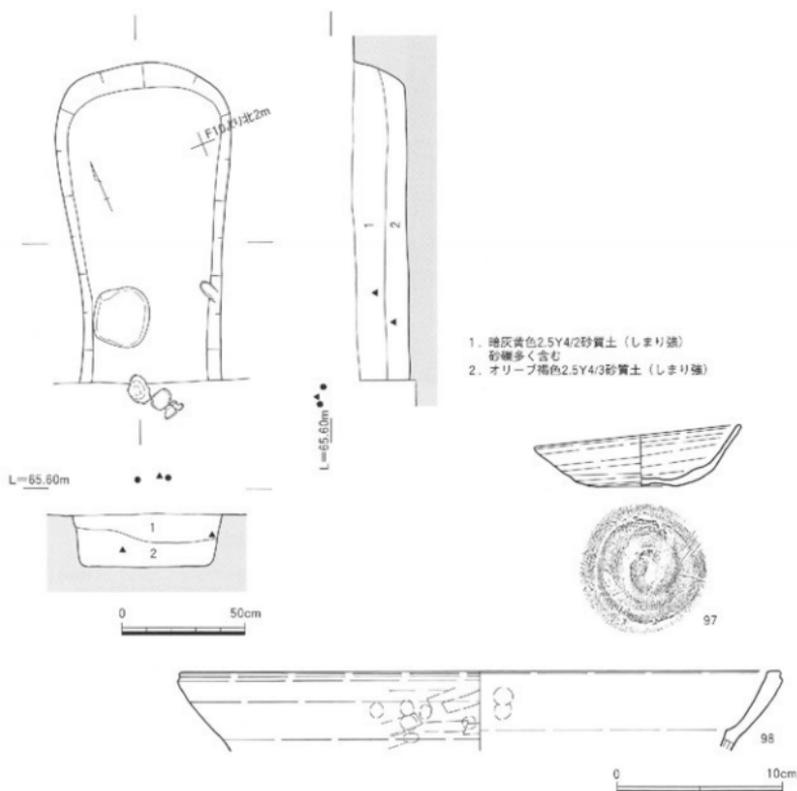
I-6東区西端部、E・F12グリッドに位置し、西は調査区外に延びる。南北長140cm東西検出長81cm深度46cmを測る隅丸方形の土墳墓。主軸はN22°Eを向く。断面は不整な逆台形状で、埋土は5層に分層。遺物は土師質土器片・羽釜、瓦器碗が出土。103は土師質土器羽釜。鋳部は折り曲げ技法で作り、



第121図 I地区ST1066遺構・遺物実測図



第122図 I地区ST1077遺構・遺物実測図

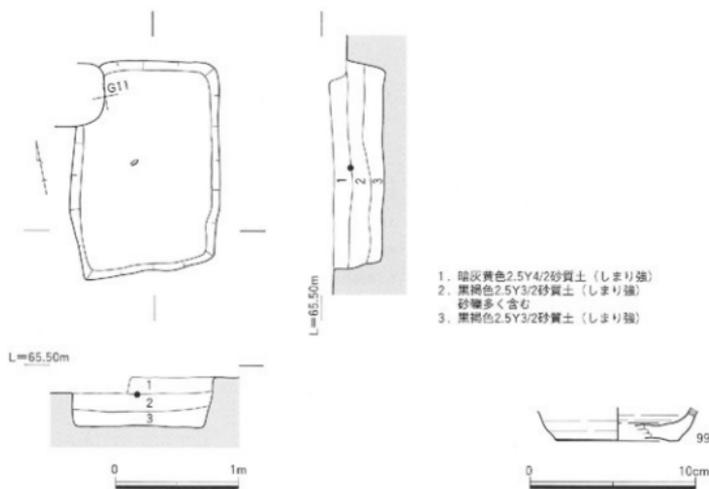


第123図 I地区ST1080遺構・遺物実測図

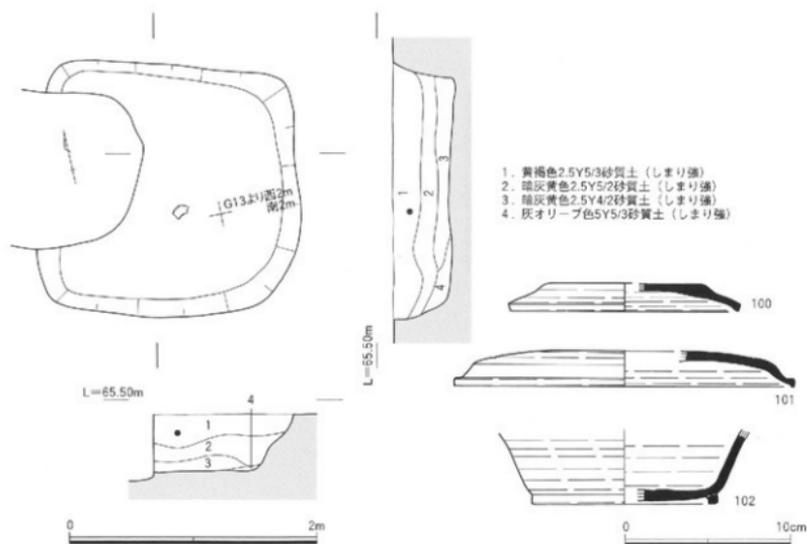
短く退化する。胎土は粗い。遺構の年代は、出土遺物に13世紀代とみられる瓦器碗を伴うが、103の羽釜は鈿部の退化状況から14世紀代と考えられる。

土墳墓101号（I地区 ST1101）（第127図）

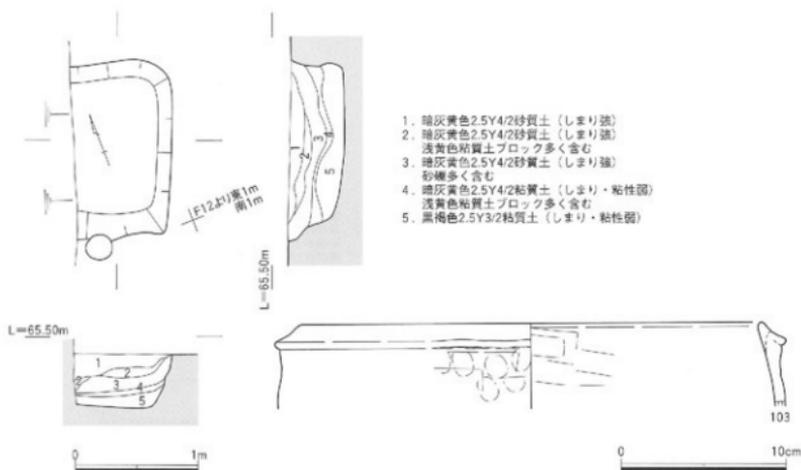
I-6 東区西部北側、F13・14グリッドに位置する、長軸108cm短軸50cm深度32cmを測る、隅丸長方形土坑である。主軸はN30°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は3層に分層できる。遺物は土師器片、須恵器片、土師質土器杯が出土。104は土師質土器杯である。底部外面に回転ヘラ切り痕を残す。古代に遡る可能性がある。



第124図 I地区ST1085遺構・遺物実測図

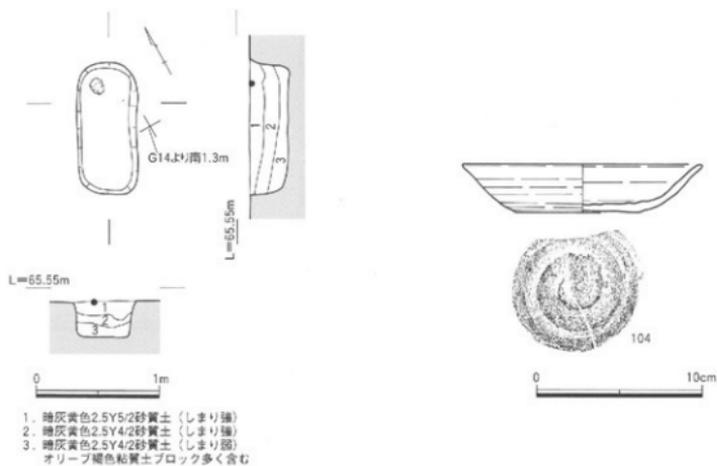


第125図 I地区ST1087遺構・遺物実測図



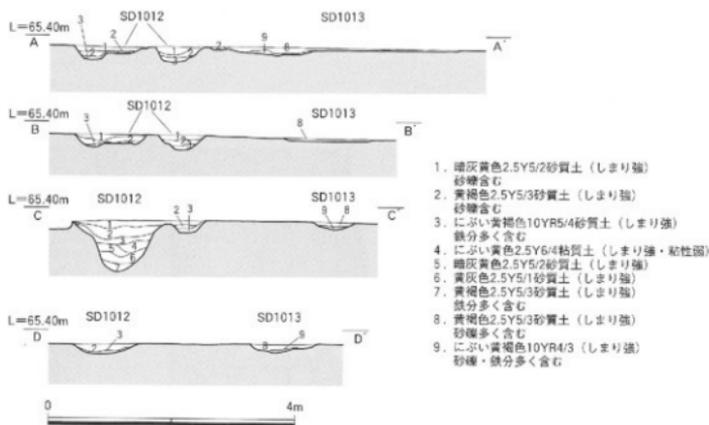
1. 暗灰黄色2.5Y4/2砂質土 (しまり強)
2. 暗灰黄色2.5Y4/2砂質土 (しまり強)
3. 暗灰黄色2.5Y4/2砂質土 (しまり強)
砂礫多く含む
4. 暗灰黄色2.5Y4/2粘質土 (しまり・粘性弱)
5. 暗灰色粘質土ブロック多く含む

第126図 I地区ST1088遺構・遺物実測図

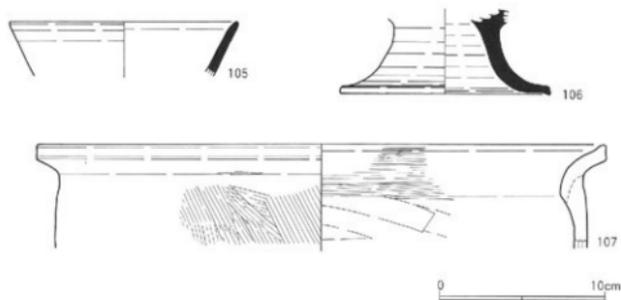


1. 暗灰黄色2.5Y5/2砂質土 (しまり強)
2. 暗灰黄色2.5Y4/2砂質土 (しまり強)
3. 暗灰黄色2.5Y4/2砂質土 (しまり弱)
オリーブ褐色粘質土ブロック多く含む

第127図 I地区ST1101遺構・遺物実測図



第128図 I地区SD1012・SD1013遺構断面図



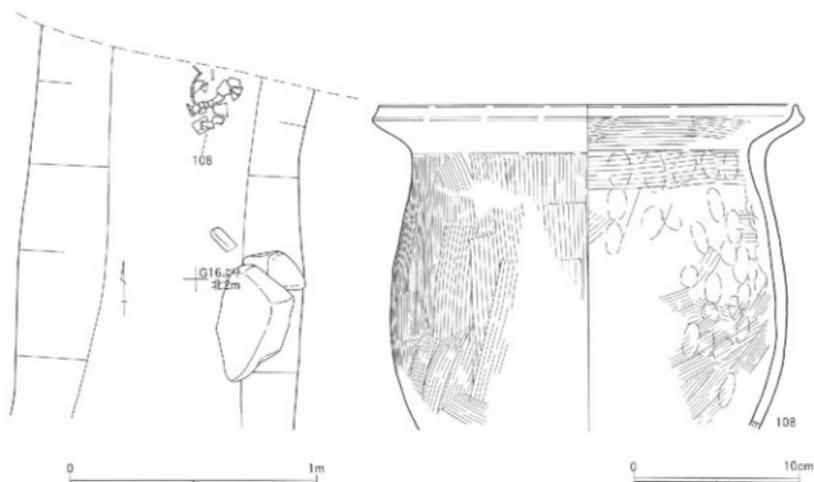
第129図 I地区SD1012遺物実測図

溝12・13号 (I地区 SD1012・1013) (第128～130図)

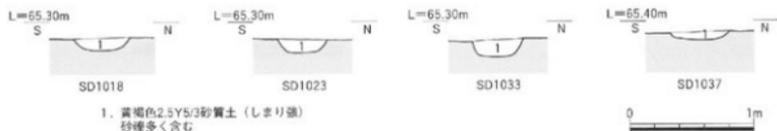
SD1012・1013は、I-5区東部～I-6東区東部北端に位置する。並行して走る南北方向の溝。位置的に条里の半町部分にあたることから、条里に規制された区画溝と考えられる。溝間のアゼ状の高まりには、直交する方向の浅い溝SD1014～1037がほぼ等間隔に検出された。これらの遺構は一体のものと考えられる。推測の域を出ないが、アゼ状の高まりは道路状遺構で、溝群は排水を目的としたものか、または粗朶や木板など敷設した痕跡ではないか。

SD1012はI-5区東部・I-6東区東部北端、E～K15・16グリッドに位置し、北は調査区外に延び、南は浅くなり途切れる。検出長30.2m幅220cm深度84cmを測る。主軸はN7°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は7層に分層できる。北側では2条の溝に分かれる。

SD1013はC～K15～17グリッドに位置し南北とも調査区外に延びる。検出長39.4m幅400cm深度16cm。



第130図 I地区SD1013遺構・遺物実測図



第131図 I地区SD1018・SD1023・SD1033・SD1037遺構断面図

主軸はN8°Eを向く。断面はレンズ状で、北側は浅く幅が広がる。埋土は2層に分層できる。

遺物は土師器片・煮炊具・鍋・甕、須恵器片・杯・高杯脚部、土師質土器片、須恵質土器甕、青磁碗、鉄滓が出土している。調査時に1条の溝と考えていたため、遺物の一部は分けられていない。図示したものは所属遺構が判明しており、105～107はSD1012、108はSD1013の出土遺物である。

105は青磁碗の上半部。無文で、釉薄く不透明。型式等不明。106は須恵器高杯脚部。焼成不良品で、内面に炭素附着。107は土師器鍋の上半部。口縁端部をわずかに上方に拡張。体部外面にタテハケ、口縁内面にヨコハケを施す。胎上に角閃石とみられる黒色粒を含む。讃岐方面からの輸入品と考えられる。108は土師器甕。口縁端部を上方に強く引き出し拡張する。体部外面にタテハケ、口縁～頸部内面にヨコハケ、体部内面に斜位のハケを施す。胎土は粗く結晶片岩を含む。

遺構の年代は、古代の遺物を多く含むことから概ね9世紀前後とみられる。

溝18・23・33・37号 (I地区 SD1018・1023・1033・1037) (第131図)

SD1014～1037は、SD1012と1013の間に挟まれた幅1～2mのアゼ状の高まりに、20～50cmの間隔をおいて並ぶ東西方向の浅い溝。I-5区東部中央～I-6東区東部北寄りに位置する。いずれも断面は

深度10～20cmの浅いレンズ状または逆台形状で、埋土は1層で、炭化物や有機物は確認されていない。

SD1018は、I-5区東部中央、H・H15・16グリッドに位置する、検出長1.76m幅46cm深度11cm。主軸はN79°Wを向く。SD1023は、I-5区東部南寄り、H15グリッドに位置する、検出長1.6m幅42cm深度10cm。主軸はN77°Wを向く。SD1033は、I-5区東部南端、F・G15グリッドに位置する、検出長1.4m幅42cm深度14cm。主軸はN80°Wを向く。SD1037は、I-6区東部東部北寄り、E15グリッドに位置する、検出長0.9m幅50cm深度10cm。主軸はN80°Wを向く。

不明遺構4号 (I地区 SX1004) (第132図)

I-4区中央部南寄り、J・K7～9グリッドに位置する、東西625cm南北500cm深度90cmを測る、不整形な方形の土坑状遺構。断面は不整形な逆台形状で、底面は北西がやや落ち込み、溝やピット状の浅い掘り込みがみられる。埋土は5層に分層。

遺物は土師器煮炊具、須恵器杯・甕、土師質土器片・杯・煮炊具・羽釜(内耳)、近世陶磁器片、備前焼灯明皿、肥前系染付壺か瓶、近世瓦片が出土。109は小型の肥前系染付壺か瓶である。外面篋文を絵付けし、内面は露胎。V期の油壺に文様・形状が近似する。18世紀後半～19世紀中葉か。

小穴281号 (I地区 SP1281) (第133図)

I-4区中央部北側、M8グリッドに位置する、径35cm深度22cmを測る、円形の小穴である。遺物は須恵器片、土師質土器片・銅が出土。110は土師質土器鍋。頸部外面に接合痕を残す。内外面ともユビオサエのち板ナデを施す。底部外面にタタキの痕跡はみられず、板ナデによって整形。

小穴480号 (I地区 SP1480) (第134図)

I-5区東部北側、J16グリッドに位置する、長径40cm深度18cmを測る、楕円形の小穴である。出土遺物は1点のみで、111は須恵器甕の肩部片。外面に格子タタキを施す。胎土は粗い。

小穴544号 (I地区 SP1544) (第135図)

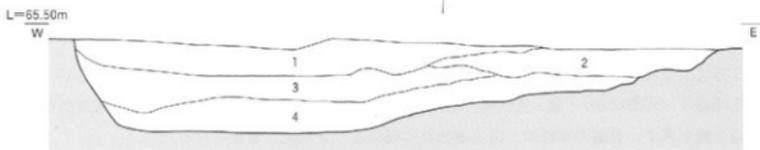
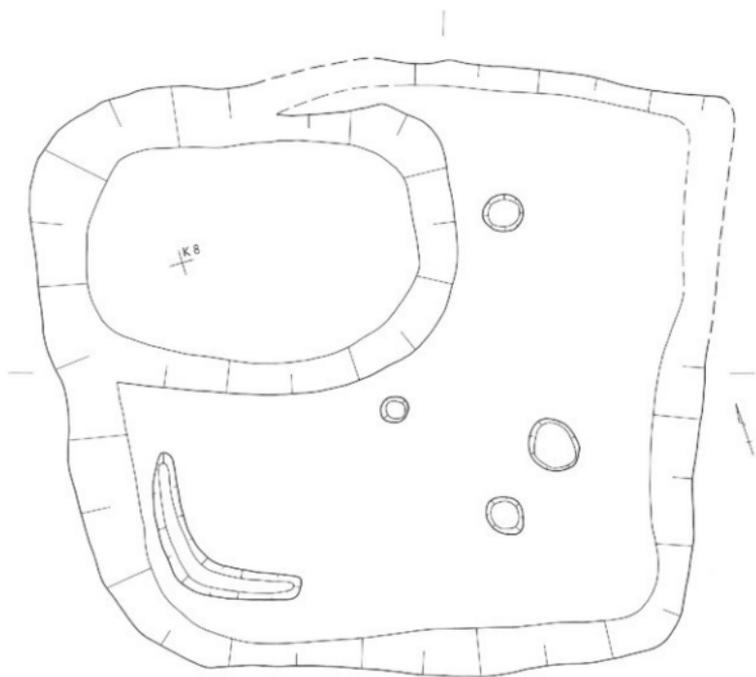
I-6西区中央部北寄り、H7グリッドに位置する、長径98cm深度15cmを測る、不整形な楕円形の小穴。遺物は土師器片(赤彩ほか)・皿・煮炊具、土師質土器片が出土。112は土師器皿である。底部外面に回転ヘラ切り痕を残す。遺構の年代は、出土遺物から概ね8～9世紀と考えられる。

小穴615号 (I地区 SP1615) (第136図)

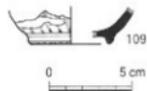
I-6西区東部北端、H9グリッドに位置する、径25cm深度32cmを測る、不整形な円形の小穴である。出土遺物は1点のみで、113は青磁碗の体部。体部外面にヘラ先によって細連弁文を施文。上田分類B-IV類に相当し、15世紀末～16世紀代の年代が与えられる。

小穴728号 (I地区 SP1728) (第137図)

I-6東区中央部南端、D13グリッドに位置する、径35cm深度33cmを測る、不整形な円形の小穴。遺物は土師質土器杯(回転糸切り)、東播系須恵土器捏鉢が出土。114は土師質土器杯である。回転台成形で、底部外面に回転糸切り痕を残す。遺構の年代は、出土遺物から概ね13～14世紀代と考えられる。



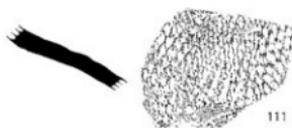
1. 暗灰黄色2.5Y5/2砂質土（しまり強）
 2. オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土（しまり強）
暗灰黄色砂質土ブロック含む
 3. オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土（しまり弱）
 4. 暗灰黄色2.5Y4/2砂質土（しまり弱）
 5. 暗灰黄色2.5Y4/2粘質土（しまり・粘性強）
- 1~3層、砂礫含む



第132図 I地区SX1004遺構・遺物実測図



第133図 I地区SP1281遺物実測図



第134図 I地区SP1480遺物実測図



第135図 I地区SP1544遺物実測図



第136図 I地区SP1615遺物実測図



第137図 I地区SP1728遺物実測図



第138図 I地区SP1757遺物実測図

小穴757号 (I地区 SP1757) (第138図)

I-6 東区中央部南端、D13グリッドに位置する、径31cm深度29cmを測る、円形の小穴。遺物は土師器片・碗、土師質土器杯が出土。115は回転台成形の土師質土器杯で、底部を欠く。

〈I地区 第1包含層出土遺物〉(第139図)

116は土師器鍋の口縁部。頸部の器壁が厚い。体部外面と内面はハケ調整。117は土師器甕の上半部。口縁端部を上方に大きく拡張。体部外面に斜位ハケ、口縁内面にヨコハケ、体部内面は板ナデを施す。

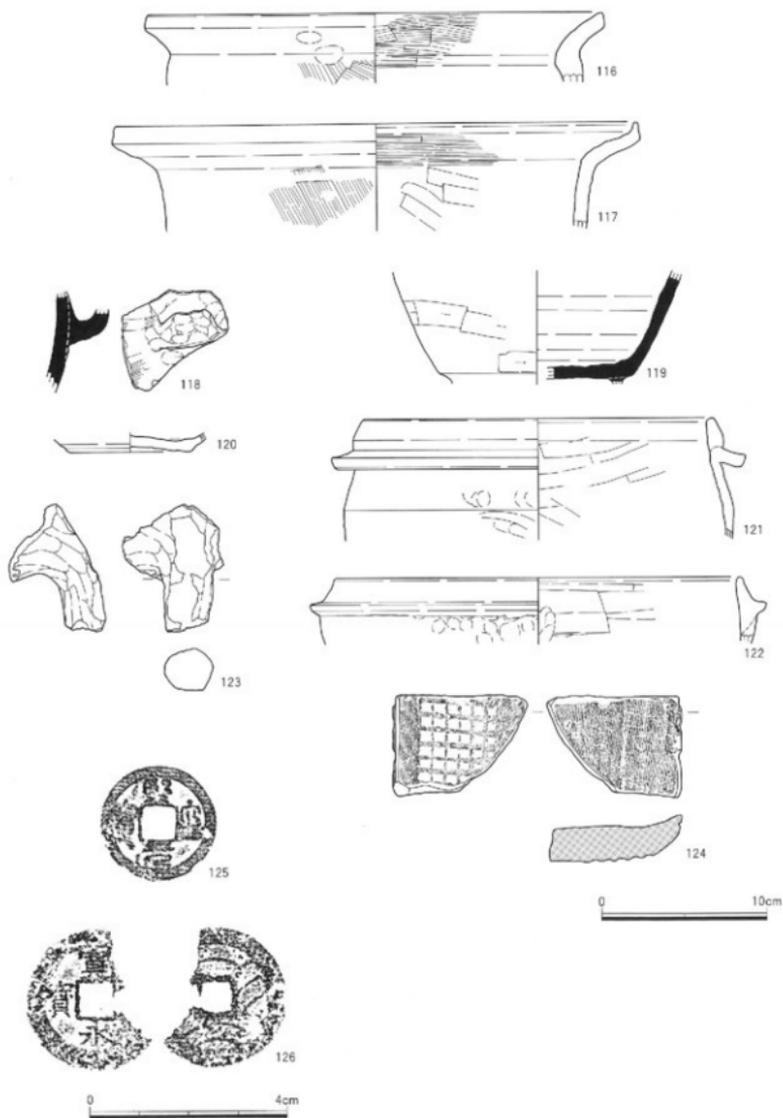
118は須恵器鉢か甕の把手である。やや内彎気味の体部外面に把手部を貼り付け、基部を板状工具でなでつける。119は高台付の須恵器壺の体部下半。外面に横位のヘラズリを施す。

120は土師質土器杯の底部。底部外面に回転糸切り痕を残す。

121・122は土師質土器羽釜の上部。121は鈔部を折り曲げ技法で作し、口縁と鈔端部は方形を作る。同一個体片に脚部の剥離痕があり、三足を有する。讃岐楠井産羽釜に近似した形状であるが、胎土に結晶片岩を含むため在地産と認定。122は鈔・口縁の端部が三角形に細り、鈔はやや短く退化気味。鈔部直下に連続した指頭圧痕を残す。123は土師質土器煮炊具脚部である。大きく外方に張り出す。

124は瓦質平瓦である。凸面に格子タタキ、凹面に布目圧痕を残す。炭素吸着は不良。

125は銅銭。北宋銭の熙寧元寶の篆書体で、1068年初鑄。彫り浅く銭文は不鮮明である。面左下部に鉄釘が接触していたが、遺存状態が悪く実測し得なかった。126は真鍮製銭貨。寛永通寶で、背に11波



第139图 I地区第1包含层遗物实测图

をもつ四文銭。1769年の初鋳である。周囲に鉄分が固着するが、蛍光X線分析により真鍮製と判明。

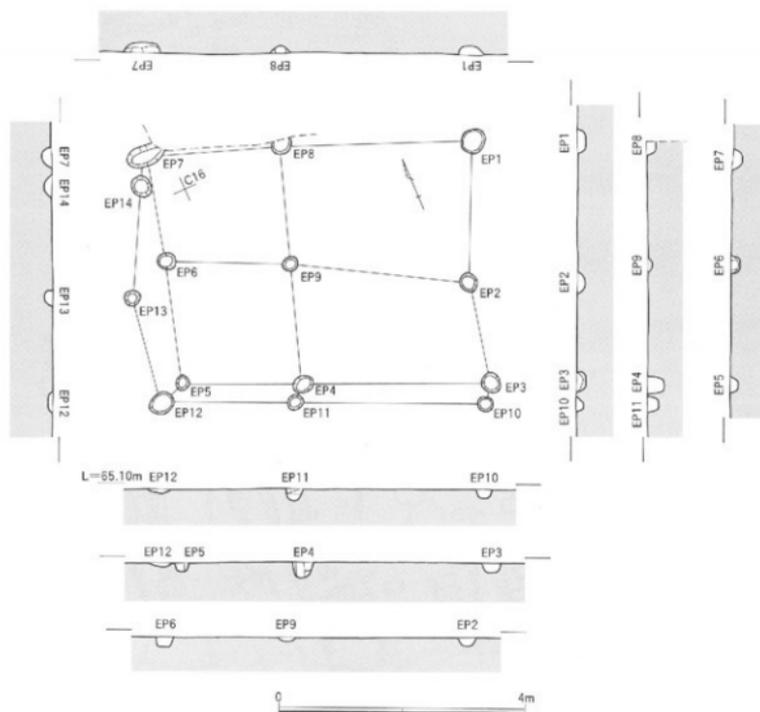
Ⅱ地区 第2遺構面

Ⅱ-2・4・5・7区 (第140・172図)

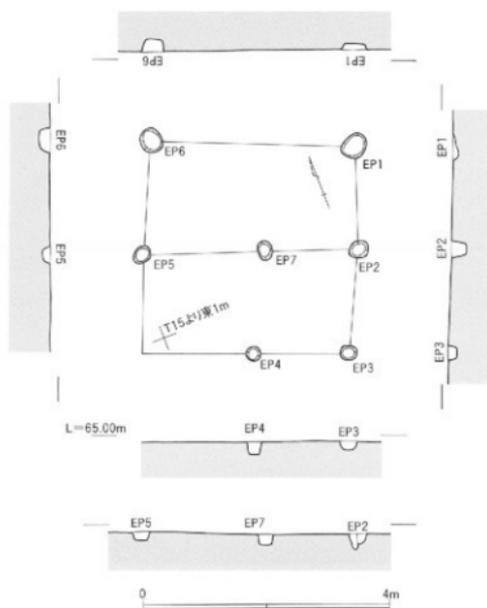
Ⅱ地区は中庄東遺跡の西部に位置する調査区で、現在の吉野川河道まで約60mの距離にある。Ⅱ-2・4・5・7区はⅡ地区の中央部から東部に位置し、東西に延びる調査区である。Ⅱ地区では本調査区のみ遺構面を2面検出した。遺構は部分的にSTやSKが密集し疎密がある。SA6棟、SB1棟、SK113基、SH2基、ST149基、SD19条、SU1基、SX1基、SP205基が検出されている。

掘立柱建物1号 (Ⅱ地区 SA2001) (第141図)

Ⅱ-4区西部中央、A~C15・16グリッドに位置する。東西2間 (5.3m) 南北2間 (3.8m) 床面積



第141図 Ⅱ地区SA2001遺構実測図



第142図 II地区SA2002遺構実測図

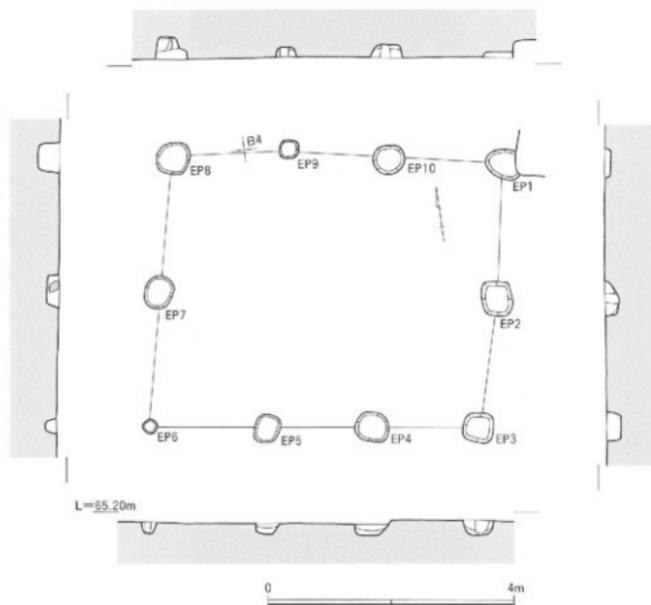
20.1㎡〈底部含めて東西2間(5.4m)南北3間(4.2m)22.7㎡〉を測り、14基の柱穴をもつ南・西庇付きの総柱建物で、建物主軸N69°Wを向く。柱穴の平面形は円形または不整形で、径25～42cm深度6～27cmを測る。遺物はEP1・2・7・10から、土師質土器片・杯(回転糸切り)、瓦質土器鉢、板状鉄製品、鉄釘が出土している。第2遺構面で検出したが、中世前半期の遺構と考えられる。

掘立柱建物2号(II地区 SA2002)(第142図)

II-4区西部南端、S・T15・16グリッドに位置する。東西1間(3.3m)南北2間(3.4m)床面積11.2㎡を測り、7基の柱穴をもつ掘立柱建物で、建物主軸N22°Eを向く。南西隅の柱穴を欠く。柱穴の平面形は円形または不整形で、径25～45cm深度9～27cmを測る。出土遺物は皆無である。

掘立柱建物3号(II地区 SA2003)(第143図)

II-4区中央部北端、T-B3・4グリッドに位置する。東西3間(5.4m)南北2間(4.3m)床面積23.2㎡を測り、10基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸N81°Wを向く。柱穴の平面形は隅丸形状で、一辺22～57cm深度8～38cmを測る。EP2・3・6・8～10で柱痕を確認。出土遺物は皆無であるが、柱穴の平面形から古代の建物である可能性が高い。



第143図 II地区SA2003遺構実測図

掘立柱建物4号（II地区 SA2004）（第144図）

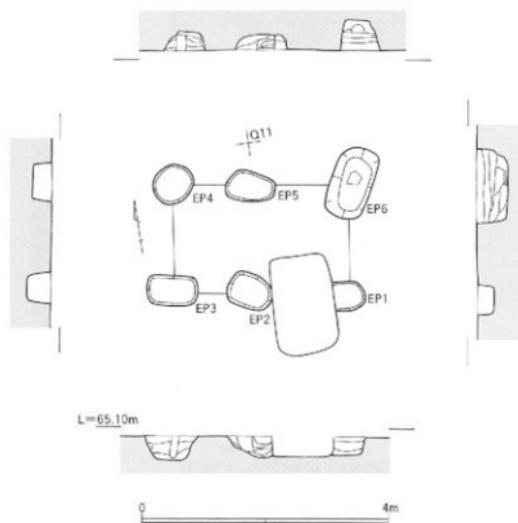
II-4区（東）西部、P10・11グリッドに位置する。東西2間（3.0m）南北1間（1.6m）床面積4.8㎡を測り、6基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸N85°Wを向く。調査区が狭小であるため、調査区外に延びる可能性もあるが、隣接調査区では確認されていない。柱穴の平面形は隅丸長方形または不整な楕円形で、一辺50～115cm深度31～52cmを測る。EP1を除いて柱痕とみられる土層が確認できる。

掘立柱建物5号（II地区 SA2005）（第145図）

II-4区（東）東部、O15・16グリッドに位置する。東西2間（3.6m）南北2間以上（1.6m以上）床面積5.8㎡以上を測り、6基の柱穴をもつ掘立柱建物で、建物主軸N83°Wを向く。柱穴の平面形は隅丸方形または不整円形で、一辺75～100cm深度18～68cmを測る。本建物は南に延びると推測され、果道出口太刀野線調査の3地区第2遺構面で検出した掘立柱建物SA2006の北側部分にあたり、合わせて東西3間（4.8m）南北2間（3.5m）床面積16.8㎡、12基の柱穴をもつ総柱建物となる可能性がある。

掘立柱建物6号（II地区 SA2006）（第146図）

II-7区東部、N・O19・20グリッドに位置する。東西2間（4.7m）南北2間（4.3m）床面積20.2



第144図 II地区SA2004遺構実測図

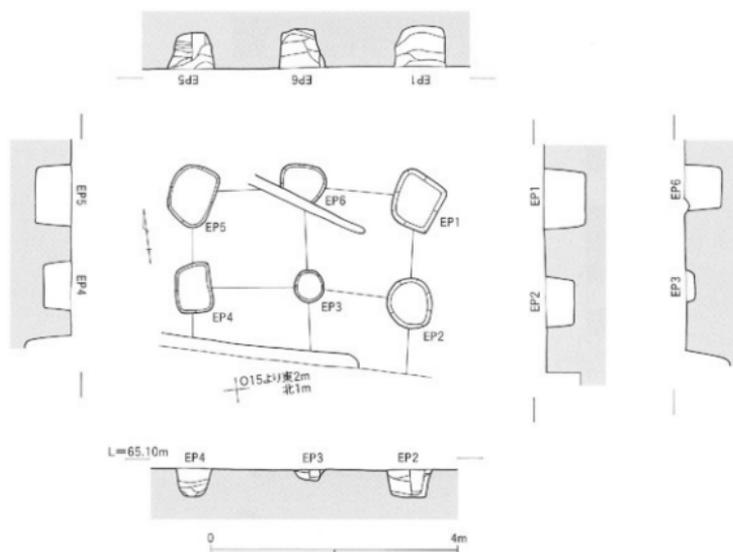
mを測る。東側中央の柱穴を欠くが、8基の柱穴をもつ縦柱建物とみられる。建物主軸N80°Wを向く。柱穴の平面形は円形または不整形円形で、径25～50cm深度5～26cmを測る。遺物はEP6から土師質土器とみられる杯が出土。

竪穴住居1号（II地区 SB2001）（第147～150図）

II-4区中央部、S・T4グリッドに位置する。本来の遺構面より約15cm下げて検出作業を行ったため、住居掘り方の北東部・竈部分と主柱穴および東側周壁溝の一部を検出したにとどまる。東西・南北とも残存長400cm深度8cmを測る。推定規模一辺約4.5mの方形の竪穴住居と考えられる。竈部を除く遺構埋土は5層で、うち第1～4層が周壁溝土層、第5層が部分的に強くしまることから貼床とみられる。

竈（EH）は遺構北辺中央部に位置するとみられる。聖体は両袖部と奥壁部が残存し、煙道部は検出されなかった。袖部長88cm袖部残存高13cm突き口部幅62cmを測る。下部構造は東西157cm南北123cm深度11cmの不整形円形で、断面は浅い皿状を呈する。埋土は7層に分層され、第3層が袖部土層、第5層上面が焼成部床面と考えられる。EPは4基検出し、径40～60cm深度22～49cmを測る。断面はU字形で、埋土は8層に分層できる。位置的にすべて主柱穴になると考えられる。

遺物は土師器片・甕、須恵器片・杯・壺、瓦器片が出土しているが、中世遺物は混入である。127は無高台の須恵器杯。底部外面回転ヘラ切り痕を残す。胎土に砂岩とみられる粒子を含む。128は高台付須恵器杯の底部。底部外面回転ヘラ切りのち断面遊台形状の高台を貼り付ける。胎土に結晶片岩を含む。



第145図 II地区SA2005遺構実測図

ともに焼成不良で、部分的に炭素が付着。129は住居北西隅で出土した高台付の須恵器壺で、口縁が欠く。体部外面下位に平行タキの痕跡を残す。肩部外面に自然釉が付着。胎土に結晶片岩とみられる粒子を含む。130は住居北東部、竈の東で出土した土師器壺である。体部外面は丁寧なタテハケ、内面は板ナデを施す。遺構の年代は、出土遺物から概ね8世紀前葉頃と考えられる。

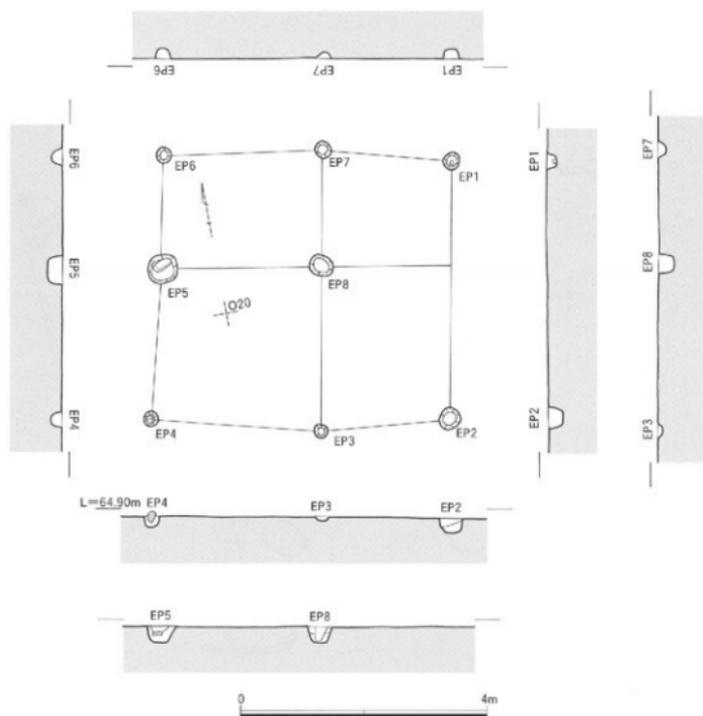
土坑2号（II地区 SK2002）（第151図）

II-4区西部南寄り、A15グリッドに位置する、長軸87cm短軸76cm深度8cmを測る、隅丸方形の土坑である。断面は浅い皿状で、埋土は1層である。出土遺物は1点のみで、131は須恵器壺の体部上位片。外面に格子タキのち部分的にカキメを施す。焼成不良品で、外面に炭素付着し、瓦質焼成気味。

土坑3号（II地区 SK2003）（第152図）

II-4区西部北寄り、B・C15・16グリッドに位置し、北側を試掘坑に切られる。南北残存長134cm東西97cm深度8cmを測る。検出面の約8cm上で遺物が出土。断面は方形で、埋土は2層に分層できる。

遺物は須恵器片、土師質土器片・羽釜・鍋が出土。132は土師質土器羽釜の上部。鈿部は折り曲げ技法で作る。口縁・鈿ともに端部は丸みを帯びる。外面に指頭圧痕が明瞭で、鈿部直下に連続する指爪痕を残す。内面は横位の板ナデを施す。破面も含め煤の付着がみられることから、二次的な被熱の可能性



第146図 II地区SA2006遺構実測図

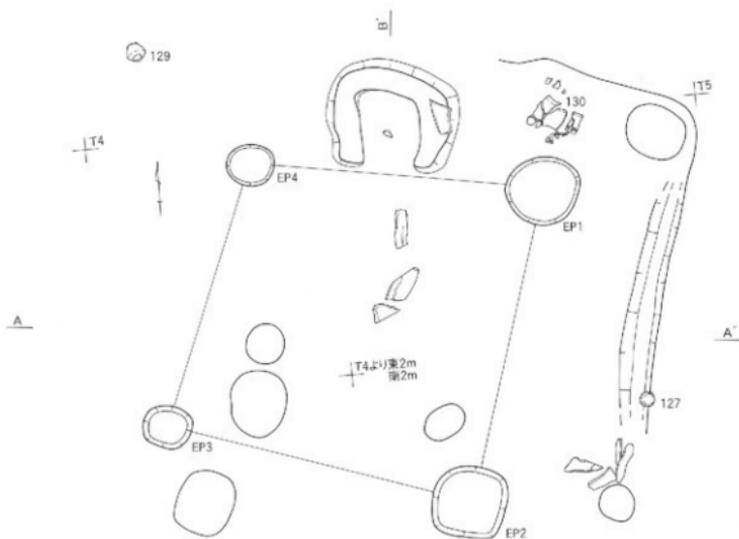
あり。133は土師質土器鍋。口縁内面に弱い受口状に作る。体部内外面に指頭圧痕のち横位の板ナデを施し、底部外面に格子タキを残す。胎土に砂岩を含む。遺構の年代は、概ね14世紀代と考えられる。

土坑4号（II地区 SK2004）（第153図）

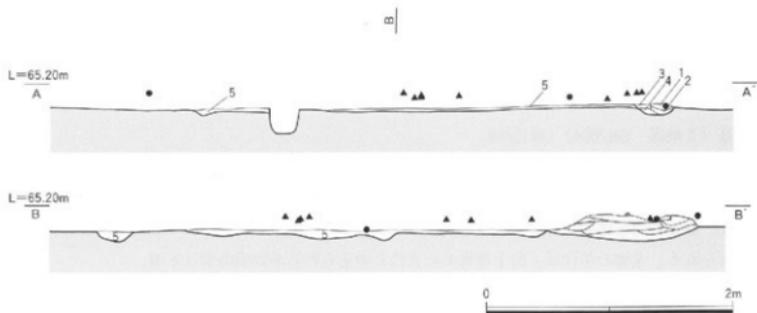
II-4区西部北寄り、B・C15・16グリッドに位置し、東側を遺構に切られる。南北135cm東西残存長76cm深度8cmを測る、不整形の土坑。断面は逆台形状で、埋土は2層に分層できる。遺物は土師器片・煮炊具、須恵器片・甕が出土。134は須恵器甕の上部。体部外面に平行タキを残す。胎土に砂岩を含むとみられる。遺構の年代は、出土遺物から古代と考えられるが詳細時期は不明。

土坑15号（II地区 SK2015）（第154図）

II-4区西部南側、S17グリッドに位置し、北東隅を遺構が切る。長軸144cm短軸94cm深度14cmを測

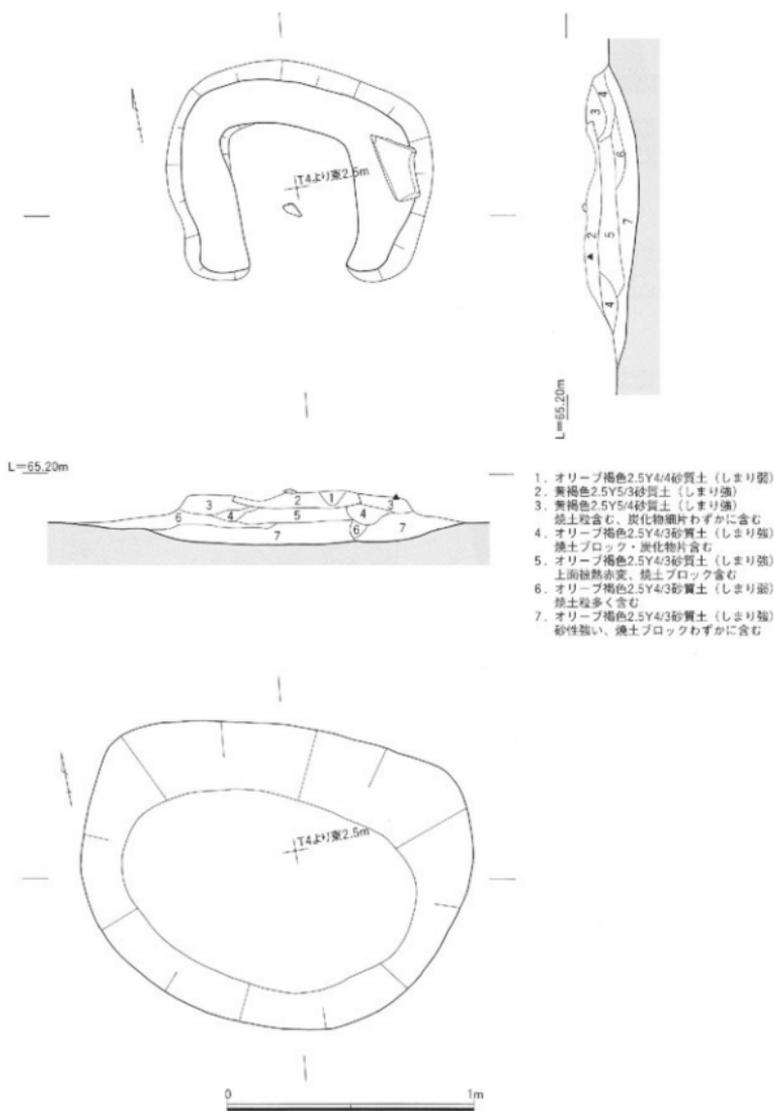


1. 黄褐色2.5Y5/3砂質土 (しまり強)
 2. 黄褐色2.5Y5/4砂質土 (しまり強)
池土ブロックわずかに含む
 3. オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土 (しまり強)
 4. 黄褐色2.5Y5/4砂質土 (しまり強)
 5. 黄褐色2.5Y5/3砂質土 (しまり強)
所によりしまり非常に強
- 1~4は根葉溝、5は粘床か住居下部構造

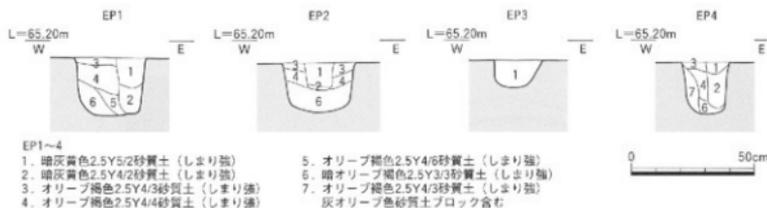


第147図 II地区SB2001遺構実測図

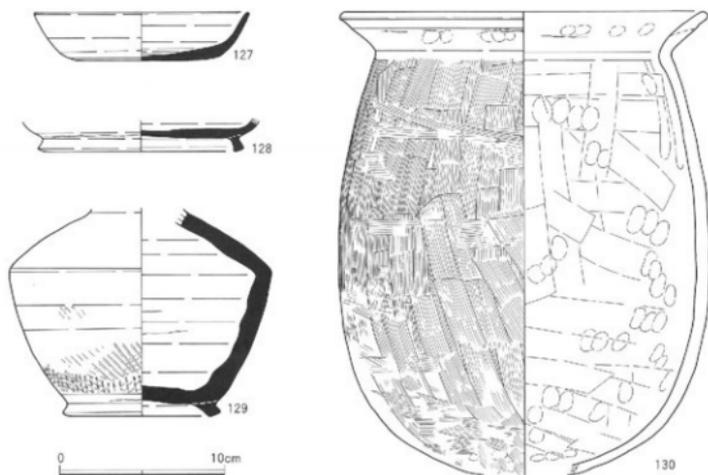
新かけ部はEH1土層



第148図 II地区SB2001 EH1下部構造実測図



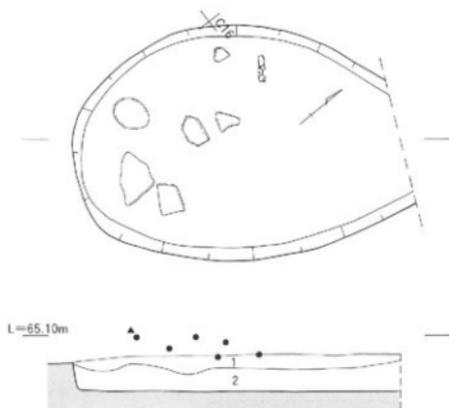
第149図 II地区SB2001 EP遺構断面図



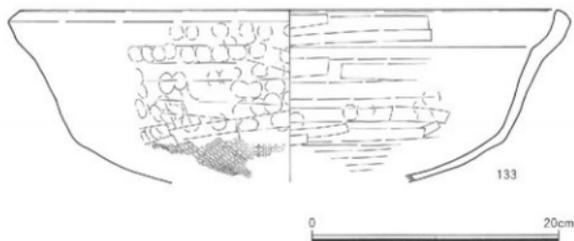
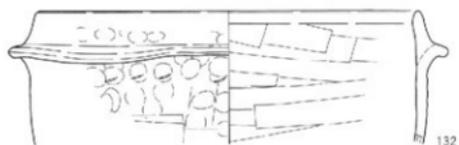
第150図 II地区SB2001遺物実測図



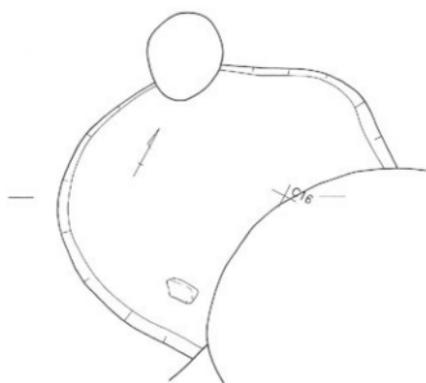
第151図 II地区SK2002遺構・遺物実測図



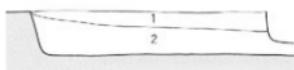
1. 暗オリーブ色7.5Y4/3砂質土（しまり強）
 2. オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土（しまり強）



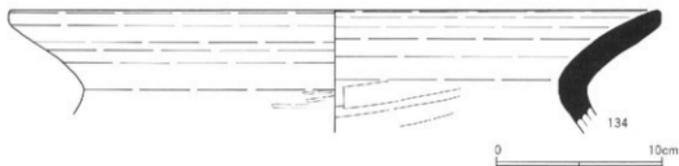
第152図 II地区SK2003遺構・遺物実測図



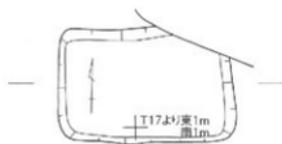
L=65.10m



1. 暗オリーブ色5Y4/3砂質土（しまり強）
2. オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土（しまり強）



第153図 II地区SK2004遺構・遺物実測図



L=64.90m



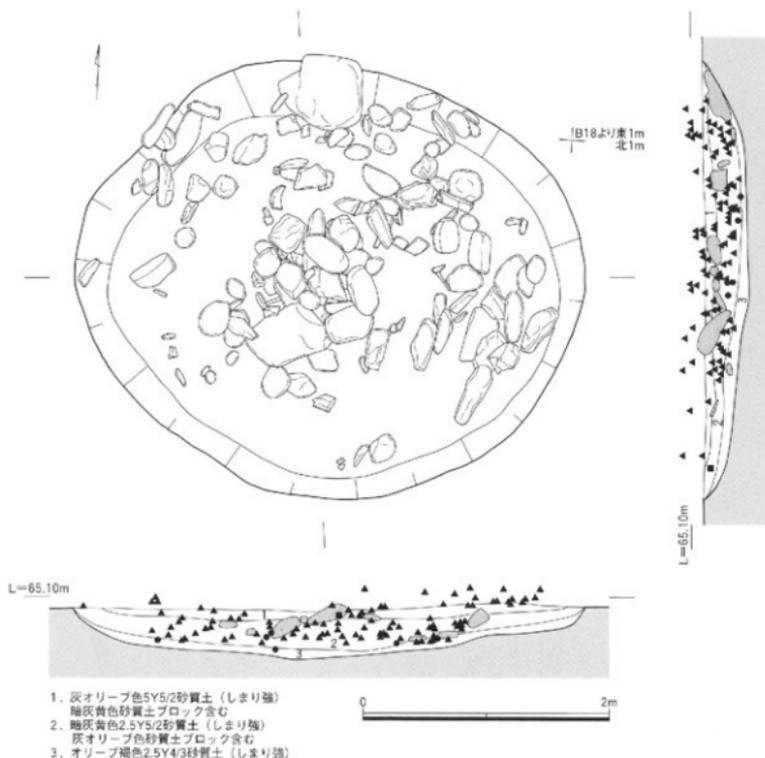
1. オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土（しまり強）
黄褐色砂質土ブロック含む



0 1m

0 10cm

第154図 II地区SK2015遺構・遺物実測図



第155図 II地区SK2019遺構実測図

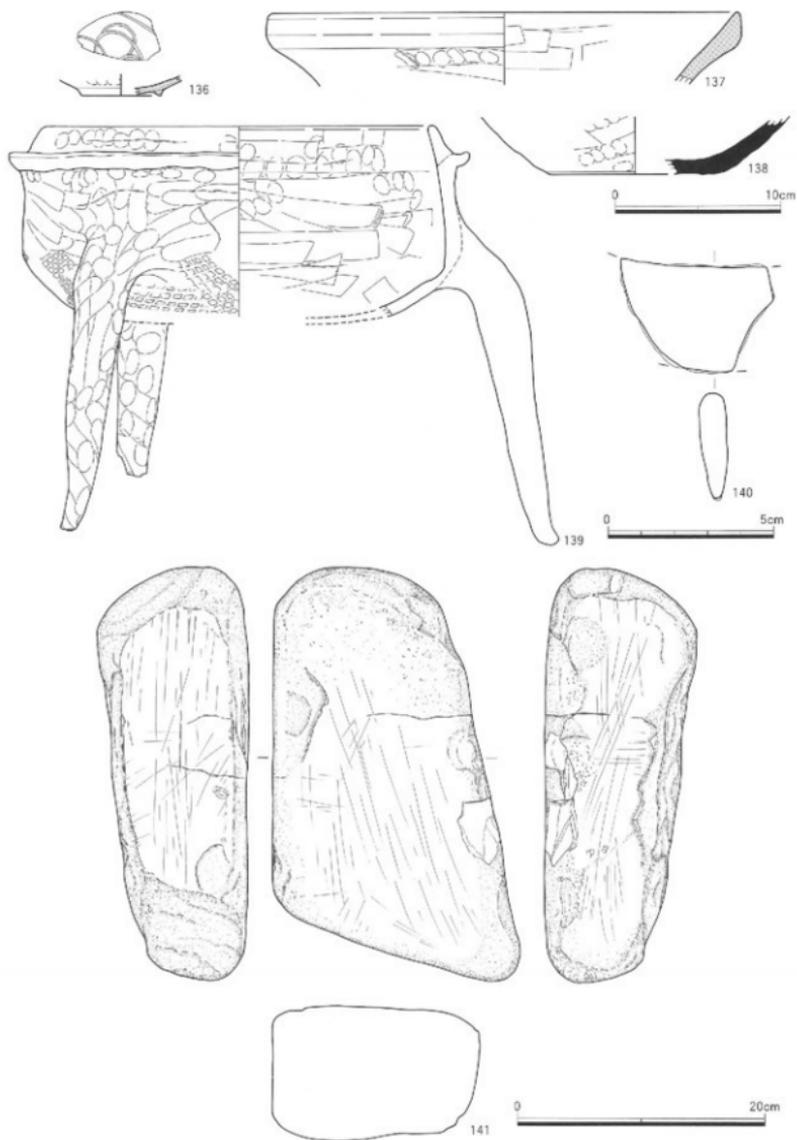
る、隅丸長方形の土坑。主軸はN88°Eを向く。断面は皿状で、埋土は1層である。遺物は弥生土器壺か甕、土師器片が出土。135は弥生土器壺か甕の底部。丸底で器壁が厚い。外面にタテハケ、内面に縦位のヘラケズリを施す。胎土に結晶片岩と絹雲母を含む。弥生時代後期末。

土坑19号（II地区 SK2019）（第155・156図）

II-4区西部中央、A・B17・18グリッドに位置する、長軸412cm短軸350cm深度38cmを測る不整円形の土坑。断面は皿状で、埋土は3層に分層できる。埋土全体に握拳大～人頭大の礫を多量に含む。礫の配置に規則性は見いだせない。

遺物は土師質土器皿・杯（回転糸切り）・煮炊具・脚部・羽釜・甕、瓦器椀、瓦質土器捏鉢、須恵質土器捏鉢、鉄製品片、板状鉄製品、鉄滓、砂岩製砥石が出土。

136は瓦器椀の底部。底部内面に連結輪状ヘラミガキ暗文を施す。炭素吸着は内面良好、外面不良で



第156图 II地区SK2019遗物实测图

ある。和泉型瓦器碗Ⅲ-3期前後に相当し、13世紀前葉の年代が与えられる。

137は瓦質土器捏鉢の上部。口縁端部を上方に拡張。胎土に多量の結晶片岩を含む。炭素吸着は内面やや不良、外面良好。138は東播系須恵質土器捏鉢の下半部。底部外面に回転糸切り痕を残す。内面は使用のため摩耗著しい。139は土師質土器羽釜。鈎部は折り曲げ技法で作る。口縁端部は丸く仕上げ、鈎端部は尖らせ気味に作る。体部内外面とも指オサエのち横位の板ナデを施し、底部外面に格子タタキを残す。底体部の境付近に脚部を取り付ける。胎土は粗く、砂岩を含む。

140は用途不明の板状鉄製品。厚みは1cm近くあり、下方に向けて厚みを減らす。鋤先の一部であろうか。141は砂岩製砥石である。全長30cm超、重量約11kgの大型品である。3面を砥面として使用。

遺構の年代は、出土遺物から概ね13~14世紀頃と考えられる。

土坑42号(Ⅱ地区 SK2042)(第157・158図)

Ⅱ-4区中央部、T・A2グリッドに位置する、長軸275cm短軸150cm深度21cmを測る不整形土坑。主軸はN23°Eを向く。断面は皿状で、埋土は2層に分層できる。第1層を中心に犬頭人の礫が多く出土するが、配置に規則性は見いだせない。

遺物は土師器片、土師質土器片・杯(回転糸切りほか)・煮炊具脚部・羽釜が出土。142~145は土師質土器杯。回転台成形で、142は回転糸切りのち板目痕を残し、144は回転糸切り痕を残す。142は胎土に砂岩とみられる粒子を含み、144・145は結晶片岩を含む。146は土師質土器羽釜の上部。鈎部は折り曲げ技法とみられる。遺構の年代は、出土遺物から概ね13世紀後半~14世紀代と考えられる。

土坑55号(Ⅱ地区 SK2055)(第159図)

Ⅱ-4区東部北側、T5・6グリッドに位置する、長軸96cm短軸53cm深度15cmを測る、不整な隅丸長方形の土坑。主軸はN8°Eを向く。断面は緩い逆台形状で、埋土は2層に分層できる。遺構北東寄りの検出面で10~30cm大の礫を検出している。土壌裏の可能性もある。遺物は1点のみで、147は長胴形の体部をもつ土師器甕。体部外面にタテハケ、口縁内面にヨコハケを、体部内面に指頭爪痕のち横位の板ナデを施す。概ね7世紀代と考えられる。

土坑103号(Ⅱ地区 SK2103)(第160図)

Ⅱ-4区(東)西部、P11グリッドに位置する、長軸167cm短軸78cm深度20cmを測る、隅丸長方形の土坑。主軸はN3°Eを向く。断面はエッジの緩い逆台形状で、底面は凹凸が激しい。埋土は1層である。

出土遺物は1点のみで、148は弥生土器壺の体部上位。体部外面に平行タタキ、内外面に細かなハケ調整を施す。弥生時代後期後半とみられる。

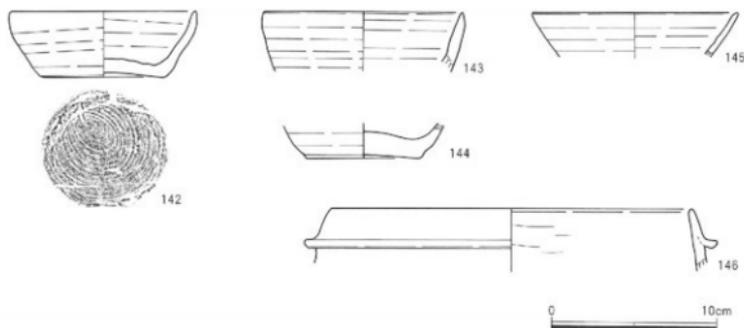
焼土坑2号(Ⅱ地区 SH2002)(第161図)

Ⅱ-4区東部北端、T9・10グリッドに位置する、長軸73cm短軸73cm深度22cmを測る、不整円形の焼土坑。断面は不整な逆台形状で、埋土は3層に分層できる。第2層に炭化物片と遺物を多く含む。

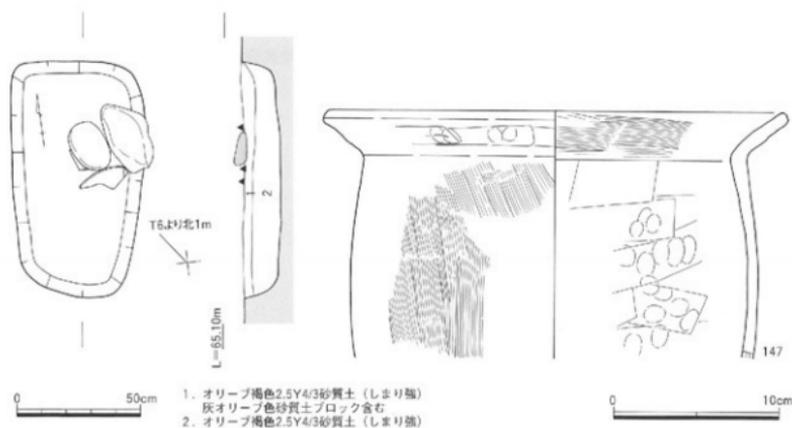
遺物は須恵器片、土師質土器片・杯(回転糸切り)・皿、瓦器碗が出土。149は瓦器碗。口径15.0cmを測る。体部外面に粗い横位のハラミガキ、体部内面に横位のハラミガキ、底部内面に平行ハラミガキ暗



第157図 II地区SK2042遺構実測図



第158図 II地区SK2042遺物実測図



第159図 II地区SK2055遺構・遺物実測図

文を施す。内外面炭素吸着やや不良で、外面は重焼により部分的に炭素吸着がみられない。和泉型瓦器碗のⅢ-2期に相当し、12世紀末~13世紀初頭の年代が与えられる。

土壌墓80号 (II地区 ST2080) (第162図)

Ⅱ-4区東部北側、T6グリッドに位置する、長軸182cm短軸100cm深度21cmを測る、隅丸長方形の土塚墓。主軸はN15°Eを向く。断面は方形で、埋土は2層に分層できる。

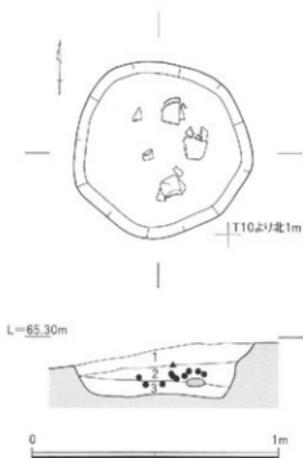
出土遺物は1点のみで、150は土師器杯の上半部。外面に横位のヘラミガキ、口縁内面に円弧状のヘ



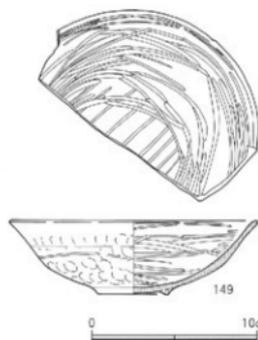
1. オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土 (しまり強)
黄褐色砂質土ブロック含む



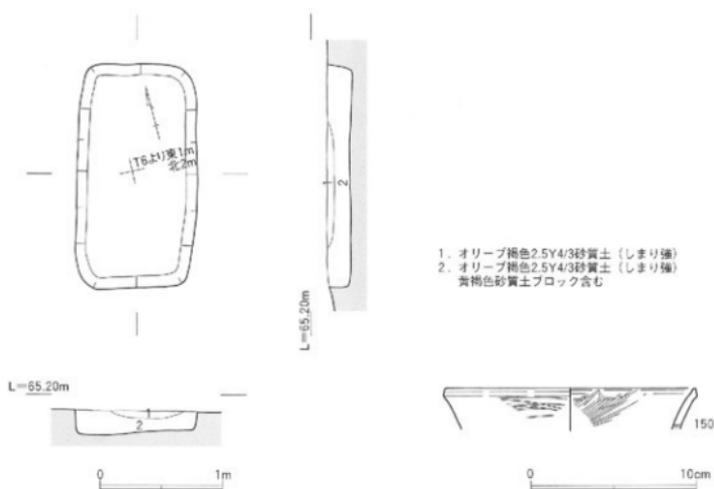
第160図 II地区SK2103遺構・遺物実測図



1. 暗灰黄色2.5Y4/2砂質土 (しまり強)
黄褐色砂質土ブロック含む
1cm未満炭化物片少量含む
2. 暗灰黄色2.5Y4/2砂質土 (しまり強)
灰オリーブ色砂質土ブロック多く含む
炭化物細片多く含む
土器片多く含む
3. 黄褐色2.5Y5/4砂質土 (しまり強)
暗灰黄色砂質土ブロック含む



第161図 II地区SH2002遺構・遺物実測図



第162図 II地区ST2080遺構・遺物実測図

ラミガキ暗文、体部内面に放射状ヘラミガキ暗文を施す。胎土は精良で、結晶片岩を含むとみられる。平城Ⅱ期前後、8世紀前半とみられる。

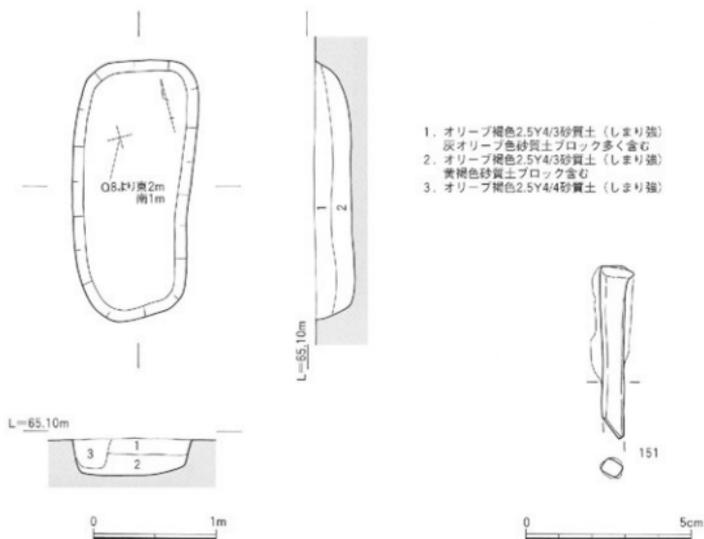
土墳墓100号（II地区 ST2100）（第163図）

Ⅱ-4区東部南寄り、P8グリッドに位置する、長軸214cm短軸98cm深さ30cmを測る、隅丸長方形の土墳墓。主軸はN18°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は3層に分層できる。遺物は土師質土器片、鉄釘が出土。151は鉄釘である。頂部を叩いて平頭にする。

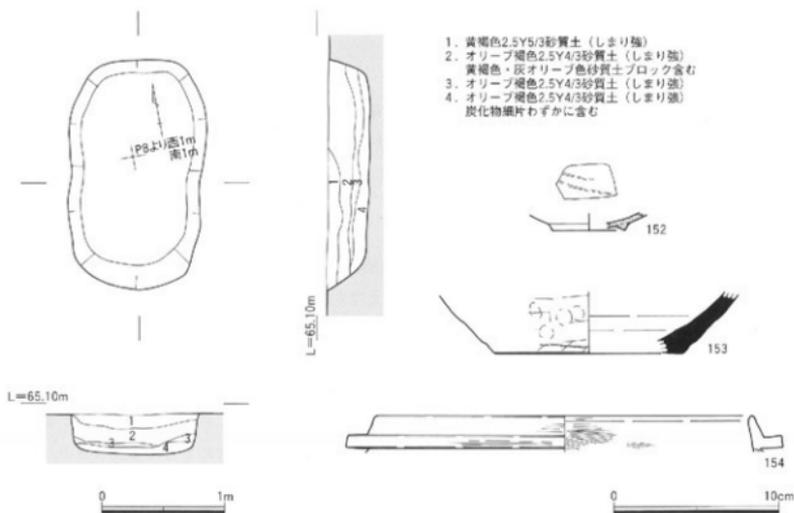
土墳墓104号（II地区 ST2104）（第164図）

Ⅱ-4区西部南端、O7グリッドに位置する、長軸185cm短軸115cm深さ34cmを測る、不整な楕円形の土墳墓。主軸はN10°Eを向く。断面は逆台形状で、埋土は4層に分層第4層で少量の炭化物片を含む。

遺物は土師質土器片・羽釜、瓦器碗、瓦質土器鉢、須恵質土器捏鉢が出土。152は瓦器碗の底部である。内面に平行ヘラミガキ暗文を施す。底部外面に断面三角形の低い高台を貼り付ける。炭素吸着は内面良好、外面不良。和泉型瓦器碗Ⅲ-3期前後とみられ、13世紀前葉の年代が与えられる。153は須恵質土器捏鉢の下部。回転台成形で、胎土は粗く、焼成はやや不良である。内面の磨耗著しい。東播系とみられる。154は土師質土器羽釜の上部。鋤端部を方形に作り、端面を含めてほぼ全面にヨコハケを施す。楠井産足釜AⅠ類に酷似するが、同地産かは不明。13世紀後半と考えられる。



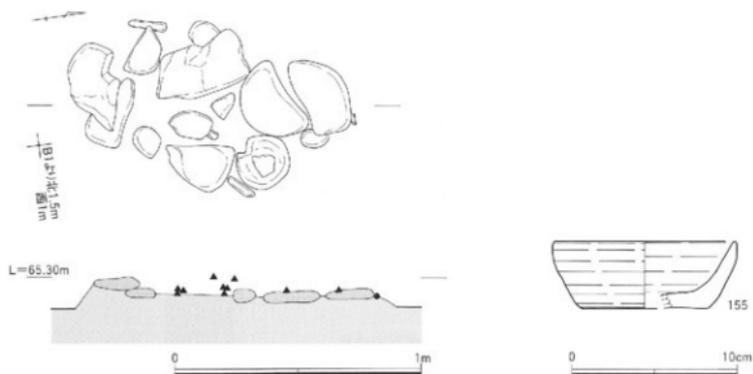
第163図 II地区ST2100遺構・遺物実測図



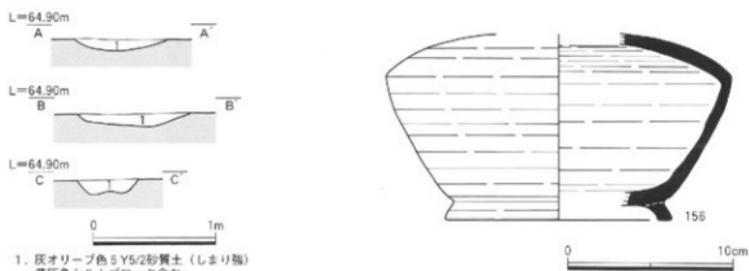
第164図 II地区ST2104遺構・遺物実測図

集石遺構1号(Ⅱ地区 SU2001)(第165図)

Ⅱ-4区中央部北側、B20グリッドに位置する、長軸117cm短軸67cmを測る。検出面上2~14cmの高さ65.2m付近で、ほぼ水平に人頭大の板状礫を検出。直下に掘り込みは確認できない。遺物は検出面より13cm上で出土。遺物は土師質土器片・杯(回転糸切り)が出土している。155は土師質土器杯。底部外面に回転糸切り痕を残す。概ね13世紀前後とみられる。

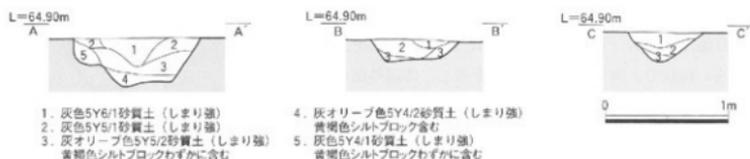


第165図 Ⅱ地区SU2001遺構・遺物実測図



1. 灰オリーブ色S Y5/2砂質土(しまり強)
黄灰色シルトブロック含む

第166図 Ⅱ地区SD2018遺構・遺物実測図



1. 灰色S Y6/1砂質土(しまり強)
2. 灰色S Y5/1砂質土(しまり強)
3. 灰オリーブ色S Y5/2砂質土(しまり強)
黄褐色シルトブロックわずかに含む

4. 灰オリーブ色S Y4/2砂質土(しまり強)
黄褐色シルトブロック含む
5. 灰色S Y4/1砂質土(しまり強)
黄褐色シルトブロックわずかに含む

第167図 Ⅱ地区SD2019遺構断面図

溝18号（Ⅱ地区 SD2018）（第166図）

Ⅱ-7区、O・P16～1グリッドに位置する、検出長26.4m幅100cm深度12cmで、SD2019と並行して東西に走る。主軸はN75°Wを向く。県道調査区の6地区に続く。断面はレンズ状で、埋土は1層である。

遺物は土師器片・煮炊具、須恵器片・壺、土師質土器煮炊具が出土。156は須恵器壺で頭部を欠く。肩部が強く張り、高台は外下方に踏ん張る。平城V～VI期前後、8世紀後半とみられる。

溝19号（Ⅱ地区 SD2019）（第167図）

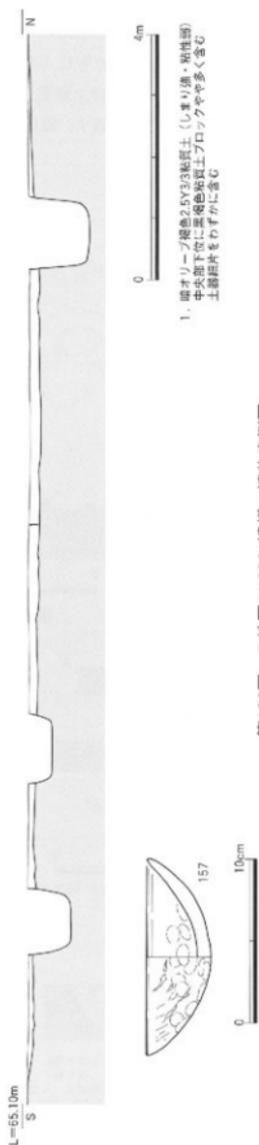
Ⅱ-7区、O・P16～1グリッドに位置する、検出長26.0m幅100cm深度40cmで、SD2018と並行して東西に走る。主軸はN77°Wを向く。県道調査区のSD2008に続く溝である。断面は逆台形状またはU字状で、埋土は5層に分層できる。遺物は土師器煮炊具、須恵器片・杯が出土。

不明遺構1号（Ⅱ地区 SX2001）（第168図）

Ⅱ-2区第1遺構面東半部～Ⅱ-4区第2遺構面中央部南側にかけて、Q～G10～2グリッドに位置する浅い落ち込み。東西検出長77.6m南北検出長18.0m深さ20cmを測る。断面はごく浅いレンズ状で、埋土は1層である。Ⅱ-2区では遺構面は1面のみであることから古代・中世の遺構に切られる形で検出したが、Ⅱ-4区では第2遺構面で検出した。出土遺物は古代以前のもに限定されるため、第2遺構面に所属する遺構として扱う。

Ⅱ-4区南端の遺構底面で東西方向の浅い溝を5条、および耕作具痕の集中部を2カ所で検出した。耕作具痕は幅約20cmの扁平な三角形の平面形を呈しており、10～20cmの間で連続する。鋤状の耕作具が想定できる。溝・耕作具痕ともに深度は5～10cm程度で、きわめて浅い。このためSX2001の検出面より上から掘り込まれた可能性もある。

遺物は弥生土器片・鉢、土師器片が出土。157は弥生土器鉢。浅い椀状で、内外面に指頭圧痕を残し、体外面に縦位のヒビを伴う。遺構の年代は、弥生時代後期末に遡る可能性がある。



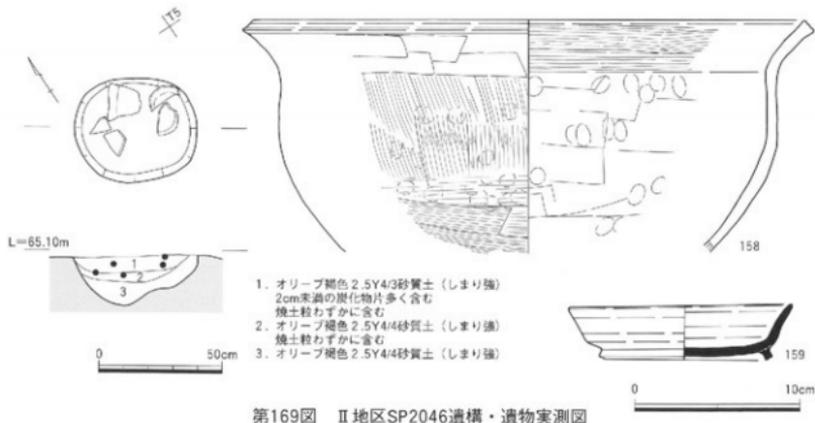
小穴46号 (Ⅱ地区 SP2046) (第169図)

Ⅱ-4区中央部北寄り、S4グリッドに位置する、長径50cm深度20cmを測る楕円形の小穴。断面はU字形で、埋土は3層に分層できる。

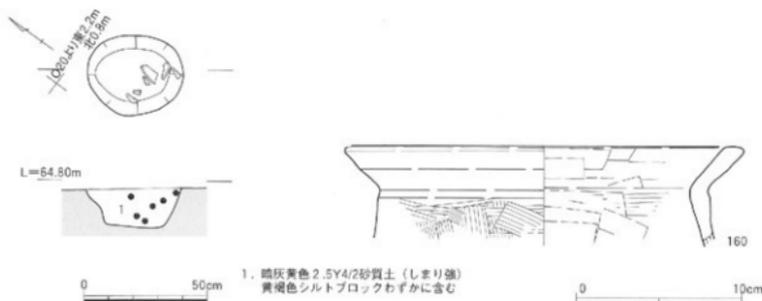
遺物は第1・2層を中心に土師器片・鍋、須恵器杯が出土。158は土師器鍋。体部外面にタテハケ、底部外面にヨコハケ、口縁内面にヨコハケを施し、体部内面は横位の板ナデによって調整。胎土に結晶片岩と砂岩を含む。159は高台付の須恵器杯。平城Ⅲ～Ⅳ期前後、8世紀中頃とみられる。

小穴197号 (Ⅱ地区 SP2197) (第170図)

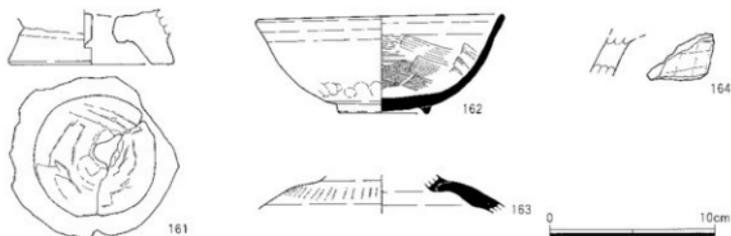
Ⅱ-7区東部、O20グリッドに位置する、径40cm深度17cmを測る不整形形の小穴。断面は不整な逆台形状で、埋土は1層。出土遺物は1点のみで、160は土師器壺上半部。体部外面にハケ、内面に横位の板ナデを施す。7世紀代か。



第169図 Ⅱ地区SP2046遺構・遺物実測図



第170図 Ⅱ地区SP2197遺構・遺物実測図



第171図 II地区第2包含層遺物実測図

〈II地区 第2包含層出土遺物〉(第171図)

161は土師質土器柱状高台杯。回転台成形で、高台内面に板状工具による粗いケズリを施し、のち中央から偏った位置に焼成前穿孔する。胎土はきわめて精良で、軟質焼成。

162は西村系の須恵質土器碗。体部外面に指頭圧痕、内面に細かいハケ状工具による調整を施す。胎土は精良で、結晶片岩を含む。軟質焼成で内外面に炭素が付着。佐藤編年4期新相併行期、13世紀初頭前後とみられる。

163は須恵器壺の肩部。肩部外面に縦位の刺突文を連続させる。

164は滑石裂石鍋で、鋤部直下の体部片と考えられる。木戸編年Ⅲ類に相当するが、12～15世紀代まで幅広く、時期の特定はできない。

〈II地区 第1遺構面〉

Ⅱ-1・2・3区(第172図)

Ⅱ-1・2・3区はII地区の西半部を占める調査区である。遺構面は1面のみである。遺構密度は比較的高く、SA16棟、SG3基、SK160基、SH2基、ST152基、SD7条、SX5基、SP586基を検出している。

掘立柱建物1号(II地区 SA1001)(第173～175図)

Ⅱ-1区西部南側、E-G18・19グリッドに位置し、南西の一部を擾乱に切られる。東西2間(4.0m)南北2間(5.6m)床面積22.4㎡を測り、6基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸N4°Wを向く。柱穴の平面形は円形または不整形で、径35～60cm深度6～39cmを測る。

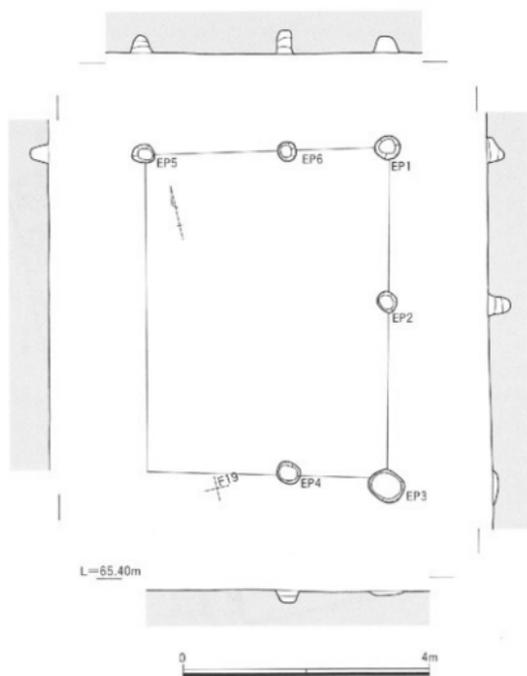
遺物はEP1・2・4・5から、土師質土器片・杯(回転糸切りほか)、凝灰岩製砥石が出土。165・166は凝灰岩製砥石。165はEP2出土で4面を使用。166はEP5出土で2面を使用。遺構の年代は、出土遺物から概ね中世前半期と考えられる。

掘立柱建物2号(II地区 SA1002)(第176図)

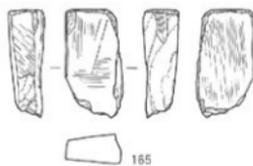
Ⅱ-1区東部北側、H・I2グリッドに位置する。東西2間(3.6m)南北2間(3.0m)床面積10.8㎡を測り、7基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸N84°Eを向く。柱穴の平面形は円形で、径22～50



第172图 I-1·2·3区第1建群面透视图



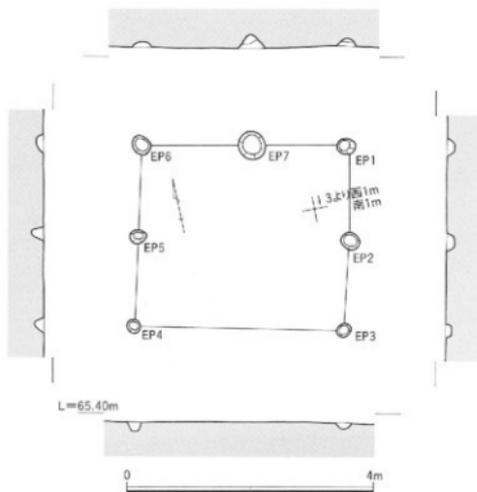
第173图 II地区SA1001遗址实测图



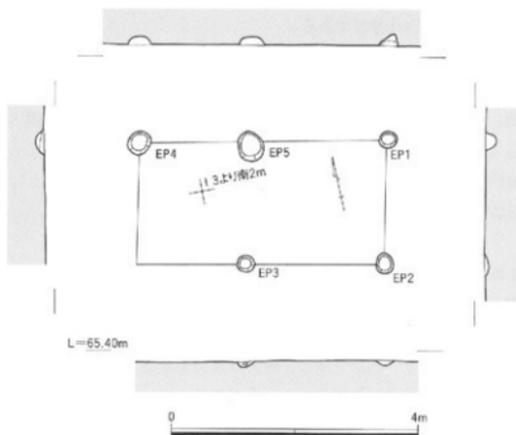
第174图 II地区SA1001 EP2遗物实测图



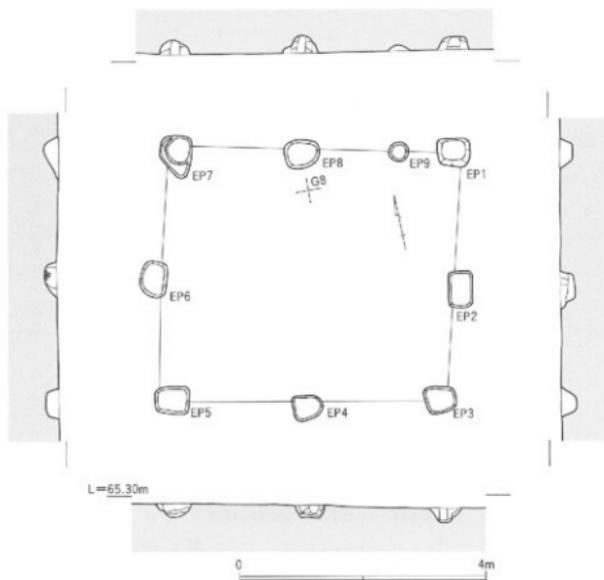
第175图 II地区SA1001 EP5遗物实测图



第176图 II地区SA1002遗构实测图



第177图 II地区SA1003遗构实测图



第178図 II地区SA1004遺構実測図

cm深度10～21cmを測る。出土遺物は皆無である。

掘立柱建物3号（II地区 SA1003）（第177図）

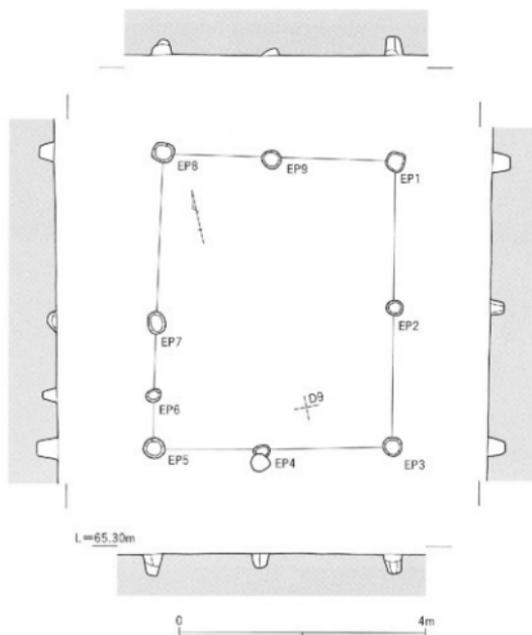
II-1区東部北側、H2・3グリッドに位置する。東西2間（4.1m）南北1間（2.0m）床面積8.2㎡を測り、5基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸N82°Eを向く。南西隅の柱穴を欠く。柱穴の平面形は円形または不整形円で、径27～50cm深度7～18cmを測る。EP3では礎が出土しているが、根石とは考えにくい。遺物はEP4から土師質土器片が出土。

掘立柱建物4号（II地区 SA1004）（第178図）

II-2区西部北側、F・G7・8グリッドに位置する。東西3間（4.8m）南北2間（4.2m）床面積20.2㎡を測り、9基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸N77°Wを向く。柱穴の平面形は隅丸方形または不整形で、一辺30～70cm深度7～29cmを測る。断面は逆台形状またはU字状で、EP5を除いて柱痕とみられる土層が確認でき、EP6では根石が出土。出土遺物は皆無。

掘立柱建物5号（II地区 SA1005）（第179図）

II-2区中央部、C・D8・9グリッドに位置する。東西2間（3.8m）南北3間（4.9m）床面積18.6㎡を測り、9基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸N12°Eを向く。柱穴の平面形は円形または隅丸方



第179図 II地区SA1005遺構実測図

形で、径25～37cm深度12～36cmを測る。断面はおもに逆台形状で、EP1～5・7で柱痕とみられる土層が確認できる。出土遺物は皆無。

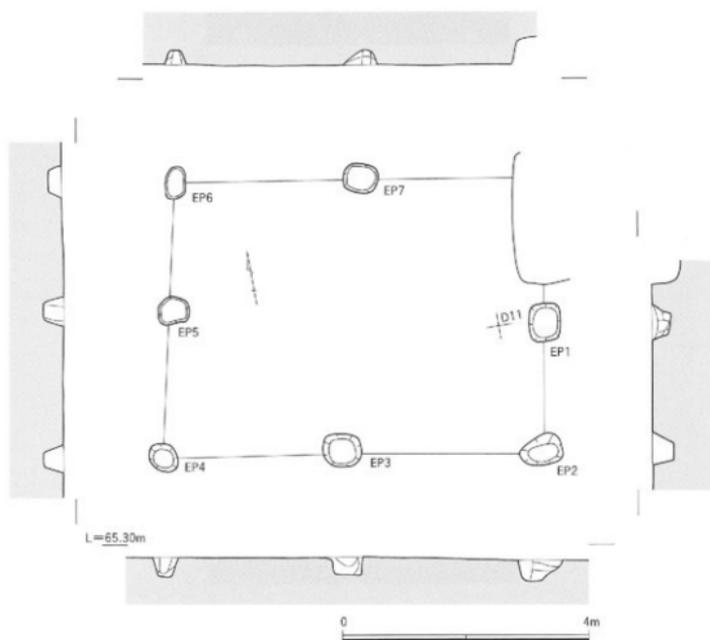
掘立柱建物6号（II地区 SA1006）（第180図）

II-2区中央部、C・D9～11グリッドに位置し、北東隅は遺構に切られる。東西2間（6.2m）南北2間（4.4m）床面積27.3㎡を測り、7基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸N77°Wを向く。柱穴の平面形は隅丸方形または不整形で、一辺50～70cm深度24～34cmを測る。断面は逆台形状で、EP1・2・4～7で柱痕とみられる土層を確認。遺物はEP2・3・5から土師器片（赤彩ほか）が出土。

掘立柱建物7号（II地区 SA1007）（第181・182図）

II-3区西部、B・C17～19グリッドに位置する。西側の一部を試掘坑が切り、南東隅を遺構が切る。東西4間（9.2m）南北2間（3.7m）床面積32.9㎡を測り、14基の柱穴をもつ総柱建物で、建物主軸N83°Eを向く。柱の通りはやや悪い。柱穴の平面形は円形または楕円形で、径18～40cm深度10～54cmを測る。断面は逆台形状かU字状で、EP1～3・9では柱痕とみられる土層が確認できる。

遺物はEP4・5・7・11・13から、土師質土器片・杯・煮炊具・脚部、鉄製品片が出土。167はEP7出土の土師質土器煮炊具脚部の上位。ユビオサエとナアの調整痕が明瞭である。胎土は粗い。



第180図 II地区SA1006遺構実測図

掘立柱建物8号(II地区 SA1008)(第183・184図)

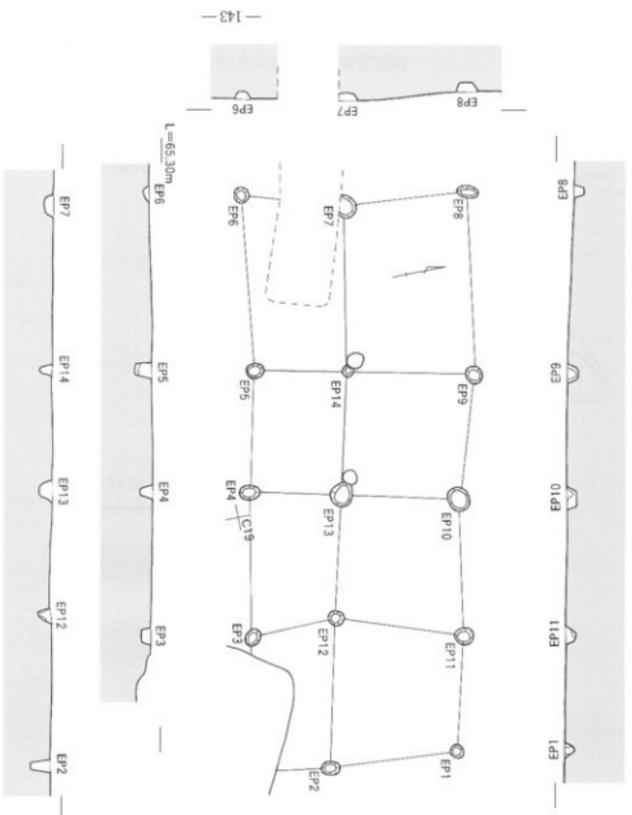
II-3区西部、B・C19・20グリッドに位置する。東西2間(3.7m)南北2間(5.1m)床面積18.9㎡、8基の柱穴をもつ総柱建物で、建物主軸N7°Wを向く。南西隅の柱穴を欠く。柱穴の平面形は円形で、径25~40cm深度6~30cmを測る。断面はU字形で、EP1・3・6・7で柱痕とみられる土層を確認。

遺物はEP2・5~8から、土師質土器片・杯(回転糸切りほか)・煮炊具(格子タタキ)が出上。168~171はEP6出土の土師質土器杯。底部外面に回転糸切り痕を残す。胎土に結晶片岩と絹雲母を含む。ビット中央部の埋土上位で、重ねるように埋置する。柱抜き取り後の祭祀に伴うものか。遺構の年代は、出土遺物から概ね13~14世紀代と考えられる。

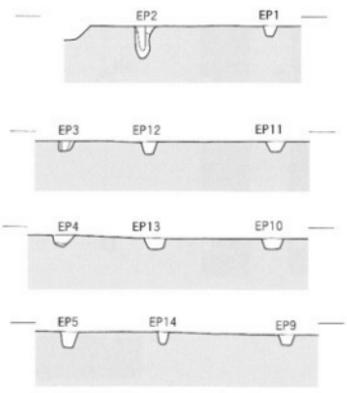
掘立柱建物9号(II地区 SA1009)(第185・186図)

II-3区西部、A・B20・1グリッドに位置する。東西3間(4.3m)南北2間(3.7m)床面積15.9㎡、9基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸N86°Eを向く。柱穴の平面形は円形か不整形円形で、径17~32cm深度11~44cm。断面は逆台形状またはU字形で、EP2・5・7で柱痕とみられる土層を確認。

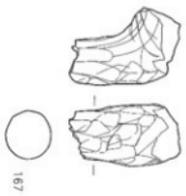
遺物はEP1・4・5・7・9から、土師器片、土師質土器片・杯(回転糸切り)・鉢か、銭貨が出土。



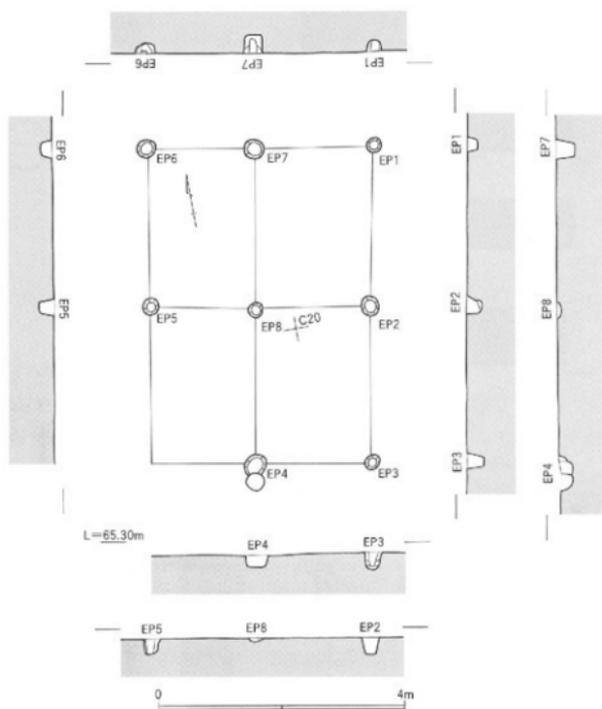
第181图 II地区SA11007通构实测图



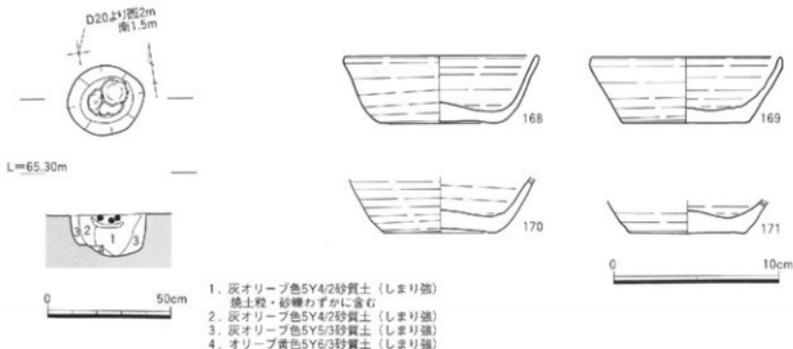
第182图 II地区SA11007 EP7遗物实测图



— 143 —

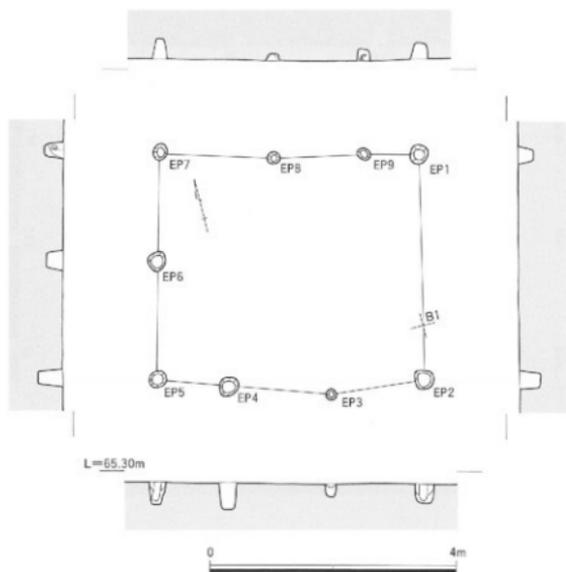


第183図 II地区SA1008遺構実測図

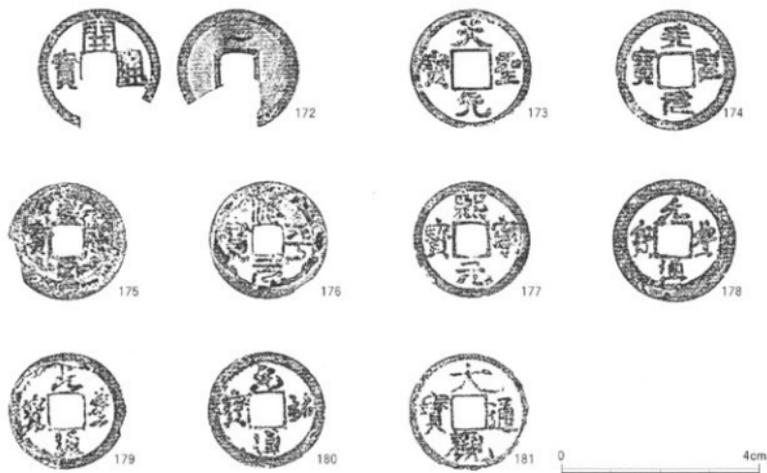


1. 灰オリブ色5Y4/2砂質土 (しまり強)
焼土殻・砂礫わずかに混石
2. 灰オリブ色5Y4/2砂質土 (しまり強)
3. 灰オリブ色5Y6/3砂質土 (しまり強)
4. オリブ黄色5Y6/3砂質土 (しまり強)

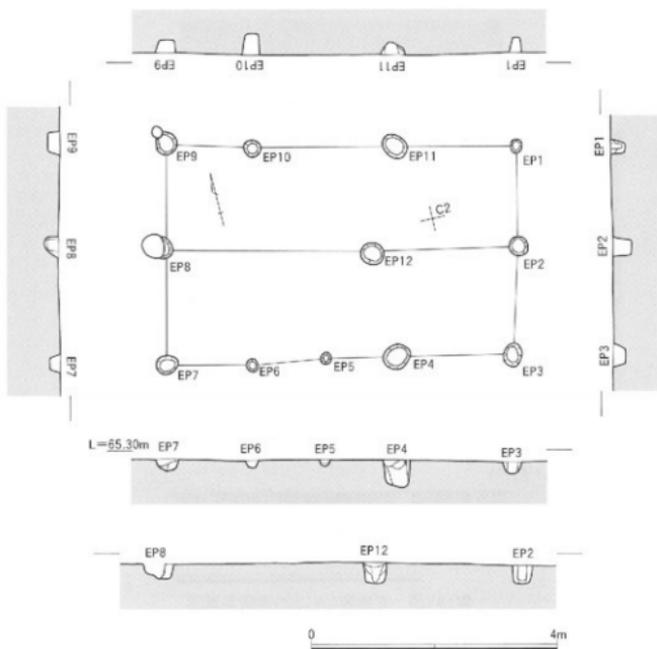
第184図 II地区SA1008 EP6遺構・遺物実測図



第185图 II地区SA1009遺構実測図



第186图 II地区SA1009 EP5遺物実測図



第187図 II地区SA1010遺構実測図

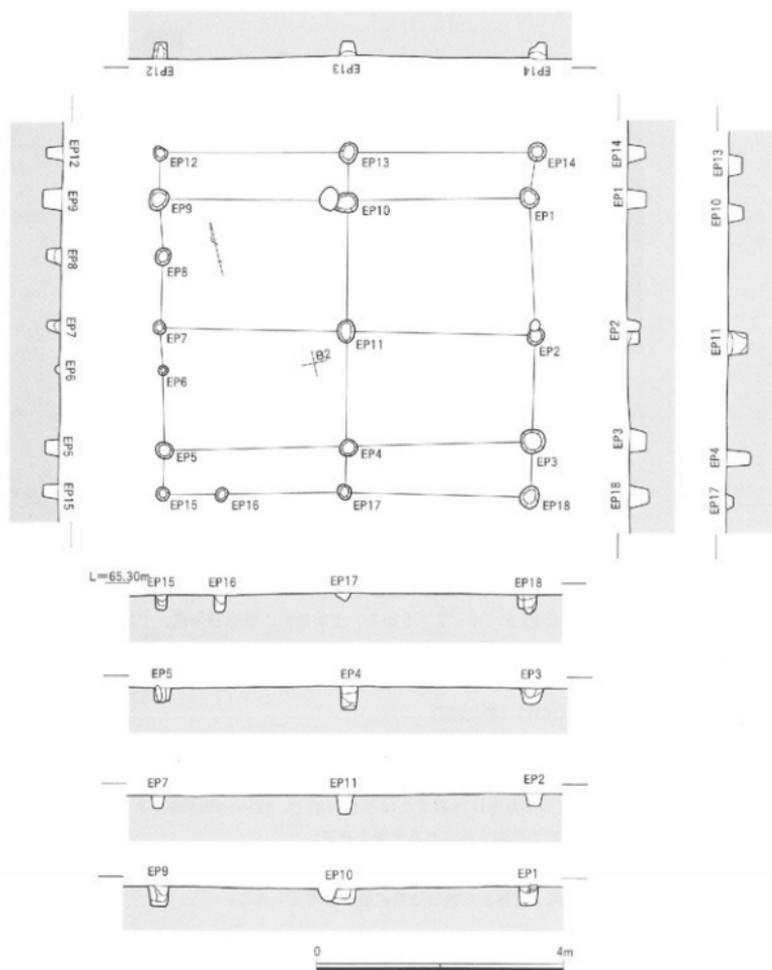
172～181はEP5出土の銅銭である。これらは柱痕最下位から10点まとまって出土していること、柱抜き取り痕がみられないことから、建物建築祭祀に伴って埋納されたと考えられる。別の銭貨が密着痕をのこすものもみられることから、一纏めにして埋納したと考えられるが、布袋や緋銭の紐は確認できない。

172は開元通寶。唐銭で621年初鑄。背に「U」記号（以下「月文」と記述）を鑄出す。やや肉薄。173は天聖元寶の真書体。北宋銭で1023年初鑄。面に密着痕あり。174は天聖元寶の篆書体。北宋銭で1023年初鑄。背に密着痕あり。175は皇宋通寶の篆書体。1039年初鑄で、面背ともに密着痕あり。176は治平元寶の篆書体。北宋銭で1064年初鑄。面背ともに密着痕あり。177は熙寧元寶の真書体。北宋銭で1068年初鑄。面に密着痕あり。178は元豐通寶の真書体。北宋銭で1078年初鑄。179は元豐通寶の真書体。北宋銭で1078年初鑄。面に密着痕あり。180は元祐通寶の真書体。北宋銭で1086年初鑄。面に密着痕あり。181は大觀通寶。北宋銭で1107年初鑄。面に密着痕あり。

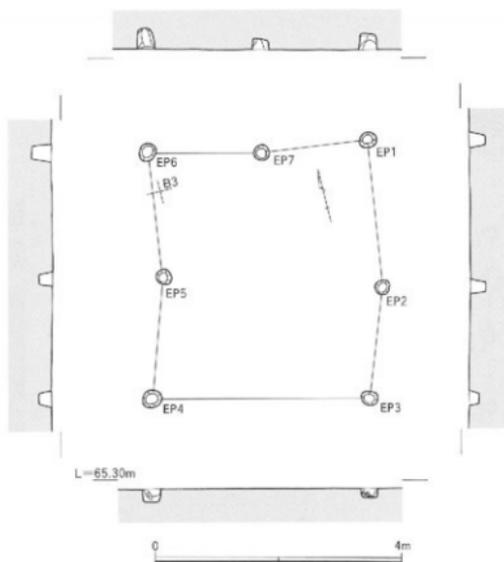
遺構の年代は、出土遺物から概ね13世紀前後と考えられる。

掘立柱建物10号（II地区 SA1010）（第187図）

II-3区西部、B・C1・2グリッドに位置する。東西4間（5.7m）南北2間（3.5m）床面積20.0㎡を測り、12基の柱穴をもつ掘立柱建物で、建物主軸N84°Eを向く。柱穴の平面形は円形または不整



第188图 II地区SA1011遺構実測図



第189図 II地区SA1012遺構実測図

円形で、径18～45cm深度6～46cmを測る。断面は逆台形状かU字形で、EP1～4・8・11・12で柱痕とみられる土層を確認。遺物はEP2～4・7・9から、土師器片、須恵器杯蓋、土師質土器片・杯が出土。

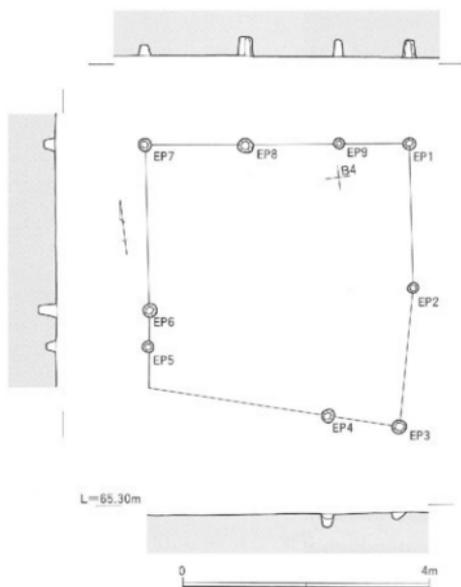
掘立柱建物11号（II地区 SA1011）（第188図）

II-3区西部南寄り、A・B1・2グリッドに位置する。東西2間（6.0m）南北4間（4.1m）床面積24.6㎡（庇部含め南北6間（5.6m）33.6㎡）を測り、18基の柱穴をもつ南北庇付きの掘立柱建物で、建物主軸N83°Eを向く。柱穴の平面形は円形または不整形円形で、径16～40cm深度8～40cmを測る。断面は逆台形状で、EP3・5・12で柱痕とみられる土層を確認。

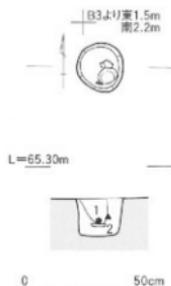
遺物はEP1・3～5・7～10・12～14から、土師質土器片・杯（回転糸切りほか）・皿、須恵質土器控鉢が出土。遺構の年代は、出土遺物から概ね13世紀前後と考えられる。

掘立柱建物12号（II地区 SA1012）（第189図）

II-3区中央部南寄り、A・B2・3グリッドに位置する。東西2間（3.7m）南北2間（4.1m）床面積15.2㎡を測り、7基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸N5°Wを向く。柱穴の通りは悪く、やや歪む。柱穴の平面形はほぼ円形で、径26～33cm深度15～34cmを測る。断面は逆台形状またはU形状で、EP6で柱痕とみられる土層を確認。遺物はEP2・4・6から、須恵器片、土師質土器片・皿が出土。



第190図 II地区SA1013遺構実測図



1. 灰オリーブ色5Y5/3砂質土（しまり強）粗砂わずかに含む
2. 灰オリーブ色5Y4/2砂質土（しまり強）



第191図 II地区SA1013 EP5
遺構・遺物実測図

掘立柱建物13号（II地区 SA1013）（第190・191図）

II-3区中央部南寄り、A・B3・4グリッドに位置する。東西3間（4.6m）南北2間（4.3m）床面積19.8㎡を測り、9基の柱穴をもつ掘立柱建物で、建物主軸N82°Eを向く。南西隅の柱穴を欠く。柱穴の平面形は円形で、径18～25cm深度14～33cmを測る。断面は逆台形状またはU字状で、EP1・5・8で柱痕とみられる土層を確認。

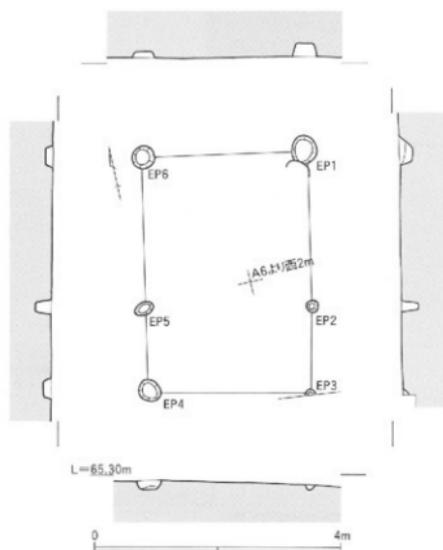
遺物はEP2・4・5から、須臾器臺、土師質土器片・杯・皿（回転糸切り）が出土。182はEP5出土の土師質土器皿。底部外面に回転糸切り痕を残す。柱痕とみられる第1層の下面から出土しており、建築祭祀に伴うものとみられる。遺構の年代は、出土遺物から概ね13～14世紀代と考えられる。

掘立柱建物14号（II地区 SA1014）（第192図）

II-3区中央部南端、T-B5グリッドに位置する。東西1間（2.6m）南北2間（3.9m）床面積10.1㎡、6基の柱穴をもつ掘立柱建物で、建物主軸N8°Wを向く。柱穴の平面形は円形または不整形円形で、径20～40cm深度12～30cmを測る。断面は逆台形状またはU字状である。出土遺物は皆無。

掘立柱建物15号（II地区 SA1015）（第193・194図）

II-3区東部南端、T・A7・8グリッドに位置する。南側の底部分は一歩調査区外に延びる。東西



第192図 II地区SA1014遺構実測図

2間(5.0m)南北2間(3.8m)床面積19.0㎡を測りく底部含め南北4間(5.5m)27.5㎡、13基の柱穴をもつ南北庇付きの側柱建物で、建物主軸N7°Wを向く。柱穴の平面形は概ね円形で、径18~38cm深度20~42cmを測る。断面は逆台形状またはU字状で、EP2・13で柱痕とみられる土層を確認。

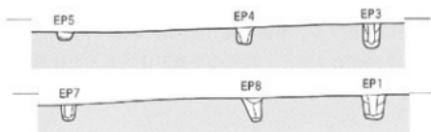
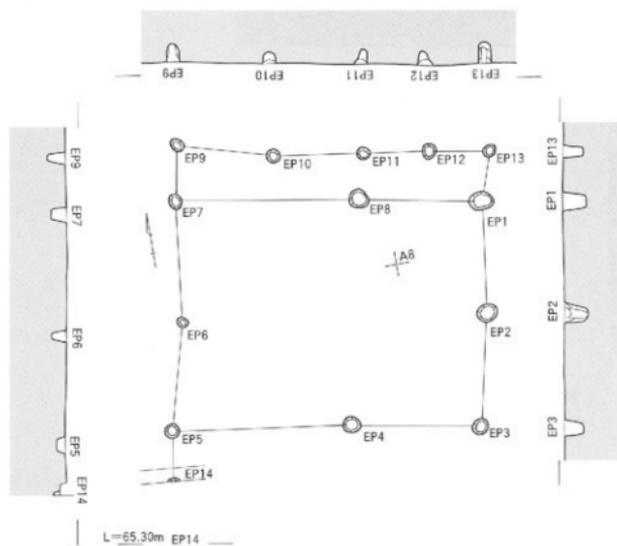
遺物はEP1・4・5から土師質土器杯、鉄製鏝が出土。183はEP5の底部付近から出土した鉄製の鏝である。残存長17.3cm、断面は方形で、頭部と先端部を欠く。

掘立柱建物16号(II地区 SA1016)(第195図)

II-3区東部中央、T・A9・10グリッドに位置する。東西2間(4.0m)南北2間(3.0m)床面積12.0㎡を測り、8基の柱穴をもつ側柱建物で、建物主軸N77°Eを向く。柱穴の平面形は円形で、径20~40cm深度16~32cmを測る。断面は逆台形状またはU字状である。遺物はEP5から土師質土器片が出土。

柵列1号(II地区 SG1001)(第196図)

II-2区中央部、E8・9グリッドに位置する。東西3間(6.0m)、4基の柱穴が「一」字形に列ぶ柵列で、主軸はN86°Eを向く。柱穴の平面形は不整形円形で、径27~45cm深度9~18cmを測る。断面U字状である。出土遺物は皆無である。



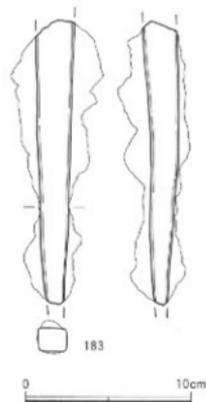
0 4m

第193図 II地区SA1015遺構実測図

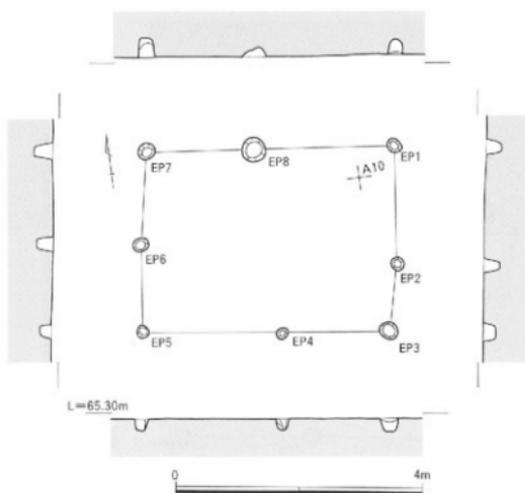


0 50cm

1. 灰オリーブ色5Y4/2砂質土（しまり強）
砂礫わずかに含む
2. 灰オリーブ色5Y5/3砂質土（しまり強）



第194図 II地区SA1015 EP5遺構・遺物実測図



第195図 II地区SA1016遺構実測図

構列2号 (II地区 SG1002) (第197図)

II-2区中央部、E8・9グリッドに位置する。東西4間(5.0m)南北1間(1.7m)を測り、6基の柱穴がL字形に列ぶ構列で、主軸はN80°Eを向く。柱穴の平面形は円形または楕円形で、径35~52cm深度11~58cmを測る。断面は逆台形状またはU字状である。出土遺物は皆無。

構列3号 (II地区 SG1003) (第198図)

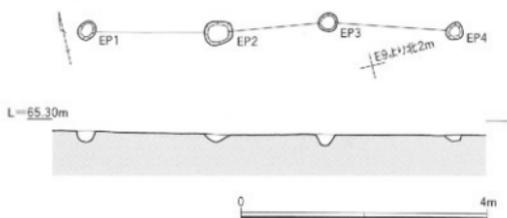
II-3区西部北側、D19・20グリッドに位置する。東西4間(5.8m)、4基の柱穴が「一」字形に列ぶ構列で、主軸はN85°Eを向く。柱穴の平面形は円形で、径20~26cm深度13~24cmを測る。断面は逆台形状またはU字状である。出土遺物は皆無。

土坑7号 (II地区 SK1007) (第199図)

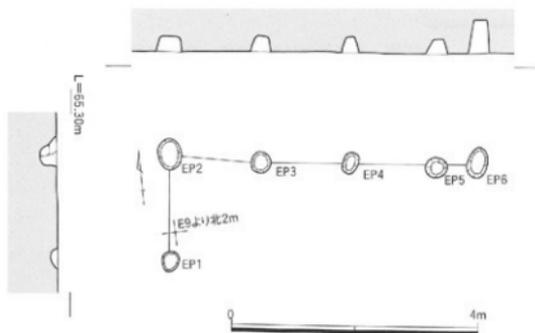
II-1区西部北端、J19グリッドに位置する、長軸112cm短軸85cm深度54cmを測る不整形楕円形土坑。断面逆台形状で、埋土は5層に分層。出土遺物は1点のみで、184は土師質土器羽釜の上半部。鈿部は折り曲げ技法で作り、両端部とも丸く仕上げる。内外面にユビオサエのち板ナアを施す。14世紀代か。

土坑15号 (II地区 SK1015) (第200図)

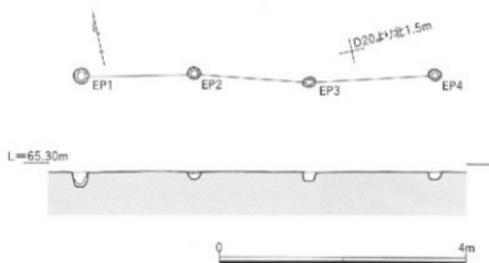
II-1区西部南寄り、G19グリッドに位置する、長軸90cm短軸90cm深度28cmを測る不整形土坑。断面は皿状で、埋土は2層に分層できる。遺物および15~40cmの礫が第1層~第2層上位で出土。遺物は土師質土器片・杯・皿・煮炊具(脚部ほか)が出土している。185は土師質土器皿。底部外面に回転ヘラ



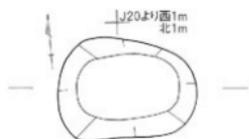
第196图 II地区SG1001遺構実測図



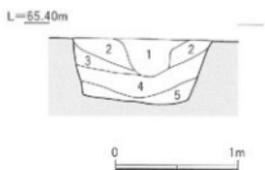
第197图 II地区SG1002遺構実測図



第198图 II地区SG1003遺構実測図



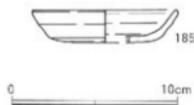
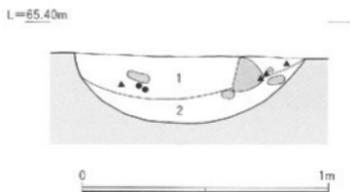
1. 暗灰黄色2.5Y5/2砂質土 (しまり強)
炭化物細片わずかに含む
2. 黄褐色2.5Y5/3砂質土 (しまり強)
3. オリーブ褐色2.5Y4/8砂質土 (しまり強)
4. 暗灰黄色2.5Y5/2砂質土 (しまり強)
炭化物片わずかに含む
5. 黄褐色2.5Y5/4砂質土 (しまり強)



第199図 II地区SK1007遺構・遺物実測図



1. 暗灰黄色2.5Y5/2砂質土 (しまり強)
炭化物片わずかに含む
2. 黄褐色2.5Y5/4砂質土 (しまり強)



第200図 II地区SK1015遺構・遺物実測図

切り痕のち板目痕を残す。遺構の年代は、出土遺物から中世前半期と考えられる。

土坑18号 (Ⅱ地区 SK1018) (第201図)

Ⅱ-1区中央部南端、E・F19グリッドに位置する、長軸106cm短軸68cm深度19cmを測る不整形土坑。断面は不整な逆台形状で、底面は西側に向けて緩やかに落ち込む。埋土は3層に分層できる。遺物は土師器煮炊具、土師質土器杯、瓦が出土している。遺構西側から人頭犬の塚が出土している。186は土師質土器杯。底部外面に回転糸切り痕を残す。内面にわずかに炭素付着。概ね13世紀前後。

土坑28号 (Ⅱ地区 SK1028) (第202図)

Ⅱ-1区中央部、G20グリッドに位置する、長軸136cm短軸56cm深度17cmを測る、不整な楕円形の土坑。主軸はN2°Eを向く。断面は不整な逆台形状で、埋土は2層に分層できる。出土遺物は1点のみで、187は弥生土器甕の底部。外面にタテハケ、内面にヘラケズリを施す。弥生時代後期末とみられる。

土坑30号 (Ⅱ地区 SK1030) (第203図)

Ⅱ-1区中央部、G20グリッドに位置する、長軸98cm短軸64cm深度34cmを測る不整な楕円形土坑。断面は逆台形状で、埋土は3層に分層。遺物は土師質土器片・煮炊具脚部・羽釜、鉄滓が出土。188は土師質土器煮炊具の脚部である。体部との接合面にナデを施す。

土坑46号 (Ⅱ地区 SK1046) (第204図)

Ⅱ-1区中央部、F・G1グリッドに位置し、東側は遺構に切られる。南北75cm東西残存長57cm深度43cmを測る不整形土坑。断面はU字形で、埋土は4層に分層できる。

遺物は埋土最下位に集中し、土師質土器片・煮炊具・羽釜、叩石が出土。189は土師質土器羽釜である。鈎部は折り曲げ技法で作られ、鈎・口縁の端部は丸く作る。鈎部直下に指爪痕が横方向に連続する。体部外面ユビオサエのちタテハケ、底部外面に格子タタキ、内面は横位の板ナデを施す。胎上に泥岩を多く含む。楠井遺跡足釜B類に技法・形状が近似する。14世紀前半頃と考えられる。

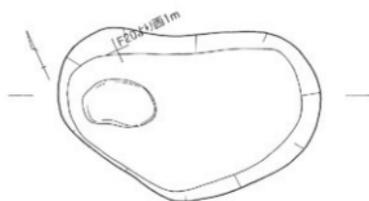
土坑47号 (Ⅱ地区 SK1047) (第205図)

Ⅱ-1区東部中央、F1グリッドに位置する、長軸185cm短軸128cm深度34cmを測る不整形土坑。断面は逆台形状で、埋土は7層に分層できる。

遺物は遺構西側の第3層に集中し、土師質土器片・杯(回転ヘラ切りほか)・皿、銭貨、滑石製石鍋片が出土。190は土師質土器皿である。底部外面に回転糸切り痕を残す。191は土師質土器杯である。底部外面に回転ヘラ切り痕のち板目痕を残す。192は滑石製石鍋の体部片である。内外面に石鍋制作時の調整痕である横位のケズリ痕を残す。破面に穿孔の痕跡がある。型式等は不明。193は銅銭で、聖宋元寶の真書体。北宋銭で1101年初鑄。遺構の年代は、出土遺物から概ね13世紀前後と考えられる。

土坑89号 (Ⅱ地区 SK1089) (第206図)

Ⅱ-2区中央部、D・E9・10グリッドに位置する、長軸232cm短軸200cm深度40cmを測る方形土坑。断面は方形で、埋土は5層に分層できる。形状や土層から土壌累の可能性がある。

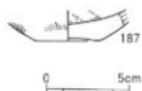


L=65.30m



1. 暗灰黄色2.5Y5/2砂質土 (しまり強)
 2. 黄褐色2.5Y5/3砂質土 (しまり弱)
 3. 黄褐色2.5Y5/4砂質土 (しまり弱)
- 砂性強い

第201図 II地区SK1018遺構・遺物実測図

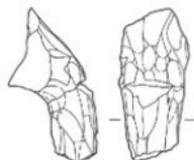


L=65.40m

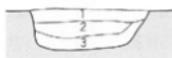


1. 暗灰黄色2.5Y5/2砂質土 (しまり強)
2. オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土 (しまり弱)

第202図 II地区SK1028遺構・遺物実測図

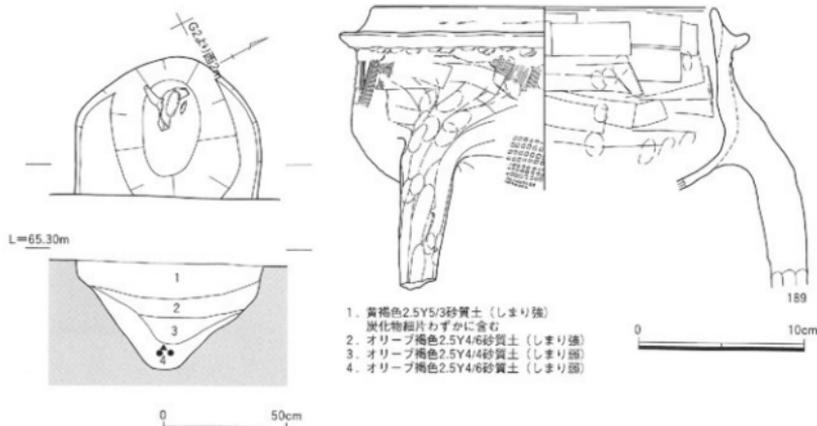


L=65.40m



1. 暗灰黄色2.5Y5/2砂質土 (しまり強)
 2. オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土 (しまり弱)
 3. オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土 (しまり弱)
- 砂性強い

第203図 II地区SK1030遺構・遺物実測図



第204図 II地区SK1046遺構・遺物実測図

出土遺物は1点のみで、194は土師器甕。長胴形の体部片で、外面上位タテハケ、下位ヨコハケ、内面ユビオサエのち板ナデを施す。胎土に結晶片岩・砂岩・絹雲母を含む。

土坑130号 (II地区 SK1130) (第207・208図)

II-3区西部南端、B・C19・20グリッドに位置する、長軸285cm短軸205cm深度23cmを測る不整形土坑。断面は不整な逆台形状で、埋土は2層に分層。第1層で人頭大の礫が散在するが、配置に規則性は見いだせない。礫の一部に被熱痕あり。

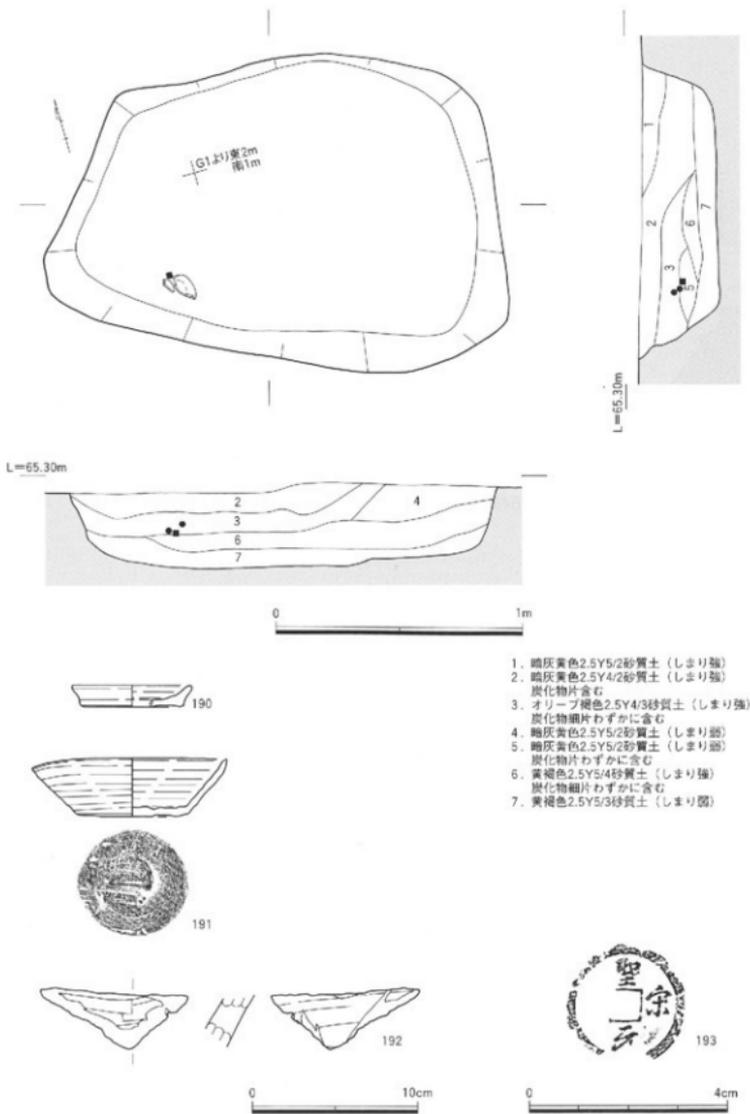
遺物は須恵器甕、土師質土器片・杯(回転糸切り)、瓦質土器脚部、瓦質平瓦、被熱片岩礫が出土。195～197は土師質土器杯である。いずれも底部外面に回転糸切り痕を残し、197は板目痕を伴う。195・197は内面の一部に煤附着。胎土は197に砂岩を含むとみられる。198は瓦質土器脚部。外面は丁寧な板ナデを施す。外面は炭素吸着良好。瓦質羽釜に取り付くものと考えられる。畿内山城地域からの搬入品である可能性が高い。199は瓦質平瓦。器面は板ナデにより調整し、凸面に離れ砂を残す。炭素吸着なし。胎土に結晶片岩とみられる粒子を含み、離れ砂に結晶片岩を含む。

遺構の年代は、出土遺物から13世紀代を中心とすると考えられる。

土坑131号 (II地区 SK1131) (第209図)

II-3区西部南端、B19・20グリッドに位置する、長軸260cm短軸155cm深度7cmを測る不整形土坑。断面は浅い皿状で、埋土は1層。遺構検出面より上で散在する犬頭大の礫を検出。一部に被熱痕あり。

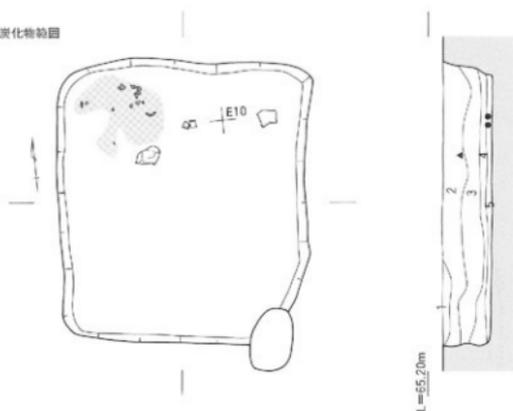
遺物は土師質土器片・杯(回転糸切りほか)・煮炊具脚部が出土している。200は土師質土器杯で、底



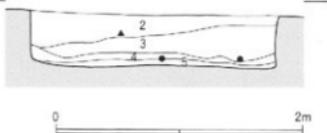
1. 暗灰黄色2.5Y5/2砂質土（しまり強）
2. 暗灰黄色2.5Y4/2砂質土（しまり強）
炭化物片含む
3. オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土（しまり強）
炭化物細片わずかに含む
4. 暗灰黄色2.5Y5/2砂質土（しまり弱）
5. 暗灰黄色2.5Y5/2砂質土（しまり弱）
炭化物片わずかに含む
6. 黄褐色2.5Y5/4砂質土（しまり強）
炭化物細片わずかに含む
7. 黄褐色2.5Y5/3砂質土（しまり弱）

第205図 II地区SK1047遺構・遺物実測図

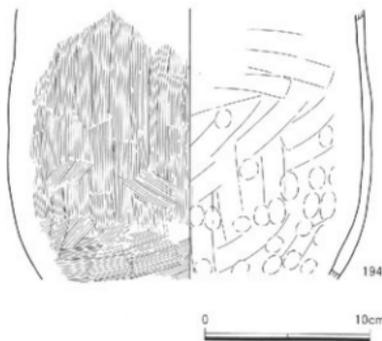
掘削部：焼土・炭化物跡目



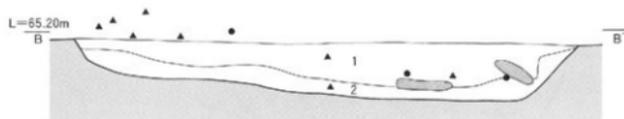
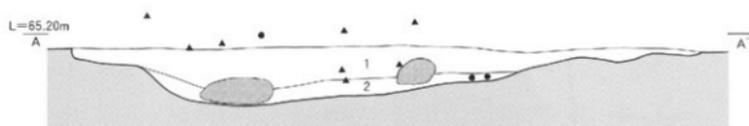
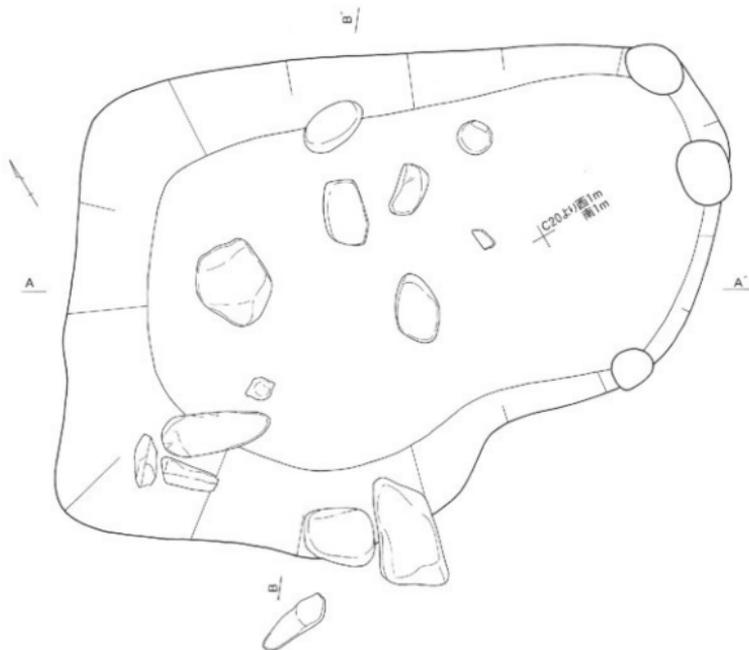
L=65.20m



1. オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土（しまり強）
暗灰黄色砂質土ブロックやや多く含む
2. オリーブ褐色2.5Y4/4砂質土（しまり強）
暗灰黄色砂質土ブロック含む
3. オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土（しまり強）
暗灰黄色砂質土ブロック含む
4. オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土（しまり弱）
5. 暗灰黄色2.5Y5/2砂質土（しまり弱）



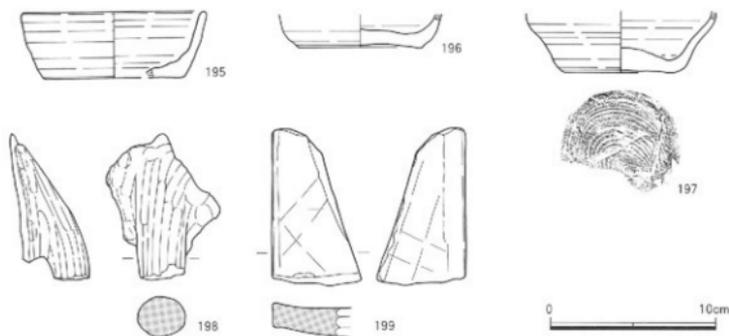
第206図 II地区SK1089遺構・遺物実測図



1. 暗灰黄色2.5Y5/2砂質土 (しまり強)
 2. 暗灰黄色2.5Y5/2砂質土 (しまり強)
- 浅黄色砂質土ブロックわずかに含む

0 1m

第207図 II地区SK1130遺構実測図



第208図 II地区SK1130遺物実測図

部外面に回転糸切り痕を残す。13世紀前後とみられる。

土坑147号（II地区 SK1147）（第210～212図）

II-3区東部、T10グリッドに位置する、長軸256cm短軸243cm深度30cmを測る、不整な隅丸方形土坑。断面は皿状で、埋土は2層に分層できる。遺構西側の土層下位を中心に10～50cm大の砂岩・片岩礫が集中。平面的には方形を意識したように見えるが、面は揃わない。

遺物は須恵器片、土師質土器片・杯（回転糸切り・回転ヘラ切り）、瓦質土器羽釜、東播系須恵質土器捏鉢が出土。201・202は土師質土器杯の底部である。201は底部外面に回転糸切り痕を残し、202は回転ヘラ切りのち板目痕を残す。202の胎土に結晶片岩が目立つ。203は瓦質土器羽釜。鈿部は貼り付けで、口縁・鈿端部はともに方形に作る。体部外面は指頭圧痕のち板ナデ、内面は横位の板ナデを施す。炭素吸着は外面良好、内面不良。畿内山城地域からの搬入品と考えられる。204は東播系の須恵質土器捏鉢である。口縁端部の肥厚は弱い。回転台成形で、内面は板ナデまたは指ナデ調整。森田編年第II期第2段階前後、12世紀末～13世紀初頭とみられる。遺構の年代は、出土遺物から13世紀代と考えられる。

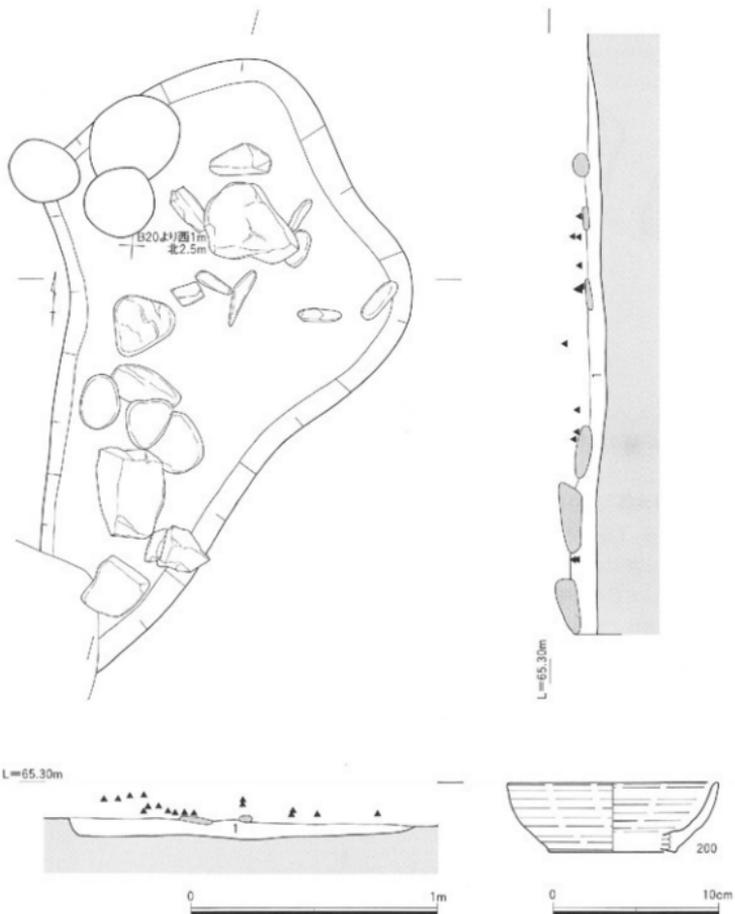
土坑158号（II地区 SK1158）（第213図）

II-3区東端部、S・T12・13グリッドに位置し、北西を遺構に切られる。長軸残存長117cm短軸98cm深度8cmを測る、楕円形土坑。断面は浅い皿状で、埋土は1層。

遺物は土師質土器片・杯（回転糸切り・回転ヘラ切り）が出土。205は土師質土器杯で、底部外面に回転ヘラ切りのち板目痕を残す。胎土に結晶片岩を含む。13世紀前後と考えられる。

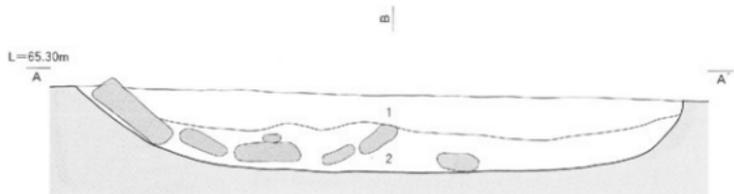
焼土坑1号（II地区 SH1001）（第214図）

II-1区中央部北寄り、H1グリッドに位置する、長軸250cm短軸65cm深度8cmを測る、不整な長楕



1. 灰オリーブ色5Y5/3砂質土（しまり強）
 暗灰黄色砂質土ブロック多く含む

第209図 II地区SK1131遺構・遺物実測図



1. 灰オリーブ色S/Y5/2砂質土 (しまり強)
淡青色シルトブロックわずかに含む
2. 灰オリーブ色S/Y5/2砂質土 (しまり強)
炭化物片・焼土ブロックわずかに含む
砂礫わずかに含む



第210図 II地区SK1147遺構実測図(1)